

フェルガナ盆地のウイグル人と越境の記憶

新免康・河原弥生編



東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター

NIHU プログラム イスラーム地域研究 東京大学拠点

2010

フェルガナ盆地のウイグル人と越境の記憶

新免康・河原弥生編

整理・編集・解説：新免康・河原弥生
日本語訳作成：今堀恵美・河原弥生



東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター
NIHU プログラム イスラーム地域研究 東京大学拠点

2010

はじめに

中央ユーラシアに居住する民族であるウイグル人の社会は、中国・新疆ウイグル自治区を中心としつつも、カザフスタン共和国、ウズベキスタン共和国、クルグズ共和国など、国境を越えた旧ソ連領中央アジア地域に広域的に分布している。これら中央アジアにおけるウイグル人社会は、主に新疆ウイグル地域からの移住によって形成されたものである。その地域社会の形成と変容の具体相を明らかにすることは、近現代における中央アジアの歴史の変動にアプローチする上でも興味深い作業であると考えられる。しかし、これらウイグル人社会のうち、とくにフェルガナ盆地のウイグル人居住地域の歴史的様相、とくにその形成・展開をもたらした人的移動の実態については、先行研究による知見が豊富とはいえない。他方、19～20世紀のフェルガナ盆地の歴史的状況に関しては、近年、文書史料や実地調査で得られたデータの活用などに基づき、研究が著しい進展を見せているけれども、盆地内諸集団相互の関わりや、周辺諸地域との広域的な地域間関係など、考究を深めるべき領域を多く残している。

本書は、上記のような問題関心を踏まえた上で、フェルガナ盆地のウイグル人居住地域における調査研究の一環として2003年、2004年、2006年の3回にわたり実施された、ウイグル人住民を対象とするインタビューを、音声データにしたがって記録したものである。インタビューを音声記録データから文字テキスト化したものと、それらを日本語に全翻訳したものの、および解説から構成される。インタビュー内容は、おもに各住民自身もしくはその先祖たちの、中国領新疆のカシュガル地域からフェルガナ地域への移動（もしくは逆方向の移動）の経緯に関わる記憶を軸としている。

なお、当該インタビュー自体、手法なども含めいわば素人仕事の的なもので、十分な結果が得られたとは到底言い難い面がある。稚拙で不首尾な点について、ご容赦たまわれれば幸いである。ただ、一部には有用なデータも含まれていると判断されるところから、直接的なデータ提示に向けて作業を進め、ここで公開する次第である。

本書は、NIHU プログラムイスラーム地域研究東京大学拠点における研究の一環として出版されるものである。その過程において、同拠点代表の小松久男教授と事務担当の清水由里子さんより格別のご配慮を賜った。また、ウズベク語の音声データからの文字起こしは、ムニサ・バフロノワさんとフサン・ナスルッラエフさんにお願いし、エルガシュ・ウマロフ先生とバフティヤール・ババジャノフ先生にはウズベク語テキストのご校閲の労を賜った。記して感謝の意を表したい。

目 次

はじめに

凡例	1
解説	3
1. インタビューおよび本書の成り立ち	3
2. カシュガル地域－フェルガナ盆地間のウイグル人移住の歴史的概要	5
3. 本インタビュー・データの特徴	8
I インタビューの日本語訳	13
1. 2003年8月6日　クルグズ共和国オシュ州カラスー郡	15
2. 2003年8月10日　ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡	32
3. 2004年8月30日　ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡	55
4. 2006年8月4日　ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡	68
II インタビューの文字テキスト（ウズベク語）	103
1. 2003年8月6日　クルグズ共和国オシュ州カラスー郡	105
2. 2003年8月10日　ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡	119
3. 2004年8月30日　ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡	140
4. 2006年8月4日　ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡	153

凡 例

1. 日本語訳文において説明等を加える際の括弧は、下記のような方式による。
 - (1) 日本語訳文の文意の理解を助ける上で原文にない語句・文言を補う場合、そのための語句・文言を〔 〕内に入れる。
 - (2) 訳文中の語を訳文にない語句・文言で説明する場合、また訳語についてその原文におけるカタカナ表記を併記する場合は、いずれも説明される語句の後ろの（ ）内にそのための語句・文言を入れる。
 - (3) インタビューの発話内容に含まれない、インタビューの場における状況の説明については、＜ ＞内に入れる。

2. 日本語訳部分およびウズベク語テキスト部分において、個人情報につながる人名・地名を表記する場合は、下記のような方式により記号で表記する。
 - (1) 人名
 - ①インタビューの質問者については、インタビューすべてにおいて Z で表記する。各インタビュー内に複数の質問者が存在する場合は、Z1、Z2、Z3、…というように、Z の後に順次数字を付すことにより人物を区別して表記する。Z の後の数字は、インタビューごとに改めて付す。
 - ②インタビューの回答者については、インタビューごとに A、B、C、…というようにアルファベットの太文字により記号を付ける。各インタビューにおいて複数の回答者がいる場合は、A1、A2、A3、…というように、各インタビューに固有のアルファベット記号の後ろに順次数字を付すことにより、人物を区別して表記する。ただし、X に当たる人物については、情報提供者として他インタビューにも頻繁に現れるので、統一的に X という記号により表示する。
 - ③インタビューの発話中に登場する回答者の関係者については、インタビューごとに、Aa、Ab、Ac、…というように、そのインタビューに固有のアルファベット記号の後ろに順次小文字アルファベットを付すことにより、人物を区別して表記する。
 - ④発話中に現れた人名の記号には下線を付す。
 - (2) 地名
 - ①インタビューの発話中に登場する、話し手に関わりのある地名については、インタビューごとに、AA、AB、AC、…というように、そのインタビューに固有のアルファベット記号の後ろに順次大文字アルファベットを付すことにより、地名を区別して表記する。
 - ②記号で表記された地名は { } 内に入れる。

3. 日本語訳部分およびウズベク語テキスト部分において、発話者の話がある程度以上の長さになり、複数の話題を取り上げている場合においては、適宜段落分けを行う。
4. テキスト部分におけるウズベク語の表記方式は、現在のウズベキスタン共和国におけるローマ字表記の方式に拠った。

解 説

新免康・河原弥生

1. インタビューおよび本書の成り立ち

ウイグル人居住地区における当該聞き取り調査の基本的な目的は、フェルガナ盆地における地域社会の形成と変容の具体的な様相に関する知見を得るための初歩的な作業の一環として、とくにカシュガル地域からフェルガナ盆地への移動に関わる、フェルガナ盆地在住の個々のウイグル人の歴史的な経験もしくは歴史的記憶に関するデータを取得することであった。具体的には、その人自身がこのような移住の経験者の場合、本人のカシュガル地域における歴史的な経験や見聞、カシュガル地域からフェルガナ盆地への移住の理由、経緯、移動方法、フェルガナ盆地移住後の生活経験などに関するデータの取得であり、本人がフェルガナ盆地出身の在住者の場合は、カシュガル地域からフェルガナ盆地へと移住した先祖とその時期の可能な限りの特定、およびその先祖の移住の理由や経緯に関する歴史的な記憶、および移住後の状況などに関するデータの取得であった。このインタビューを含むフェルガナにおける実地調査自体は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A・研究課題「中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究」とシルクロード学研究センター課題研究「フェルガナとカシュガルのイスラーム聖地」の枠で実施されたものである。

インタビューが実施された場所と時期は下記の通りである。

- ・クルグズ共和国領のウイグル人居住地区

2003 年 8 月 6 日

- ・ウズベキスタン共和国のウイグル人居住地区

2003 年 8 月 10 日

2004 年 8 月 30 日

2006 年 8 月 4 日

上記のうち、クルグズ共和国領のウイグル人地区においては、村の文化センターにおいて、インタビュー調査実施者が中国領新疆カシュガル地域から移住した年配者を探し、2 名よりインタビューを行った。また、ウズベキスタン共和国領におけるインタビューは、時間的には短いものの、3 年間にわたり総勢 12 名のウイグル人住民の方々を対象としたものである。クルグズ共和国領に比べ、選択した主なインタビュー地たるウズベキスタン領のウイグル人居住地区は、ウイグル人居住人口が多く、またインタビューの対象となる人たちへの仲介者

となるべき好適な協力者（情報提供・案内）が得られるなど調査者側の条件も整っていたので、インタビューの規模も幅広いものとなった。インタビューの対象となった住民たちは、当該地域在住のウイグル人知識人である X 氏の尽力により、ウイグル人地区の長老に当たる年配者たちの中から、インタビューに適していると判断された人たちを選び出し、基本的に対象者の自宅を調査者が訪問する形、あるいはインタビューが行われている宅に、インタビュー対象者に来てもらうという形にて行われた。対象者の選択においては、男女比率や学歴・職歴などについてのバランスが当初より考慮されたわけではない。したがって、何らかの偏りが生じている可能性が存在するとともに、男女比については結果的に男性優位となった。

インタビューの様態としては、おもに河原弥生が新免康と質問事項・内容等の調整を行いつつウズベク語でインタビューの対象者とやりとりを行い、ノートするという形をとった。あわせて、可能な限りその一部始終について、インタビューの場にあるテーブル上に置かれた IC レコーダによって記録を行った。ただし、機器操作の過程において結果的に録音データから漏れてしまった部分もある。

このように記録された音声データについて、まず、フサン・ナスルッラエフさんとムニサ・バフロノワさんに文字テキスト化作業をしていただくとともに、それらを基に初歩的な検討を加えた。これらの作業は、部分的に、中央大学政策文化総合研究所の「中央ユーラシア総合研究」プロジェクト（代表：梅村坦教授）と、前述の科研費研究課題「中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究」のなかで実施された。そのうえで、今堀恵美と河原弥生の手によりウズベク語の文字テキストを日本語に翻訳する作業が行われた。

われわれは、これらのインタビュー・データについて、イスラーム地域研究東京大学拠点の研究の一環として、データそのものの総体的な整理・整形を進めるとともに、データ内容を基に、フェルガナ盆地とカシュガル地域という、パミールをまたぐ両地域をめぐる近現代の歴史的変動の様相と歴史的記憶について検討を加えつつある。本書は、その第一段階として、本インタビューのデータを、文字化された一次データとして提示することを主たる目的とするものである。出版に際して、上述の文字テキストについて、音声データとのさらなる対照を行って必要な改訂を加え、可能な限り精確を期すとともに、エルガシュ・ウマロフ先生とバフティヤール・ババジャノフ先生に校閲をお願いした。その上で、そのテキストと対照する形で、日本語訳についても逐語的な見直し作業を行い、改訂訳を作成した。

本書におけるデータ提示のあり方に関する基本的方針としては、インタビューのやり取りに関する記録が忠実に再現されることを目指した。原則として、文脈を整えるなどのための整理・省略等を控えた。したがって、質疑応答のやりとりにおける無駄な反復、行き違いや言い間違い、歴史的な事実関係に照らしての錯誤、なども含まれている。これは、恣意的な

加工を避け、データとしての一次性を確保しようとしたためである。必要な箇所には、注により訳文に説明を加えた。ただし、編集のプロセスにおいて、必要な整形を行うとともに、一定の加工を加えている。とりわけ、インタビューの質問者と回答者双方および回答者の先祖名など個人データとなる人名と、回答者とその先祖・子孫に関連する地名を記号で表記するとともに、個人を特定できるようなプライバシーに関わるデータを含む部分を基本的に削除した。また、回答者からの逆質問とそれに対する質問者側の応答などにおいて、インタビューの軸となるテーマから逸脱する談話部分を、提示対象から外した。なお、質問者が複数人であり、また回答者とともに多数の人が同席している場合も多々あり、同時にいくつかの会話が進行するなどの理由で、録音からすべてを復元できていない部分がある、という点についても付言しておきたい。

文字化されたテキストは、一律にウズベク語の現在のローマ字正書法に基づいて表記されている。これは、インタビューの質問者（聞き手）が基本的にウズベク語を使用したこと、文字テキスト化作業の担当者がウズベク語の話者であること、などの事情から便宜上現代ウズベク語の公式的な正書法にしたがうという原則に沿った表記に統一したものである。したがって、本テキストは、フェルガナ在住ウイグル人の使用する言語に関する言語学的見地からのデータとしては、ある種の不備をとまなう可能性がある。この点についてご理解いただければ幸いである。

2. カシュガル地域－フェルガナ盆地間のウイグル人移住の歴史的概要

フェルガナ盆地のウイグル人社会は、18世紀から20世紀に至る歴史過程において、ウイグル人の中心的な居住地域である現在の中国・新疆ウイグル自治区に当たる地域からの移住によって形成されたとされる。ウイグル人の移住は、文献資料に基づく限り、特定の歴史的条件に基づく複数回の移動から構成されており、清朝－コーカンド・ハーン国、清朝－ロシア帝国領、中華人民共和国－ソ連という、それぞれの国家のマイノリティとして、それら国家の境界を越える、まさに「越境」によってなされたものであることを考慮するとき、注目に値する側面を具えていると言えるであろう。しかし、このようなフェルガナ地域に居住するウイグル人についての研究は、ソ連時代における言語学的な調査研究¹、19世紀後半期の状況に関するアブレト・カマロフの実証的研究²、移住者の移住時期や人数などについて具体

¹ Садвакасов, Г.С., *Язык уйгуров ферганской долины*, Алма-Ата: Наука Каз.ССР, 1, 1970, 2, 1976. また、近年の言語学的調査研究として、菅原睦「ウイグル語フェルガナ方言について」林徹・梅谷博之編『チユルク系諸言語における接触と変容のメカニズム 研究調査報告』(CSEL, No.6)、2004年)がある。

² カマロフは、新疆ムスリム反乱の終息時におけるロシア領中央アジアへの移動の具体的状況について、ロシア帝国側の文書史料を利用してアプローチしている (Камалов, А.К., «Миграция населения

的なデータを収集して検討したセルゲイ・アバシンの考究³などがあるが、概して豊富とはいえない。

このような状況に鑑み、インタビュー・データを提示する前提として、上記の先行研究も参照しつつ、まず文字資料によって跡付けることのできるカシュガル地域からフェルガナ地域への移住の歴史的経緯の概要について述べておきたい。

文字資料に基づけば、18世紀半ばの清朝による新疆征服以降、特定の政治的状況を背景とする、カシュガル方面からフェルガナ盆地への移住の痕跡がいくらか見出される。そのかなりの部分に、いわゆるカシュガル・ホージャ家の清朝領への「聖戦」⁴が関わっているといえる。時系列的に整理して提示すると、下記ようになる。

(1) 清朝の新疆征服時

18世紀半ばに清朝が新疆を征服した際に、フェルガナ盆地方面に逃れた住民がいたと考えられる。清軍の新疆南部への直接的な進出以前の段階において、清朝の後援の下にカシュガル地域で政権を掌握し、その後清朝と敵対して敗北したカシュガル・ホージャ家白山党の支持者などが含まれていたと推測される。

(2) ウシュ・トゥルフアン反乱の際

パフタアーバード郡の郷土史の叙述によれば、清朝による新疆統治の初期、1765年にウシュ・トゥルフアンにおいて発生した反乱⁵が清朝によって鎮圧される際、迫害を逃れるためにフェルガナ盆地に移動した住民がいたと言われる⁶。しかし、清朝側史料によってこの事実を裏付けることはできない⁷。

(3) ジャハーングール・ホージャの事件の際

清朝の新疆征服時に敵対し、逃走先のバダフシャンで客死したカシュガル・ホージャ家の指導者ブルハーン・アッディーンの子孫とされるジャハーングール・ホージャが、滞在先のコーカンド・ハーン国領からカシュガル方面に進出し、1826年から27年にかけてカシュガル地域においてしばらく権力を掌握した。これを清朝が制圧した際に⁸、数千人規模のカシュ

кашгарии в ферганскую долину после падения кашгарского эмирата в конце XIX в.», Камалов, А.К.(ed.), *Уйгуроведение в Казахстане: традиции и новация. материалы международ. Конфер.* Алматы, 2006)。

³ アバシンの、中央アジアにおける茶の浸透について検討した論考の中で、フェルガナ盆地への茶の伝来に新疆出身者の移住が深く関わっていたことを指摘しつつ、移住者の具体的な時期や人数などについて論じている (Абашин С.Н., «Чай в Средней Азии: история напитка в XVIII-XIX веках», *Традиционная пища как выражение этнического самосознания*, Москва: Наука, 2001)。

⁴ 詳しくは、佐口透『十八—十九世紀東トルキスタン社会史研究』東京：吉川弘文館、1963年、第II、VII、VIII章を参照。

⁵ 同上書、pp. 170–177。

⁶ Jura Quldosh, *Mustaqillik Nuri bilan (Pakhtaobod Tumani tarikh)*, Andijon, 1996, p. 8.

⁷ 佐口前掲書、pp. 176–177を参照。

⁸ ジャハーングールは、1828年1月に清朝によって捕縛され、北京に連行されて処刑された。

ガル地域住民がフェルガナ方面に移動したという⁹。

(4) ムハンマド・ユースフ・ホージャの事件の際

やはりカシュガル・ホージャ家のムハンマド・ユースフ（ジャハーンギール・ホージャの兄）が1830年にカシュガル方面に侵入した際、コーカンド・ハーン国の軍勢力もそれとともに進出し、カシュガルを一時期攻略した。清朝側史料によれば、コーカンド軍が撤退する際に、脅迫されて同行したウイグル人が約2万人余り、アンディジャンやタシュケントなどに移動し、分散・居住したと言われる¹⁰。

(5) 「7人のホージャたち」の事件の際

1840年代に Катта・ハーン・トラがコーカンド領内からカシュガル地域に進出し、清軍によって敗走させられた際に、カシュガルおよびヤルカンド等の地域に在住する多数の地域住民が清軍の報復を恐れて Катта・ハーンに追随し、その一部がフェルガナ盆地の東部オシュ方面に流入したという¹¹。

(6) 19世紀後半の大規模ムスリム反乱の鎮圧時

1864年に新疆で大規模なムスリム反乱が勃発すると、コーカンド・ハーン国からカシュガル方面に進出したヤークープ・ベグによって政権が樹立されたが、やがて清朝によって打倒される。1877年12月に清朝によってカシュガル地域が制圧された際に、当時すでにロシア帝国領となっていたフェルガナ地域に越境したカシュガル地域住民が相当数存在した。その数6,000人以上とも言われる¹²。

(7) 1950年代半ば

前述の郷土史の叙述によれば、1949年の中華人民共和国成立の後、1955年に500家族以上の人々が新疆からフェルガナ地域に移動し、自ら希望する場所に定着したという¹³。

以上のようなカシュガル地域からフェルガナ地域への住民の移動によって、どのような経緯によりどの地域にどのような居住地区・コミュニティが形成され、発展したのか、という点については必ずしも明確ではない。たしかに、郷土史の叙述によれば、パフタアーバード郡のウイグル人集中居住地区については、長老の伝える歴史的な記憶の伝承に基づき、1830年の移住によってその基礎が築かれたとされている。しかし、フェルガナ盆地においてウイグル人が居住するとされる各地域社会の具体的な変容過程の解明については、上記のような政治的な理由に基づく移動ではない移住のケースも含め、フィールドワークや政府文書の利

⁹ Бейсембиев, Тимур К., «Та'рих-и Шахрухи» как исторический источник, Алма-Ата: Наука Каз.ССР, 1987, pp. 80, 106.

¹⁰ 『大清歴朝実録・宣宗成皇帝実録』巻184: 37v-38v; 佐口前掲書, p. 487. Валиханов, Ч.Ч., *Собрание сочинений в пять томов*, Алма-Ата, том 2, p. 353 も参照。

¹¹ Куропаткин, А.Н., *Кашигария: Историко-географический очерк страны, ее военные силы, промышленность и торговля*, СПб., 1879, pp. 121-123.

¹² Камалов, *op.cit.*, pp. 89-100.

¹³ Jura Quldosh, *op.cit.*, p. 9.

用を軸とした今後の考究を待たねばならない。

このような条件下において、具体的な個人の歴史的な経験・見聞やその先祖たちに関する歴史的な記憶に関するデータを含む、本書におけるインタビューは、いくらか新しい検討材料を提供するものと考えられる。

3. 本インタビュー・データの特徴

上記のような移動の概要を踏まえた上で、今後行われるべき検討の初歩的段階として、文字資料による知見からは得られない、これらインタビュー・データから窺われる独自の情報の一端について、以下に初歩的な整理を試みたいと思う。

(1) 移動・越境の個別事例についてのデータ

いつ頃、インタビューの対象となった本人も含めどの世代にて、どのような条件下においてカシュガル地域からフェルガナ地域への移動が行われたのか、という点について、ある程度のデータが得られた。これらのなかには、上記のような文献から把握できるところの、それぞれの段階に特有の政治的条件に応じた移住のいわばマクロな状況に対応すると推測される移住が見出される。しかし、細かく見ると、これらの中に当てはまらない、より日常的なレベルにおける移動や、政治的な混乱状況を契機とする場合でも親戚を頼ってというケースなど、移住の直接的な動機・契機は文献資料より窺われるものよりも多様であるとともに、複合的な様相を呈していると考えられることも、看過できない。他方、その具体的な移動・越境経路（交通路）については、1950年代半ばに移動が行われた話者本人の事例としていくらかデータが得られたものの、到底十分とは言い難い。今後の課題であろう。

これらの移動に関わるデータは、移動主体が話し手本人かどうかという点において下記の二つのケースに分けられる。

①先祖の移動に関わる事例

これらを吟味すると、前項目で提示した歴史的な移動の各状況に該当すると思われる移動の事例が見出される。前述の（1）と（2）という清朝征服時とその直後についてははっきりしないものの、2-①のように、19世紀前半期の（3）もしくは（4）のときの移住に当たる可能性のある事例が見られた。また、3-②は訳注でも言及しているように、トゥンガンが事態に絡んでいることを考慮すれば、（6）に関連する19世紀後半の大規模なムスリム反乱のときの歴史的経験を伝えるものである可能性がある。しかしそれは、清朝によるヤークーブ・ベグ政権の打倒と新疆再征服にしたがって起きたフェルガナ盆地への人口流出の一環ではなく、おそらくは反乱初期の混乱状況に応じて、予想される被害を避けるための予防的な移動であ

った可能性もある。また、2-②の事例のように、まったくこのような政治的事件に関わらない日常的な移動が契機となった移住も存在する。したがって、インタビューの内容に照らしてみれば、文字資料から「再現」されるような、何回かの特定の政治的・軍事的事件の犠牲になって流出した「難民」群による移動と定着先での居留地の形成・拡大化、というような図式的理解はいささか一面的に過ぎると言わざるを得ない。

なお、インタビューの回答者たちは、一様にカシュガル方面からの移住者たちの子孫であり、自らがウイグル人であるという意識を明確にもっていたにも拘わらず、先祖のカシュガル方面からの移住の状況については、移住時期に関連するとも考えられるけれども、伝承等に基づく明確な知識をもっていない事例、先祖の個人的な事情に関わる知識はもつもののそれと一般的な歴史的状況との対応性について明確な認識をもっていない事例などが見られた。このようなインタビュー内容のもつ「不備」は、移住の歴史的な様相に関するデータを取得するという点からは、調査としての「限界」とも言えるけれども、しかし彼らが、自らの先祖にまつわる明確な歴史的記憶を残していない、あるいは公式的な（教科書的な）歴史叙述との関係性を意識していない、ということ自体は、むしろ興味深い「事実」と言えよう。

②本人の移動に関わる事例

本インタビューにおいて得られた、話者本人のカシュガル地域からフェルガナ地域への移住は、すべて 1950 年代半ばになされたものである。この時期に一方的な中国領からソ連領への移住が平和裏に実現されたのは、両国の政府間関係、具体的にはある種の両国の政策合意に基づいたものであった可能性がある。各インタビューの内容からは、個人レベルでは、ある程度本人たち自身の意思に基づき、政府側の許可の下に行われた様子が窺われる。しかも 2-④の事例からもわかるように、中華人民共和国成立後、1950 年代の中国におけるさまざまな社会変化に応じて困難な状況に陥った人々がソ連領への移住を選択した、とは言い切れないケースがあったことは間違いない。このことは、移住の動機や理由について考えるうえで留意されるべき示唆を与える。

他方、もうひとつ注目される点としては、これら 1950 年代半ばにカシュガル地域からフェルガナ地域に自身が移住した話し手について、1920 年代～30 年代にソ連における集団化政策による迫害を逃れてフェルガナ盆地から中華民国領のカシュガル地域に移住した、あるいはその親が同様の事情により移住した人々であったということである。たしかにパフタアーバードの郷土史の叙述において、ソ連の集団化の時期にソ連領から新疆に移住した富裕層がいたことは指摘されているけれども¹⁴、しかしそれと 1950 年代半ばのカシュガル地域からフェルガナ地域への移住との連関性については明らかにされていない。同一人もしくは同一家族においてフェルガナ盆地とカシュガル地域の間を 1 往復するという移住形態が例外的なもの

¹⁴ Jura Quldosh, *op.cit.*, p. 9.

ではなかったことは、本インタビューの諸データから明言することができる。そういう意味で、両地域を結ぶ移動が一方方向性のものでもなければ一回性のものでもなかったことは間違いない。

このことに関連して、彼らもしくは彼らの親が元来フェルガナ盆地側に居住していたということは、インタビュー・データからも部分的に確認できるように、19世紀段階に彼らの先祖たちがカシュガル方面からフェルガナ方面に移住したということを示すものにほかならない。したがって、先祖からインタビュー対象者自身を含めると、カシュガル地域とフェルガナ地域の間を1往復半する移動が行われたことになる。

以上の点を勘案すると、両地域間の人的な移動と定着、それに基づく両地域社会の変容は、新疆ウイグル人社会のフェルガナ地域への一方的な拡大としてのみとらえるべきではないであろう。むしろ、カシュガルとフェルガナ両地域間における人的移動と交流という歴史的文脈の中で考えていく必要がある。

(2) 新疆居住時における見聞・経験に関するデータ

越境に直接関わるものではないけれども、インタビューの話し手自身がカシュガル地域の出身である場合、もしくはフェルガナ盆地出身でいったんカシュガル地域に移りその後フェルガナに戻ってきた経歴の持ち主の場合、カシュガル地域（および新疆各地域）での居住経験をもっている。このような事情から、インタビューの過程において、当時の新疆における歴史的状況の一端を伝えるデータを含む事例を見いだせる。前述のように、彼ら自身がフェルガナ盆地に移住したのは、1950年代半ばである。また、フェルガナ盆地出身の場合、カシュガルに至ったのは、1920年代～1930年代半ばにソ連領における集団化の弾圧を逃れて中華民国領に逃れたというケースである。したがって、基本的に1930年代～50年代のカシュガルなど新疆に関するデータということになる。具体的には下記の事例を掲げることができる。

① 中華民国期の新疆各地域で商売に従事していた1-②の事例

ウルムチの「洋行」にて商売を行っていたことや、新疆各地を転々としながら各地の産品を細かく売りさばいたことなど、1930・40年代におけるウイグル人商人の活動の在り方の一端を窺い知ることができる。また、1940年代後半期におけるウルムチでの経験は、たまたま居合わせた劇場における銃撃戦に関わる事実を含んでいる。当時、新疆省連合政府時代のウルムチにおいては、和平協約により連携して新しい省政府を形作ったはずのイリ反乱勢力たる「三区革命」側と中国政府（国民党）側との間で、対立・勢力争いがおこり、民衆を巻き込んだ衝突事件などが発生したことが知られており¹⁵、そういった動向に関係した事件に話

¹⁵ Pulāt Qādirī, *Ölkä Tārīkhi*, Ürümchi, 1948, pp. 171, 182などを参照。1947年に発生した大衆的な示威運動による対立事件として、二・二五事件などが知られている。

者本人が巻き込まれた可能性がある。

②中華民国期にカシュガルで学校教育を受けた 3-④と 4-②の事例

3-④は、カシュガルで3年間学校教育を受け、そこでは中国語、英語、アラビア語を学んだこと、タタール人の教師が教育に当たったこと、イマームによる宗教教育がそのなかに組み込まれていたことなど、女子に対する初等教育がある程度実施されていたことも含め、当時のカシュガルにおける学校教育の状況について窺うことができる¹⁶。他方、4-②は、カシュガルで6～7年の学校教育を受け、その後「公安」で勤務した形跡がある。漢族の軍人と思われる教師から授業を受けるなど、おそらくは1940年代のカシュガルの教育状況に関するデータを含んでおり、興味深い。

③中華人民共和国成立直後の社会状況に関わる 2-④の事例

中華人民共和国成立後、1950年代に行われた「土地改革」等の一連の政策とその地域社会の影響に関して、若干のデータが見られる。とくに、土地の分配や富農の処分の様子、政府への反発に起因する暴動のために、家畜財産についてはにわかには「改革」的施策を断行できなかったことなど、生々しい状況が語られている。中国における公式的な文字資料からは得ることが難しい情報と考えられ、類似する他のデータの収集と集積をさらに進めていけば、当時の政策過程とそれにとまなう地域社会の変容の実態をいくらか窺うことができる可能性もある。

上記①～③の歴史的経験に関する口述資料は、文字資料によって得られる歴史的状況の見取り図を補完する面とともに、オフィシャルな歴史叙述とは別の事実関係や、そこに生きた「庶民」の具体的な感覚や認識に関する知見を提供する側面もあり、さらなるデータ取得の必要性が痛感される。

以上のようなインタビュー記録におけるある程度有用な諸データに対し、フェルガナ盆地におけるウイグル人居住地区自体に関する、そしてそこでのソ連時代および独立後の経験などに関するデータについては、ウズベキスタンのフェルガナ盆地における居住地区の村民議会事務所におけるインタビューである3-①に、当該地区の概要に関する簡単なデータが見られるほか、インタビュー4-④などにソ連の集団化時代の歴史経験に関する具体的な談話が部分的には見出されるものの、総体的には少なくともインタビュー内容の主軸ではないため、材料としての中身はいたって乏しい。とりわけ、自身がカシュガル地域から移住した経験をもつ住民のインタビューにおいて、フェルガナ盆地に定着した際の具体的な状況に関するデ

¹⁶ 1930年代のカシュガルにおけるウイグル人の教育活動については、カシュガルで刊行されていた新聞を主史料として利用した、清水由里子「カシュガルにおけるウイグル人の教育運動について（1934－1937）」『内陸アジア史研究』第22号、2007年）に詳細に明らかにされている。

ータが欠如している点は、個人情報に配慮した面があるとはいえ、不備と言わざるを得ない。たしかに、ウズベキスタンのフェルガナ地域におけるウイグル人居住地区については、実地調査時に村民議会の事務所などにおいて若干の公的なデータ（各マハッラの人口表など）が収集されたけれども¹⁷、関連する公的なデータやインタビュー・データをさらに取得し、地域社会の歴史の変容と現状について調査研究を実施することが今後の重要な課題になるであろう。

他方、本インタビューにおいて軸となっている移動と越境の様態や、1930～50年代の新疆の状況に関しても、十分な知見が得られたとは言い難い。さらに詳細なデータを聞き取り調査により獲得することが可能であろう。本インタビューのデータとその内容の検討を基礎としつつ、改めて実地調査を行い、好適なインタビュー対象者を選定して、より詳細かつ体系的なライフ・ヒストリーを記録するとともに、その中の事象について文字資料との対応性を考察するという研究作業に従事する必要性が感じられる。今後の課題としたい。

【付記】本解説については、2003年と2004年のインタビュー・データの一部を参照した新免康「フェルガナ地域のウイグル人—移住の背景と地域性—」と一部重複する内容を含んでいる。ご容赦いただければ幸いである。

¹⁷ 新免康「フェルガナ地域のウイグル人—移住の背景と地域性—」『中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究』（平成15年度～平成18年度科学研究費補助金基盤研究A(1)研究成果報告書）、pp. 152–155.を参照。

I インタビューの日本語訳

1. 2003年8月6日 クルグズ共和国オシュ州カラスー郡

① インタビュー No.1

<質問者たちがこの村にウイグル人が住むことになった経緯を尋ねた。回答者たちは、この村に当初7人がカシュガルから移住して来たと説明を始めた。その会話の途中から録音が始まる。>

A1: 結婚して、子をもうけたのです。この村のウイグル人たちは皆、そこから始まります。

A2: 今、1人の長老を連れてきます。彼は95歳になる人です。

A3: A4 さんですか。

Z2: <A2 と A3 に向かって>あなた方も話して下さい。

A1: カシュガル村の由来はそこから始まります。

Z2: 村の誕生はそこからのようですね。

Z1: その7人からということですか。

Z2: 「7つのカパ」と名付けられているようですね。

A1: 7家族だったのですよ。

Z2: 「カパ」とは家という意味です。

A1: この村にウイグル人が住むようになったのは、この7家族から広がった子孫ということなのです。

Z2: 後に、毛沢東の時代には移住してこなかったのですか。

A1: いいえ。

A2: ああ、1956年頃に移住して来た人もいましたよね。

A1: 戦争の頃¹に、誰でしたっけ、毛沢東[が支配していた国に住む人]たちが来ましたよね。彼らは、やって来て、その後、ここに住んでいたウイグル人たちが彼らに[ここに住む]許可を与えたのです。1956年に道(国境)が開かれた後、カシュガルから来たウイグル人たちはたとえば、毛沢東が1ヶ月以内に中国から出て行けと言った[人々だった]のです。[毛沢東が]このように言った後、このウイグル人たちは皆、「私たちは出て行かなければならない。私たちの故郷に行こう」と言って、彼らの多くは、カザフスタン出身であったり、ここの出身であったりしたのですが、「我々には親戚がいる」と言って、やって来たのです。やって来て、彼らも、ここが気に入らなければカザフスタンに行ってしまうました。カザフ人たちも当時はたくさん[中国から]出たのです。尋ねて、[許

¹ ここで回答者が「戦争」という言葉で指しているのは、1956年のフルシチョフによるスターリン批判をきっかけに毛沢東の間で起こった中ソ対立のこととも想像されるが、明確ではない。

可が] 出た後、皆、身の整理をして、1 ヶ月のうちに、毛沢東 [が支配していた国に住んでいた人] たちは、皆 [旧ソ連に] 戻って出て来たのです。

Z1: つまり、ソ連の領土で生まれて、あちらに移住した人々ということですか。

A1: はい、あちらで妻子をもうけたのです。

Z1: 中国が彼らを追い出したのですか。

A1: 戦争になった関係で、望む者は出て行ったのです。

Z1: 希望すれば、ですか。

A1: 「志願者たちのパレード」と呼ばれました。交渉して、毛沢東と同意に至った後、新聞やラジオで、「志願者たち [は出て行っても良い]」と言った後、彼らは、皆出て来たのです。また [中国に] 戻った人もいました。毛沢東は彼らに条件を与えていたのです。もし [ソ連が] 気に入らなければ、1 ヶ月以内なら戻って来てもよい、と。

Z2: つまり、[ソ連が] 気に入れば、そこに残り、気に入らなければ、出て行くということですね。

A1: 戻って行った人もいましたよ。

Z2: 村の人口は何人ですか。

A1: 現在ですか。12,000 人以上はいます。

A2: 現在は、14,000 人か、15,000 人はいます。役所によれば 20,000 人に達しますが、実際は、14,000 人というところです。

Z2: その全員がウイグル人ですか。

A1: いいえ。色々な民族です。混ざってしまったのです。

Z1: ウイグル人は何パーセントを占めますか。

A2: 役所に [統計が] ありますよ。

Z2: 大凡でいいのですよ。半分とか、3 分の 1 とか。

A2: だいたい、60 パーセントはいるでしょう。

A1: 当時は困難な時代で、戦争が起こった後、移住して来た人がいるのです。

Z2: あなたのお名前を教えてください。

A1: A1 です。

Z2: 何年生まれですか。

A1: 1939 [年生まれ] です。

< A4 氏が到着する。 >

A4: こんにちは。

A2: どうぞ [質問者たちの] 近くにお座り下さい。

A4: 誰とお話しすれば良いのでしょうか。あなたですか。

A2: この方は 99 歳です。

Z2: お父さん、この人たちは日本から来ました。

A4: さて、何をすればよいのでしょうか。

Z2: この人たちは、歴史研究者です。大学で働いています。19 世紀、20 世紀のカシュガルの歴史を研究しています。そのため、カシュガルの歴史に関係のある出来事について、あなた方とお話するために来ました。それらを話していただけますか。

A4: さて、カシュガル村の歴史は 300 年以上になります。4 世代過ぎましたから。私の曾祖父（チョン・アタ）²が 80 歳か 90 歳で亡くなりました。その後、Aaという父（アタ）³が、彼も 80 歳か 90 歳で亡くなりました。さらに父が 80 歳か 90 歳で亡くなりました。私ももうすぐ逝きますよ。私の息子も 70 歳ですしね。

Z1: あなたご自身はここで生まれになりましたか。それともカシュガルからいらっしゃいましたか。

A4: 私はここで生まれました。私より前の 3 世代がここで生まれました。

Z1: カシュガルからいらしたあなたのご先祖が、カシュガルからきた理由をご存知ですか。

A4: いいえ。私たち [の先祖] は、カシュガルから来た時、1 人の偉大なる人、私たちの曾祖父（チョン・アタ）が来て、この村の周辺に来たそうです。それから一族が増え、4 世代が過ぎたのです。

Z2: あちらで生まれた人はいませんか。

A2: Abおじさんがいます。Abおじさんは、ここで生まれて、11 歳の時にあちらに行き、42 歳の時に戻ってきました。

Z1: 30 年あちらに住んでいたということですか。

A2: 親戚は皆この人です。

Z1: その人は何歳ですか。

A2: 86 歳です。

Z2: 現在 86 歳なら、1917 年に生まれ、1928 年に行き、1957 年に戻ってきたということになりますね。スターリン時代に行って、フルシチョフ時代に戻ってきたということです。その方に来ていただくことはできますか。

A2: はい。＜同席者に向かって＞連れてきなさい。

Z2: さて、この方への質問を続けましょう。

² ウズベク語の親族名称は厳密ではなく、地域や話者によって異なる。チョンは「大きい」、アタは「父」を意味している。この会話の文脈から、A4 氏は、これを「曾祖父」の意味で用いていることがわかる。ただし、この後、回答者は同じ表現を「祖父」の意味でも用いていることから、祖父より上の世代について世代を厳密に区別する意識が薄いと思われる。

³ 実際には祖父を指している。

Z1: この方のお祖父さん（バーバー）⁴がカシュガルからいらしたのですか。それとも曾お祖父さん（カッタ・バーバー）⁵ですか。

A2: 曾お祖父さん（カッタ・バーバー）です。

Z2: この人のお父さんのお父さんですよ。

Z1: では、お祖父さん（アーツパーク・ダダ）⁶ですか。

A2: お祖父さん（アーツパーク・ダダ）です。

Z2: チョン・アタとは、ロシア語では「お祖父さん」になります。

Z1: [ロシア語で]「曾お祖父さん」ではありませんか。

Z2: [ロシア語で]「お祖父さん」ですよ。

A2: いいえ、[ロシア語で]「祖父の祖父」ですよ。4世代と言っていますよ。

Z2: [ロシア語で]「高祖父」ですね。

Z1: 何年頃の出来事か知ることはできないでしょうか。まず、この方のお父さんは何年に生まれて…。

Z2: あなたの曾お祖父さん（チョン・バーバー）は何年にこちらに移住して来ましたか、だいたい[それから]何年になりますか。

A4: ええと、そのチョン・アタというのは、私たちの父の父⁷で、Acという人がやって来たのだそうです、最初に。その後、Aaという息子が生まれたのだそうです。[名前を略して] Aaとも言いました。5人の娘と3人の息子を連れて来たそうです。その息子であるAaも80歳になってから死んだそうです。その次が、私の父の、Adという人です。彼も80歳になってから死にました。その次が私で、今は99歳になりました。

A2: 240年になりますね。さらにこの人が今99歳です。

Z2: しかし、皆30歳くらいで子供をもうけるでしょう。せいぜい100年を超えるかどうかです。

A4: 4人の先祖ですよ。それぞれ75歳として計算しても300年になりますよ。

Z2: 75歳で子供をもうけたわけではありませんよ。

Z1: この方が生まれた時、お祖父さん（アーツパーク・ダダ）は生きておられましたか。

Z2: あなたの、お祖父さん（チョン・バーバー）は、あなたが生まれた時、ご存命でしたか。

A4: 曾祖父（チョン・バーバー）はすでに亡くなっていました。

Z1: いえ、お祖父さん（バーバー）を見たことはありますか。

Z2: あなたはお父さんを見ましたよね、お父さんのお父さんはどうですか。

⁴ ウズベク語で「祖父」を意味する一般的な語。

⁵ 直訳すると「大きい祖父」となり、質問者は「曾祖父」の意味で用いた。

⁶ アーツパークは「祖父」を、ダダは「父」を意味する。質問者は「祖父」の意味で用いた。

⁷ 実際には曾祖父を指している。

A4: 父の父は見ましたよ。

Z2: しかし、曾お祖父さん（チョン・バーバー）は見えていませんね。

Z1: お祖父さん（バーバー）はいつ亡くなったのでしょうか。この方が何歳の時に亡くなったのでしょうか。

A4: 祖父（チョン・アタ）は 4 年かけて徒歩で巡礼に行って来たんですよ。だから「ハージー」という呼称がついた名前で「Aa」と言うんですよ。

Z2: あなたのお父さんのお名前は何でしたか。

A4: 私の父は、コルホーズで働いていました。いえ、当時、コルホーズはありませんでした。何もありませんでした。肉屋でした。

Z2: あなたのお祖父さん（チョン・アタ）は何年に亡くなりましたか。

A4: 祖父（チョン・アタ）が亡くなって 75 年になりますかね。何年かと言うと、ええと。

Z1: あなたはその時何歳でしたか。

A4: 私の父が亡くなった時、私は 65 歳か 70 歳でした。

Z2: あなたのお父さんが亡くなった時の話ですね。ではお祖父さん（チョン・アタ）が亡くなった時はどうでしたか。

A4: ええと、それは分かりません。まだ幼かったのです。亡くなったのは知っています。5 歳とか 10 歳でした。

Z1: 何歳で亡くなりましたか。

Z2: さっきおっしゃいましたよ。75 歳か 80 歳だったそうです⁸。[死亡時に] この方が 5 歳か 10 歳の時だったということは、[A3 氏の 5 歳か 10 歳であった時期から] 75 年か 80 年遡ると、1820 年代か、1830 年代にあたりますね。つまり、ジャハーンギール⁹の時代にあたります。だいたいマダリー・ハーン¹⁰の時代ですね。

Z1: この方は 99 歳だということは、[現在 2003 年なので] 1904 年生まれということですか。

Z2: 1906 年生まれでしょう。何故ならイスラームでは、[太陰暦であるため] 33 年につき 1 年を足さなければなりません。さらに母親のお腹で 1 年過ぎたと計算していますから。[全体として] 4 年くらい[実際の年齢に] 加わっていますよ。つまり、西暦で言うところ 95 歳だということです。カシュガルには親戚はいますか。

A4: いいえ、誰もいません。4 世代も過ぎれば。

⁸ 実際には、A4 氏は、最初の発言では 80 年か 90 年生きたと述べ、2 度目の発言では 80 歳になってから死亡したと述べている。

⁹ いわゆるカシュガル・ホージャ家アーファーク統のホージャ。1928 年にコーカンド・ハーン国領から清朝のカシュガル方面に侵入する事件を起こした。清朝による鎮圧の際に、コーカンド領に逃れたカシュガル在住者が多数いたと言われる。詳しくは「解説」(p.6)を参照。

¹⁰ コーカンド・ハーン国君主、ムハンマド・アリー・ハーン（在位 1823-1842 年）。

- Z2: Abさんという人は知っているですよ、カシュガルを。
- Z1: この村にはトラ¹¹はいますか。
- A2: いいえ、ここにはトラもホジャ¹²もいません。
- Z2: ホジャもいないのですか。
- A2: ホジャは、{AA} というマハツラに住んでいます。純血のホジャたちがいますよ。ここからは3キロメートルくらいです。
- Z1: カシュガル村にはいないのですか。
- A2: いません。彼らはガイラト村に住んでいます。
- Z2: この周辺に他にもカシュガル出身者たちの村はありますか。
- A2: ありますよ。ウイグル村というのがありますよ。ウズベキスタンのパフタアーバード¹³にあります。
- Z1: ああ、そこなら私たちも行きます。ウイグルアーバード [村] ですね。
- A2: 彼らは純血のウイグル人たちですよ。私たちはクルグズスタンの中にあって、ウズベク人とかクルグズ人と混ざってしまいましたが。私たちは民族はウイグル人ですが、ウイグル語を知りません。
- Z1: ウイグル語を知らないのですか。
- A2: まあ、聞けば分かりますけど、話せません。
- Z2: ここにはウイグル語学校はないのですか。
- A2: いいえ、学校はありません。
- Z1: ウズベキスタンにもないですよ。一度作ったそうですが、閉鎖したそうです。
- A2: ここにはウイグル民族センターというのがあります。
- Z1: ここには博物館のようなものはありますか。
- A2: いいえ、博物館はありません。
- Z1: ここ（ウイグル民族センター）ではどんな活動をしていますか。
- A2: ウイグル民族センターは毎年宴会を催していますよ。
- Z2: 何か、本や雑誌や新聞を発行したことがありますか。
- A2: 以前ウイグル語の新聞を発行していましたが、最近は発行しなくなりました。
- Z2: その新聞はありますか。

¹¹ フェルガナ盆地では、一般にはサイイドと呼ばれる預言者ムハンマドの子孫がトラ to'ra と呼ばれることが多い。

¹² フェルガナ盆地では、アリーを除く3人の正統カリフ、アブー・バクル、ウマル、ウスマーンの子孫がホジャ xo'ja と呼ばれて、トラ（訳注11参照）と並んで一般の住民とは異なる血縁集団を築いていることが多い。

¹³ ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡

A2: 分かりません。

Z2: 図書館にはあるはずですよ。

Z1: いつ発行されたのですか。

A2: ウイグル民族センターには図書館がありましたっけ。Aeがセンターの長ですよ。

A1: 分かりません。でも、この州で一番大きいセンターはこれです。

Z2: ウイグル民族センターでは何か出版しませんでしたか。あなたたちに配りませんでしたか。

A2: 覚えていませんね。

② インタビュー No.2 (2003 年 8 月 6 日)

＜インタビューNo.1 において、村にカシュガルでの居住経験がある老人がいることが判明したため、その人物に来てもらってインタビューを行った。＞

Z2: あなたは何年生まれですか。

B1: 1917 年です。

Z1: お名前をもう一度おっしゃって下さい。

B1: Ba の息子の B1 です¹⁴。

Z1: 革命の年にお生まれになったのですね。

B1: はい、革命の年です。もっとどんどん質問して下さい。話してあげますよ。

Z2: この人、＜質問者のうちの＞真ん中の人が興味を持っています。カシュガルの歴史に興味を持っています。

B2: こちらは日本からいらした方々だそうです。

Z1: 最初に、あなたはいつここからカシュガルに行きましたか。

B1: 1927 年です。

Z1: 10 歳だったのですね。

B1: はい。

Z1: 誰と一緒に行きましたか。

B1: 父と一緒にです。

Z1: どのような理由でですか。

B1: 私たちがここを去った理由は、ここではソ連時代に富裕層が残らなかったからです。[政府は] 土地を没収しました。私たちは、逃げなければ銃殺されるか、逮捕されるかでした。私の兄はオシュで投獄されました。

Z1: およそ何人くらいがそのようなしてカシュガルに逃げて行きましたか。

B1: 私たちはその時 4 人でした。

Z1: あなたのお父さんと、他に誰がいましたか。

B1: 他に、母方のおじがいました。

Z1: 母方のおじさんが 2 人いたのですか。

B1: 母方のおじは 1 人です。そこには Bb という人がいました。他に、Bc という人がいました。そして Bd という母方のおじの 4 人です。私を入れて 5 人です。

Z1: カシュガルに行った後、町の中に住みましたか。それとも外ですか。

¹⁴ インタビュー①における Ab 氏にあたる。

B1: カシュガル自体に〔内部に〕大きな町があります。ヤールヴァーク・ダルヴァーザという町がありました。以前〔カシュガルの町には〕4つの門（ダルヴァーザ）がありました。カシュガルの町の周りは砦でした。その中です。

Z2: チャールヴァーク・ダルヴァーザですか。

B1: ヤールヴァーク・ダルヴァーザ¹⁵です。

Z1: あなたのお父さんはカシュガルでどんな仕事をされていたか。

B1: 父はカシュガルで商売に携わっていました。

Z2: 商人だったのですね。

Z1: 何を売っていましたか。

B1: 布や、あらゆる小物です。

Z1: 商売とおっしゃいましたが、カシュガルの内部でですか。それともソ連に商品を持って来たり〔ソ連から〕持って行ったりということですか。

B1: カシュガルで入荷して、ヤルカンド、カルガリク¹⁶という町がありましたが、そこで売っていました。

Z1: カシュガルに行く前、あなたのお父さんはここでも商売をされていたか。

B1: していました。

Z1: そのためにお金持ちだったのですか。

B1: はい、だから逃げたのです。

Z1: あなたは何歳までカシュガルにいらっしゃいましたか。

B1: そうやって行った後、1956年に戻って来ました。もっとどんどん質問して下さい。私は他の町にも住んでいましたよ。

Z2: もっと質問しても良いですよ。他の町にも住んでいらしたそうですよ。

B1: はい。私は他の町にも行きました。

Z2: どの町に行かれましたか。

B1: 私は、ウルムチという町に住んでいました。ホタンという所にも住んでいました。ハミという町や、コーナ・トゥルフアン¹⁷という町にも行きました。ケリヤという所もあり

¹⁵ 中華人民共和国成立後に破壊されるまでカシュガルのまちには囲郭が存在し、4つの城門を通じて都市の内外の通行が可能であった。南のクーム・ダルワーザ、北のヤールバーク・ダルワーザ、東のデュシュク・ダルワーザ、そして西の「グル・バーク」と呼ばれる要塞状の月城の東部に設けられたイェンギ・ダルワーザである。該当するヤールバーク・ダルワーザから都市外に出たすぐ周辺には、アンディジャン人のサライが存在したことが知られる。IOR, L/P&S/20/A118/2, *Military Report on Sinkiang (Chinese Turkestan)*, 1929, "Sketch map of Kashgar" (in pocket at end)を参照。

¹⁶ ヤルカンドとホタンの幹線路上にある小都市。インド方面から新疆方面に出る交通路とヤルカンドーホタンというオアシス間幹線路の交差する地点。

¹⁷ 旧トゥルフアンという意味で、新疆東部の本来のトゥルフアンを指す。ウチ・トゥルフアンと区別する意味で、「コーナ」を付加する場合がある。

ました。ホタンのケリヤという所にも行きました。18年あちらに住んでいました。父が亡くなった後、商売で行きました。父は〔カシュガルに行ってから〕5年後に亡くなりました。

Z1: つまり、あなたは15歳から商売をなさったのですか。

B1: しました。

Z1: カシュガルではどこかで勉強しませんでしたか。

B1: 私はカシュガルで、ここから移住して行ったある先生がいたのですが、その先生から幼い頃にナマーズを少しばかり勉強し、2年ほど学んだのですが、その後その人も〔ソ連に〕行ってしまいました。年を取った人でした。

Z2: その先生の名前は何かでしたか。

B1: Be先生でした。

Z1: 勉強した時、あなたは何歳でしたか。

B1: 父が〔カシュガルに行ってから〕5年後に亡くなったのですが、父が生きている頃、2、3年勉強しました。父が私を学校に連れて行ったのです。その後、カシュガルでも金持ちを逮捕しました。

Z2: あちらの高等教育機関（マドラサ）には入学されなかったのですか。

B1: いいえ。

Z2: 中国語も勉強されませんでしたか。

B1: 中国語は、商売のための売り買いに必要な言葉は知っています。数字も知っています。商売ではお金を稼がなければなりませんからね。

Z1: 新疆で、1933年から1934年にかけて、東トルキスタン共和国という国家が興りました。これについて聞いたことはありますか。

B1: その時に、お金持ちの人は残らなかったのですよ。

Z2: 東トルキスタン共和国を聞いたことがありますか。

Z1: あなたが17歳頃のことでしょ。

B1: 忘れてしまいました。年を取りましたからね。

Z2: アリーハーン・トラ・サーグーニー¹⁸を聞いたことがありますか。

B1: アリーハーン・トラなら聞きました。彼はグルジャにいました。グルジャでアリーハーン・トラの反乱が起こりました。私がウルムチに行った時、アフマド・エフェンディ¹⁹と

¹⁸ 1944年に発生し、「東トルキスタン共和国」を樹立させたイリ反乱の指導者。東トルキスタン共和国臨時政府成立後、主席に就任したが、その後ソ連によってソ連領に連行されたとされる。

¹⁹ イリ反乱のウイグル人指導者のうちの1人。国民党政府との和解交渉の代表として活躍した後、反乱側と中国政府側との連携で成立した新疆省連合政府の副主席に就任し、しばらくウルムチで活動を進めた。

いうグルジャの人がいました。マスウード・エフェンディ²⁰という人もいました。これらの人が支配者でした。私もある日映画に、いえ、映画はありませんでしたが、俳優たちが劇をする場所がたくさんあって、私も若かったので、俳優たち〔の劇〕を見てこようと思って行ったら、そこで銃撃戦になってしまいました。私は物陰に隠れて助かることができました。その後、アフマド・エフェンディはグルジャに逃げて行きました²¹。

Z2: 1944年から1945年頃の出来事についておっしゃっていますね²²。

B1: まさにその時、私はウルムチにいたのです。

Z2: 当時ウルムチにいらっしゃったのですね。

B1: アフマド・エフェンディやマスウード・ジュージ²³という人がいました。私はウルムチにいました。そして戦争になった後、アフマド・エフェンディはグルジャの人だったので、彼はグルジャに逃げました。

Z2: 当時、あなたの記憶に残っている他の大きな出来事がありますか。

B1: まあ当時は2年か1年に一度は戦争が起こっていて、ある人が統治者になり、また別の人が統治者になり、新しいお金を発行しては以前のお金が使えなくなり、新しいのだけが使えて、2年も経てばまたそれも使えなくなり、ということを繰り返していました。

Z2: 1930年、1940年代には、2年か1年に一度は戦争が起こっていたのですね。ある人が来て政権を取り、新しいお金を発行し、後に政権は変わり、別の政権がやってきて、彼らはまた自分たちのお金を発行し、以前のお金が使えなくなったのですね。そのようにして多くの戦争が起こり、お金も変更になったのですね。どのようなお金がありましたか。

B1: 布のお金もありましたし、紙のお金が発行されたこともありました。

Z2: 商売はどの時代に繁盛しましたか。

B1: その後ということですか。

Z2: 1920年代末とか、1930、1940年代のうち、です。どの政権が、商売のために良い政権でしたか。人々が豊かになり、良い暮らしをしたのは何年頃のことですか。

B1: 私が戻ってきた時、私は1956年に来ましたが、その後とか、それ以前、その10年くらい前ですかね、人々はお金を稼ぐことができました。

Z2: 1946年より後が良い時代だったということですね。

B1: 私たちは1956年に来しました。あちらを去った後、あちら側に手紙を書くことは許されませんでした。手紙も受け入れられませんでした。もし何か喋れば、糾弾されました（威

²⁰ 国民党系のウイグル人指導者であるマスウード・サブリ。イリの出身で、トルコの軍医学校で学んだとされる。1948～49年に新疆省政府主席。

²¹ 新疆省連合政府の解体により、反乱勢力の本拠であるイリに戻ったことを指すと考えられる。

²² ウルムチにアフマドジャンらがいたのは1946～48年の新疆省連合政府時代である。

²³ 「主席」zhuxi か。

厳がなくなりました)。[政府は人々に対し] 互いに監視させていたのです。

Z2: こちらから手紙を書くこと、あちらから手紙を受け取ることは不可能だったのですね。このことを話せば、スパイの疑いがかけられて、糾弾される（威厳がなくなる）か、あるいは監視したのですね。

B1: 1956 年より後、あちら側、カシュガル側と往来が回復しました。

Z2: 1956 年に国交が開かれたのですね。カシュガルでは、こちらから 1920 年代に行った、学問を修めた知識人（ムッラー）は多かったですか。

B1: たくさんいました。でも残りませんでした。

Z1: 1956 年にあなたがこちら側に戻ってきた時の様子を話して下さい。

Z2: 1956 年にソ連に戻っていらっしゃいましたよね。それについて、詳しく話していただけませんか。

B1: 国境のことをですか。

Z2: 出発してから到着するまでです。

B1: 1955 年のことでした。ここには私の兄と祖母が残っていました。[家族のうち] 3、4 人が残っており、手紙のやりとりをした後、私はこちらに来ることを望みました。私にヴィザ [取得のための書類] を送ってくれました。私たちはヴィザを取って来たのです。その後、車にお金を払い、他の人もそのようにしましたが、私も車にお金を払って来ました。

Z2: どの道を通して来ましたか。

B1: ナリン²⁴経由で来ました。アトバシ²⁵、ナリン経由です。アトウシュ²⁶には丘があります。アトウシュというところがあって、そこから道があって、アトバシからナリンに来るのです。来て、ピシュペク²⁷に来ました。ピシュペクからここまでは汽車で来ました。

B2: アトウシュ、アトバシ、ナリン、リュバチ²⁸、ピシュペク、タシュケントでしたよね。

Z1: タシュケント経由でいらっしゃったのですか。

B1: はい。

B2: 中国からピシュペクまでは車で、ピシュペクからカラスー²⁹までは汽車で。そうでした

²⁴ クルグズ共和国ナリン州州都のナリン市。カシュガルから旧ソ連領に抜けるには二つのルートがある。一方は天山山脈を越える道で、トルガルト国境を通過してナリンに抜ける。他方はパミール高原を越える道で、イルケシュタム国境を通過してオシュに抜ける道である。回答者たちは前者を経由した。

²⁵ クルグズ共和国ナリン州アトバシ郡アトバシ。

²⁶ カシュガル市の北東約 30 キロメートルに位置するアストウン(下)・アトウシュを指すと考えられる。

²⁷ クルグズ共和国の首都、ピシュケクの旧称。ピシュペクは、赤軍司令官のミハイル・フルンゼの名にちなんで 1926 年にフルンゼに改名された。ソ連崩壊後、1991 年にピシュケクに再び改名された。

²⁸ 現クルグズ共和国イッスィック・クル州バルクチを指す。イッスィック・クル湖の西端の湖畔に位置する。1909 年から 1993 年までは、バルクチをロシア語訳した形のリュバチと称された。ピシュケクから鉄道が至る。

よね。汽車で来たのですよね。

B1: 汽車で来ました。リュバチまでは車で来ました。[ピシュペクではなく]リュバチから汽車に乗りました。

Z1: どの国境を越えましたか。

B1: 来る時ですか。

Z2: はい。

B1: 来るときは、アトバシから越えました。ナリン経由です。国境³⁰は見えていました。

Z1: 国境では何も問題は起きませんでしたか。苦勞されませんでしたか。

B1: いいえ、苦勞はありませんでした。妻子とともに来ました。子供たちがいました。

Z1: あちらで結婚されたのですか。

B1: はい。家内がいました。子供たちもいました。

Z2: あちらで家庭を持たれたのですね。

B1: はい、若い頃に行きましたからね。子供たちを連れて来ました。

Z2: どこで結婚されましたか。

B1: ケリヤで結婚しました。

Z1: ウルムチにもいらっしゃいましたよね。

B1: ウルムチにもいました。

Z1: それは何年頃のことですか。

Z2: 何年から何年までウルムチにいらっしゃいましたか。

B1: ウルムチには 2 年いました。1945 年からでしたか。忘れてしまいましたよ。1945 年だったと思います。

Z1: 第二次世界大戦後ですか。

Z2: ソ連とドイツが戦争をした後ですか。

B1: その後です。ヤンハン³¹という場所に住みました。領事たちが住んでいた場所です。

Z2: どの領事ですか。

B1: ロシアの領事もいましたし、他の国のもありました³²。[ヤンハンの綴りが分からなければ]ランガルと書いても良いんですよ。

²⁹ オシュの北東 23km にある町。現在は町の間に国境が引かれ、クルグズ共和国オシュ州のカラスー市と、ウズベキスタン共和国アンディジャン州のカラスー市に分かれている。アンディジャンとジャラルアーバードを結ぶ鉄道路線上に位置する。

³⁰ トルガルトの国境を指す（訳注 23 参照）。

³¹ 漢語の「洋行」。元来、ロシア籍商業資本家の経営する企業を指すが、ここでは「洋行街」の意で用いられ、ウルムチ市南部のいわゆる南梁地区に位置する、ロシア籍の商人たちが商業活動に従事した一角を指すと思われる。詳しくは、包爾漢『新疆五十年』文史資料出版社、1984 年、pp. 6-15 を参照。

³² 当時のソ連領事館の建物が、現在の新疆ウイグル自治区歌舞団の敷地内に文化財として残されている。

Z1: そのマハッラにはタタール人も住んでいましたか。

B1: タタール人も少数ですがいました。ロシア人もいました。こちらから逃げた人たちです。
タタール人もロシア人もいました。

Z1: ウルムチではどんなお仕事をされましたか。

B1: 商売をしました。

Z1: 何を売りましたか。

B1: 商品を買って売りました。ウルムチで買い、カラ・シャフルで売ります。[カラ・シャフルは] 中国語ではヤンジ³³と言います。

Z1: ウルムチの後、どこに行きましたか。

B1: 2年くらいはそこにいて、コーナ・トゥルフアンというところがあります。

Z2: そこでも商売をされたのですか。

B1: はい。アクスに行きました。クチャに行きました。ケリヤにも住みました。ホタンにも住みました。ヤルカンドにも住みました。商売をしていました。

Z2: 商売では、布だけを売りましたか、それとも他の物も売りましたか。

B1: どんなものでも。儲かるなら売ります。カシュガルでは、人々は屋根に登っていました。町が狭かったのです。大きな建物がありました。町が小さかったため、屋根に登っていました。村ではそんなことはありませんでした。まあ、今はどんな風になっているか知りませんが、4つの門がありました。町の周りは砦でした。私たちが去るころ、それを取り壊していました。

Z2: お父さん、カシュガル、東トルキスタンには、多くの聖地があります。そのような場所に参拝に行きましたか。

B1: アーッパーク・ホージャムという場所があります。アーッパーク・ホージャム・マザールがあります。

B2: 他にはどうですか。

B1: コーナ・トゥルフアンにはアサブカ³⁴という場所があります。

Z1: こちらの方たちはそこに調査に行ったそうですよ。

B1: それから、ケリヤにはニヤという場所があります。そこには、イマーム・ジャアファル・サーディク³⁵という場所があります。あなたたちは行きましたか。

³³ 焉耆。天山南路のトゥルフアン・クチャの間に位置するカラ・シャフル。

³⁴ アスハーブ・アルカフ。トヨクの「眠り人のマザール」を指す。Shinmen, Yasushi, "The History of the Mausoleum of the *Ashāb al-kahf* in Turfan," *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No.61, Tokyo: Toyo Bunko (Oriental Library). を参照。

³⁵ シーア派第6代のイマーム。新疆においては、ホタンのニヤの砂漠中に墓があるとされ、一大参詣地となってきた。このマザールについては、佐口透『新疆ムスリム研究』吉川弘文館、1995年、pp. 118-28を参照。

Z2: 彼らはそのことについて本を書く予定なのですよ。

B1: ニヤという場所があります。ニヤに行った後、2 日歩くと、イマーム・ジャアファル・サーディクに行きます。イマーム・ジャアファルのお墓は、砂の中にあって、高いです。

Z2: その人はどうやってそこに行ったのでしょうか。言い伝えがありますか。

B1: 昔、戦争があったそうです。戦争になって、兵士たちと一緒にこちら側に逃げてきたそうです。そしてあそこで、高いところに入っていなくなったそうです。

Z2: お隠れになったのですね。

B1: お隠れになったそうです。人々はこのような話をしますよ。

Z2: 聖なる戦い、つまりジハードに行き、ここに兵士とともに逃げ、洞窟に入って、お隠れになったということですね。

B1: シャー・マシュラブ³⁶という方もそこに行ったそうです。シャー・マシュラブもあそこに行ったそうです。

Z2: どの町ですか。

B1: イマーム・ジャアファルです。地面に穴があります、大きなあれが。シャー・マシュラブという方は、その下で頭を下げて、礼拝をしてきたのだそうです。

Z2: 他にどのような聖地に行きましたか。

B1: 他にチェルチェン³⁷という場所があります。その山にカラサイという山があります。その山の中には、マザールがあるそうです。その名はヒンジュラ・ハーヌムだそうです。山から水が少し湧いて出るそうです。人々は何行って参拝します。

Z1: そこには誰かが埋葬されているのですか。

B1: 人がいますよ。

Z2: 埋葬されている場所がありますか。

B1: いいえ、さら地です。そこは非常に寒くなります。そしてほとんど雨が降りません。

Z2: カシュガルに、あなたが行く 20 年くらい前、シャミー・ダームラー³⁸という人がいたそうです。こちらから行った子供たちや、彼の地の子供たちに、ブハーリーの『サヒー

³⁶ バーバーラヒーム・マシュラブ。17 世紀後半から 18 世紀初頭に活動したナマンガン出身のスーフィー詩人で、カシュガルにいたアフファーク・ホージャに弟子入りしたと伝えられる。

³⁷ ホタン東方の小オアシス。漢語名：且末。

³⁸ いわゆる「ソビエト・イスラーム」の形成に影響を及ぼしたシリア出身のウラマー。本名、サイード・イブン・ムハンマド（1932 年没）。イラン、アフガニスタン、インド（カシミール）での滞在を経て、カシュガルに赴き、宗教教育活動を始めた。カシュガルにおける政治的イニシアチブがソ連からイギリスに移った際に北京に追放されたが、その後タシュケントに移住した。1920 年代に彼がタシュケントで指導した弟子の中には、後に中央アジア・カザフスタン・ムスリム宗務局のムフティーとなったズィヤールウッディーン・ババハノフらがいた。詳しくは、Б. М. Бабаджанов, А. К. Муминов, А. фон Кюгелген. *Диспуты мусульманских религиозных афторитетов в Центральной Азии в XX веке*, Алматы «Дайк-пресс», 2007, стр.57–61.を参照。

フ』を教えていたそうなのですが³⁹。

B1: シャーミー・ダームラーですか。

Z2: はい。アラビアから来ました。カシュガルで、これについて何か聞いたことはありませんか。

B1: ううむ、息子よ、私はその頃、幼かったのです。それについてはよく知りません。もう少し年が多い人に尋ねてみたらいいですね。私は小さかったのです。それに、父が亡くなってからは、生活に追われていました。それから、もう一つ話しますと、ここから行った人々の半分はソ連を支持し、もう半分は中国を支持していました。その両方が長を選んでさえたのです。もし互いに見つけ出せば、監禁していたのですよ。そのようなことも起こったのです。

Z2: お父さん、ここに、この村の歴史について本を書いた人がいたそうですが、これらのことについても全部書いたのでしょうか。

B1: ここから移住した、もともとウイグル人だったと思いますが、ウスマーン・アホン・ダームラーという人がいました。もしその人が書いたのなら、わかりませんが、でもウスマーン・アホン・ダームラーはカシュガルでは誰よりも尊敬されており、子供を学ばせていました。その人は中背でひげのある人でした。その人が最初に歴史を書いたのだったか、よくわかりません。

Z2: タシュケントに、ウスマーン・トゥルキスターニー⁴⁰という人がいました。彼のことを聞いたことはありませんか。

B1: わかりません。

Z2: 1920年代、1930年代に生きた人です。

B1: 息子よ、それについてはわかりません。

Z2: 知識を持った人でした。テルメズ周辺で暮らしました。

B1: 私よりも年長の人がいれば知っているかもしれません。

Z2: もともと、東トルキスタン出身でした。

B1: ここからとても多くの人が行きました。ロシア人の中にも逃げていった人がいました。

タタール人も行きました。クルグズ人も行きました。タジク人も行きました。多くの人が行きました。こちらから行った人すべてをアンディジャン人と言ったのです。

Z1: あなたの奥さんは新疆の人ですね。

B1: はい、新疆出身です。

³⁹ ムハンマド・アルブハーリーの編纂したハディース集『サヒーフ集』を用いてイスラーム学を教授していたと考えられる。

⁴⁰ シャーミー・ダームラーの弟子の一人。カシュガル出身で、シャーミー・ダームラーがカシュガルからタシュケントに拠点を移した際に同行した。

Z1: 今でも〔新疆の〕親戚と手紙のやりとりをしていますか。

B1: ええ、親戚も亡くなりました。私の妻も亡くなりました。子供たちがいます。

Z2: 手紙のやりとりをしていましたか。それとも電話をしていましたか。

B1: 手紙を書いていました。

Z1: 今ではどうですか。

B1: 今は、妻が亡くなりましたから。彼らも連絡をして、だれそれが行くから、と知らせたりします。

Z1: ああ、往来があるんですね。

B1: はい、彼らは来て帰りました。私の母方のおじの息子や娘がいました。コルラという町に。コルラという町があります。

Z1: あなたの親戚はいつ来て帰りましたか。

B1: 3年になります。

Z1: 移住してきたということですか。それともお客に来たということですか。

B2: お客にです。私の子供たちも行ってきました。

Z1: あなたは行ってきましたか。

Z2: この人の子供たちです。何に乗って行ってきましたか。どの交通機関を使いましたか。

B1: 車です。バスで行ってきました。

Z1: どの道を通りましたか。トルガルト⁴¹ですか。

B1: グルジャ経由です。イリとも言いますし、グルジャとも言います。

Z1: お疲れになりませんでしたか。ありがとうございました。

B1: あなたたちが疲れていなければ良いのですが。さて、あなたたちもお客になってから帰って下さいよ。お茶を一杯飲んでから。お茶を淹れてあげなさい。

⁴¹ 中国の新疆ウイグル自治区とクルグズ共和国ナリン州との間の国境（訳注 23 参照）。

2. 2003 年 8 月 10 日 ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡

① インタビュー No.1

＜パフタアーバード市の中心部に建つハビービー記念文学博物館の前で、案内人 X 氏に、調査を始めるにあたって、ウイグルアーバード村の歴史やそれについて研究された文献等についての解説を依頼した。＞

X: ウイグル人たちはここへきて農業をしていました。農業をして秋になると収穫物を集め、ラクダ、馬、ロバの背に乗せてまた彼の地へ帰っていきました。その後、「我々はいき来をしつづけるのか、ここへ移り定住しよう、ここへ。国が一つになったのだから」といい、徐々に移住してき始めました。ここにきた人々の移住は、1 年の間に起こったことではありません。今も来続けています。

[カシュガルは] まさにそのようにして、争いの絶えない都市になりました。例えば、満洲人、つまりこの人々がカラ・キタイたちと呼んでいる人たちが、東トルキスタンへ攻撃をした後、結果として年配の父母たちは、自らの子孫たちを守る目的で、「アンディジャンへ [逃げて] 行きなさい」と言いました。アンディジャンとは、タシュケントやその周辺地域、[フェルガナ] 盆地 [全体] もアンディジャンとみなされていました。

彼らはこの都市へ来てから、アンディジャンやアンディジャン周辺地域の村落部、ナマンガ、マルギランの周辺地域、さらにはトルクメニスタンへも来て住み着きました。そのような中で、我々のウイグル村にもやってきて住み着いたのです。ここへ住み着いた人々の多くはカシュガルの出身者たちです。

Z1: 満洲人が東トルキスタンを征服した時ですか。

X: 東トルキスタンを満洲人が攻撃してきて、人々を不安に陥れました。彼らはこの地へ来て、米、穀物、綿花を耕作しました。この耕作地を当時、アンディジャンの富豪たちは自分たちで勝手に分けて奪い取りました。アンディジャンの富豪たちもここに来て彼らを働かせました。

彼らはカシュガルのどの土地、どのマハッラの出身であっても、まさに出身マハッラの名前をここにもつけました。カシュガルのアトウシュ出身者が来て、一角に住み着いたので、マハッラの名前はアトウシュとなりました。我々のところには、アトウシュという名前のマハッラがあります。カシュガルには下 (アストウン・) アトウシュ、前 (アルドウン・) ⁴²アトウシュというアトウシュがあります。[カシュガルの] トックズ・バ

⁴² ウストウン (上) か。上アトウシュは、カシュガル市北西約 20 キロメートルに位置する。カシュガル市の北東約 30 キロメートルに位置するアストウン (下)・アトウシュと区別してそう呼称される。

ーグから来た者たちは、[ここの] トックズ・バーグに住み着きました。[カシュガルの] アザクという場所から来た者たちは、[ここの]アザクに住み着きました。アトゥシュは、カシュガルでもここでも[その名前の] マハッラがあります。我々のところには、アトゥシュ、トックズ・バーグ、シャウルグ、アザクというマハッラもあります。

この地でさらに人口が増加した後、ここにまた新しいマハッラをつくりだしました。例えば、水力脱穀機（アーブジュヴァーズ）や製粉機がある場所に住み着いた人々[のマハッラ]は、アーブジュヴァーズ・マハッラです。

また、プシュマーンというマハッラもあります。プシュマーンというのは「後悔（プシャイマーン）」という言葉から取られています。彼らの家畜の群れに狼が草むらから襲いかかった後、我々はこの地において、「悔やまれるなあ」と言ったことから、後悔した者たちがプシュマーンの人となり、プシュマーン・マハッラとなったのです。

その他、サイ・マハッラがあります。ある小川（サイ）がありました。その小川に沿って人々が住み着きました。今や、小川はなくなってしまい、マハッラとなってしまいました。そしてそこはサイ・マハッラと言われています。

その他、さらにカーヴル・マハッラがあります。マトカーヴルという人が最初に来て、その土地に家を建てました。そのマトカーヴルの名でカーヴル・マハッラとなりました。

トキョというマハッラもあります。トキョというと、ある人々はこのには日本人がいるのか、といいます。しかし、そういうことではありません。「トキョ」というのは母親から生まれる時、片足が[曲がって]短くなる人がいるでしょう、そのことをウイグル語で「トキョ」というのです。その足の曲がった人間がこの土地をマハッラにした後、周辺地域に他の人間たちが来て、住み着いたのでトキョ・マハッラとなったのです。

我々にはパイナブというマハッラもあります。パイナブとは播種の時の水が足まで溢れ出る[場所の]ことです。そのような灌漑水路に沿って住み着いたため、つまりはパイナブ・マハッラなのです。

Z1: それはカシュガルにはないのですか。

X: いいえ。カシュガルにはありません⁴³。

我々にはジャンジャルという村もあります。ジャンジャルという名前はカシュガルにもあります。それらのマハッラに我々の仲間が住んでいます。今、新しいマハッラをつくっているところです。

以前、1930年までは我々の村はカシュガル村と言われていました。1930年以降、ウイグル村と名付けられました。今や、ウイグルアーバードと言われています。18,000の人

⁴³ 実際には、カシュガルのまちの東南部にパイナブ（帕依納普）という地区がある。

口が住んでいます。その 18,000 人のうち 16,500 人はウイグル人であり、残りは他の民族の人たちです。

Z1: ウイグルアーバード村自体にですか。

X: はい、ウイグルアーバード村自体にです。

我々のコルホーズは、アーリム・クルバーノフ名称のコルホーズです。アーリム・クルバーノフは、長年にわたり当コルホーズでコルホーズ長を勤めた労働英雄であり、5 回にわたりウズベキスタンの国会に議員として選出されました。

Z1: 彼はウイグルアーバード村出身ですか。

X: はい、ウイグルアーバード村出身です。

1957 年には、我が郡から一度に 6 人も労働英雄が出ました。その労働英雄たちの 4 人までは我々ウイグル人に属し、2 人はウズベク人でした。彼ら〔の名前〕を挙げてみることもできます。

タージャハーン・ヤークーボフ。ウイグル人です。今、ヤークーボフ・コルホーズといわれています。彼は、そのヤークーボフ・コルホーズのコルホーズ長でした。彼が亡くなった後、彼の名前を〔記念して〕付けたのです。

コナグアリーという〔コルホーズの〕作業班長（ブリガディール）⁴⁴もいました。彼もまた我々ウイグル村出身の労働英雄です。

バーザール・ママダリーエフという人もいました。バーザール・ママダリーエフは郡執行委員会の長でした。〔省略形で〕郡執行委員会というのがありました。彼もウイグル人でした。

Z2: あなたは東トルキスタンで暮らしたことがありますか。それともここで生まれましたか。

X: ここで生まれました。そうです、私はウイグル人です。

Z2: あなたは向こうから来たのですか。

X: いいえ。

Z2: 東トルキスタンで生まれた人はいますか。

X: はい、今もいます。1957 年に〔東トルキスタンを〕出てきた者もいます。

Z2: 1930 年代から 1940 年代までの出来事を話してくれそうな人はいますか。

X: 私は〔その時代の人から数えて〕5 代目に当たります。1956 年から 1957 年に出てきた人たちは {XA} 村にいます。

Z2: 東トルキスタン史について話してくれそうな人はいますか。

X: ええ、いるでしょう。

⁴⁴ 一般的にコルホーズに限らず労働作業班（ブリガダ）の長を意味する言葉であるが、本インタビュー集では、コルホーズの下位区分としての作業班を指してのみ用いられる。

Z2: 1920 年代、あるいは 19 世紀に何パーセントの人が[ここに]来ましたか、そして 1956 年頃には何パーセント来ましたか。

X: 以前、ウイグル文化センター長であったフサンアホン・ムーサーエフという人がいました。彼は教授で、医学系大学で経済学を教えていた人物です。家はアンディジャンの{XB}にあります。その人が書いた、カシュガルから中央アジアへ来たウイグル人たちについて書いた論文及び著作があります。

サイフッディーン・ジャリーロフという人もいます。彼も教授で、アンディジャン大学で教鞭をふるいました。彼の家は{XC}という所にあります。その人物も我々の村に来て歴史を学び、著作を著しました。フサンアホン・ムーサーエフさんは亡くなりましたが、彼の子供たちがいます。

Z2: サイフッディーン・ジャリーロフさんがウイグルアーバードに興味を持ったのは何故なのでしょう。彼自身はウイグル人ではないのですか。

X: いいえ、彼は本が書きたかっただけです。フサンアホン・ムーサーエフはウイグル人です。彼は経済学準博士です。

Z2: 彼は東トルキスタンから中央アジアへ移住したウイグル人についての論文を書いたといいましたね。あなたはその論文を持っていますか。

X: いえ、私は持っていません。

Z2: 博物館にあるのでしょうか。

X: いえ、ここでウイグル人たちについての情報はありません。この博物館はハビービー名称文学・芸術博物館ですから。おそらく大半のものはハビービーにまつわるものでしょう。ハビービーは、ここパフタアーバードで生まれ、タシュケントで暮らして亡くなったウズベキスタンの国民詩人です。

Z2: ウイグルアーバードについての文書はどこにありますか。

X: ウイグルアーバードについての文書やムーサーエフの論文を見つけないのなら、サイフッディーン・ジャリーロフという人を見つければ[よいでしょう]。それから、カーシム・バーキエフという人がいましたが、亡くなってしまいました。彼はタシュケントで暮らしていたのですが、哲学博士で民俗口頭伝承について論文があります。彼には『東トルキスタンから来たウイグル人』という題名で著作があります。

Z1: 誰とおっしゃいましたか。

X: カーシム・バーキエフです。

Z1: タシュケントで出版されたのですか。何年頃ですか。

X: タシュケントで 1970 年代に出版されたはずですが。タシュケントで[暮らす]ウイグル人たちを知っていますか。そこにはウイグル人たちはたくさんいるのです。[タシュケント

には] ルーズィ・カーディリイーという詩人がいました。

Z2: 彼は亡くなりましたよ。

X: ウイグル人たちは[第二次世界大]戦後の1940年代頃、スターリンが亡くなった後、フルシチョフの時代にも1954年から1956年までここに来ていました。現在、来なくなってしまいました。コーカンド村の歴史を話す必要はありませんか。

Z1: 必要です。話して下さい。

X: コーカンド・ハーン国においては、初代のナルボタ・ベク⁴⁵の後、彼らの息子たちであるアーリム・ハーン⁴⁶、ウマル・ハーン⁴⁷ [がハーンとなり]、その後フダーヤール・ハーンがハーンとなりました。その当時、この地は沼地でした。ナルボタ・ベクを[ハーンに]戴いた後、偉大なる息子であるアーリム・ハーンがハーンとなりました。アーリム・ハーンが殺害された後、ウマル・ハーンがハーンになりました。ウマル・ハーンは、女詩人であるナーディラ・ベギム⁴⁸の配偶者です。この地を豊かにする目的で、捕虜や税を払えなかった貧民たちをこの地に移民させました。

Z1: アーリム・ハーンの時代にですか。

X: アーリム・ハーン、ウマル・ハーンの時代にです。

その後、移民させた後、この地に最初に来た者たちのうちの1人であるムアッズィン・バイというムッラーがイーシャーンになったのです。この地にはそのムアッズィン・バイの子孫たちがいます。彼は一度に42台のロバ車でやって来ました。一見して、ここでは土が良いし、水も豊富だと彼は思いました。

このようにして、人々はコーカンドのどの村から、どのマハッラから来たとしても、その名前をこの地に付けました。例えば、コーカンドにはハファラクという所があります。ハファラクというマハッラはこの地にもあります。[コーカンドには] サングラバートという場所もあります。この地にもサングラバートはあります。[コーカンドには] カラシャクという場所もあります。カラシャクはこの地にもあります。ハイルアーバード、ファイズアーバード、カラシャクというコーカンドにあるマハッラ [の名] は、まさにこの地に定着していったのです。その後、この地ではさらに新しいマハッラがつくられました。コーカンドの人々がこの地を豊かにしたのでコーカンド村となりました。コー

⁴⁵ コーカンド・ハーン国君主ナルボタ・ビー（在位 1768/69 年頃-1798/99 年）。ハーン国初代の君主というのは誤りである。

⁴⁶ コーカンド・ハーン国君主（在位 1798/99-1809 年）。

⁴⁷ コーカンド・ハーン国君主（在位 1809-1822 年）。

⁴⁸ 女流詩人マフラル・アイム（1792 年頃-1842 年）。チャガタイ語、ペルシア語の詩集が残されている。コーカンド・ハーン国君主ウマル・ハーンの子であり、ムハンマド・アリー・ハーン之母である。アミーリーの筆名で自ら詩を詠んだウマル・ハーンとともに文人たちを宮廷において保護し、ハーン国における文芸の発展に尽力した。

カンドの人々の村 [という意味です]。

Z1: こことおっしゃったのは、ウイグル村のことですか。それとも別の村ですか。

X: ここは、ウイグル村とは別の村です。ここは、ウズベク人が住む村であり、コーカンド村として 1926 年にイズバスカン郡が編成されました。1939 年、イズバスカン郡からパフタアーバード郡が分離しました⁴⁹。

最初に来た者たちのうちのムアッズィン・バイは、彼の本名は別でした。人々の間で広まった名前がムアッズィン・バイなのであり、学があり、裕福な人間でした。

Z3: パフタアーバード郡には聖地はいくつありますか。

X: 聖地は多いです。ウイグル村にはキリチ・ブルハーン⁵⁰という場所があります。それからトルキスタン・コルホーズにはハウスカン・アタ⁵¹という場所があります。コクトンリク・アタという所がコクトンリク村にありますが、今でいうヤークーボフ・コルホーズです。タクスィーム・アタというのが、パフタアーバード郡のマダニヤト村にあります。ミール・タクスィーム・アタというマザールがあるのです。

Z1: ゆっくり言ってください。

X: キリチ・ブルハーンはこのウイグルの村にあります。コクトンリク・アタはコクトンリク村、今で言うヤークーボフ・コルホーズにあります。ハウスカン・アタはトルキスタン・コルホーズにあります。ミール・タクスィーム・アタはパフタアーバード郡のマダニヤト村にあります。

Z1: モグル村というところにバハーウッディーン・ナクシュバンディー廟がありますか。

X: モガルのことですね。モガル村はクルグズスタンにあります。でも知りません。カダムジャーイ⁵²ではありませんか。

ハウスカン・アタという場所に丘があります。その丘の隣に墓地があります。人々がこの丘の麓を掘ると、麓から泉が湧き出ます。

⁴⁹ 近年刊行された『ウズベキスタン民族事典』によると、1926 年にパフタアーバード郡が編成され、1962 年にイズバスカン郡と合併され、1970 年に再度パフタアーバード郡が編成された。Ўзбекистон миллий энциклопедияси, 7, Тошкент, 2004, 23–246.

⁵⁰ ブルハーンヌッディーン・キリチ、キリチ・ブルハーンヌッディーンなどの名でフェルガナ盆地でよく知られた半伝説的な人物で、法学者とも支配者ともスーフィーとも言われる。クルグズ共和国オシュ州ウズゲンドやタジキスタン共和国フジャンド市近郊のシャイフ・ブルハーン村にも彼のものと伝えられる廟がある。ブルハーンヌッディーン・キリチについては詳しくは Абашин, С. Н. Бурханиддин-Кылыч: ученый, правитель, чудотворец? О генезисе культа святых в Средней Азии, Подвижники ислама, Культ святых и суфизм в Средней Азии и на Кавказе, Москва, 2003, стр. 215-236. を、タジキスタンにおける廟については、澤田稔「フェルガナ盆地における聖地調査」『シルクロード学研究 28 中央アジアのイスラーム聖地：フェルガナ盆地とカシュガル地方』奈良、2007 年 p. 15 を参照。

⁵¹ パフタアーバード郡ファイズアーバード村にあるマザール。翌 2004 年 8 月 30 日に調査者らが行った調査によると、ハウスカン・アタはイラクから来た人物であり、マザールの敷地内にある洞窟はハウスカン・アタが「お隠れ」になったと伝えられているという。

⁵² 聖者が埋葬されている「マザール（廟）」に対し、聖者が訪ねた場所「足跡の地」を表す。

ウチコザ村にはジャーナディル・マカーディルという丘もあります。そこには廃墟が残っています。ジャーナディル・マカーディルという丘はアラブ人 [が侵入してくる] 以前、アラブ人に対抗して戦った者たち [の名前から取られたの] です。ジャーナディルが兄でマカーディルが弟です。彼らはクタイバに抵抗して戦いました。我々のところにはウチコザという村があります。くだんのジャーナディル・マカーディルは丘を作り、妻子や親族とともに丘に大きな城砦を築いて暮らしていました。[彼らはその城砦まで] ナリン川⁵³から地下を通じて水を引いてきて、その水路は彼ら一族のところまで水をもたらしていました。アラブ人たちが [周辺地域を] 制圧した後、彼らは城砦の門を閉ざしました。アラブ人たちが「あれをどうやって落としたりよいだろうか」と裏切り者に尋ねると、「あの三つ叉の水差しの水が流れる穴を見つけて塞いでおけば、彼らは渇きに耐えかねて降伏するに違いありません」といって、ナリン川へ蘆を流し入れました。水が水差しの口から流入しているところに、腰を [紐で] 縛って人を吊し降ろして水路を塞いだのです。水は、素焼きの水差しの口をそれぞれつなげて引かれていました。まさにそれで我々の村の名前は [三つ叉の水差しを意味する] ウチコザなのです。

Z1: 誰とおっしゃいましたか。

X: ジャーナディル・マカーディル兄弟です。これらについて正確な情報はありません。単に民衆の間で [語り継がれている] 伝承があるだけです⁵⁴。

Z1: ウチコザにマザールがあるのですか。

X: 丘があります。サイフッディーン・ジャリーロフという考古学者がここを調べました。それでこれに関する情報があります。ここから人の頭蓋骨、水差しが出土したそうです。

つまり、コーカンド村の歴史はコーカンド・ハーン国の時代に結びついた [時期] だけではなく、それ以前にも [存在した] という情報があるということです。

エスキ・コルガン、カラ・コルガンという場所もあります。そのジャーナディル・マカーディルの丘の周囲にある台地を発掘したところ、その下から人間の住居 [跡] が出土しました。

アンディジャンの {XB} というマハッラにムーサーエフ・フサンアホンさんという人が暮らしていました。彼是我々の州のウイグル文化センターのセンター長でした。現在では、Xa という人がウイグル文化センターのセンター長です。その人を見つければ、[フ

⁵³ 天山山脈からフェルガナ盆地に流れ込む川。パフタアーバード郡を通過しシルダリヤに合流する。

⁵⁴ アンディジャン州ジャラルクドゥク郡スーフィーキシラク村にはクタイバ・イブン・ムスリムが埋葬されていると言い伝えられているマザールが存在する。そこで語り継がれているクタイバ・イブン・ムスリムの伝承には、このジャーナディル・マカーディルの伝説に対応する話が見られる。それによると、クタイバは、異教徒の立て籠もる城を、そこに流れ込む運河に小麦の穂を投げ込んで水路を塞ぐことで落城させたという。河原弥生「クタイバ・イブン・ムスリム廟：口承伝説と所蔵文書の検討」『シルクロード学研究 28 中央アジアのイスラーム聖地：フェルガナ盆地とカシュガル地方』、p. 56。

サンアホン・ムーサーエフさんの子供たちを] 見つけてくれます。フサンアホン・ムーサーエフさんの家はアンディジャンの公園の東側のマハッラにあります。大学の周辺のマハッラは {XB} と呼ばれています。そのマハッラの人たちは全てウイグル人です。フサンアホン・ムーサーエフさんは歴史家ではないのですが、歴史をよく知っていました。彼は経済学を教えていました。

Z1: ウイグル人たちはカシュガルからウイグルアーバードへ来たことについて、ジュンガルが東トルキスタンに制圧したので、[ウイグル人たちはここへ] 逃れてきましたよね。その後 1956 年頃も移動してきましたよね。その間の時代についての情報はありますか。この地に移動してきたことについて他の理由はありますか。

X: 理由の一つは、コーカンド・ハーン国の時代に、コーカンド・ハーンは確かにある時期、カシュガルを支配下に入れていたのです。特にウマル・ハーンやその息子であるマダリー・ハーン、すなわちムハンマド・アリー・ハーンは、東トルキスタンに進攻してカシュガルを掌握しましたが、そこを中国が取り戻しました。その時にもウイグル人たちはフェルガナ盆地に多くやってきました⁵⁵。フェルガナ盆地のどこに行っても、カシュガル・マハッラ、カシュガル村、ウイグル・マハッラ、ウイグル村という場所があります。

Z1: あなたは [移住してきた世代から数えて] 5 代目でしょう。何年にあなたの先祖たちは来たのですか。

X: 私は 1938 年に生まれました。私の父の Xb は 1907 年に生まれ、1994 年に亡くなりました。父の父は Xc といい、1933 年に 72 歳で亡くなりました。祖父の父は Xd でした。彼は 1916 年 83 歳で亡くなりました。この Xd がカシュガルから出てきたのです。来て、{XD}・マハッラに住んでいたのです。

Z1: では、あなたは [移住してきた人から数えて] 4 代目ではありませんか。

X: 私、父である Xb、Xc、Xd、それ以前の人にはカシュガルにいたので、彼らの名前は知りません。そうですね。4 代ですね。我々の祖先はカシュガルでアーファーク・ホージャ⁵⁶の周りにあるマハッラにいたそうです。

Z1: あなたの曾おじいさんは何歳でカシュガルを出てきたのですか。若い時ですか。

X: 若い時でした。[曾祖父が] 乳児の頃、母親の腕に抱かれて出てきたそうです。私の曾祖父には当時年長の兄がいました。[カシュガルから] 出てくる時、既に 18 歳でした。その人の名前は Xe でした。その人は {XE} [村] に住み着いてその地に残りました。母親と息子 2 人、そして娘 1 人の 4 人が [カシュガルから] 出てきたそうです。Xd と Xf [と

⁵⁵ 1830 年にコーカンド・ハーン国の軍隊がカシュガルに侵入し、清軍が領域を回復した際に、多数のカシュガル地域住民がコーカンド領に移動したと言われる。詳しくは「解説」を参照。

⁵⁶ アーファーク・ホージャのマザール、すなわちカシュガル市東方に位置する、いわゆるカシュガル・ホージャ家アーファーク統の墓廟を指すと考えられる。

いう姉弟の双子] だったそうです。Xf はアンディジャンで嫁に行ったそうです。Xe は {XE} [村] に行行って住み着き、そこで結婚してその土地の人間となりました。そこも我々の祖先 [の子孫] がいます。弟 (Xd) は我々、ウイグル村に住み着きました。我々の父祖たちよりも前に出てきた者もいます。

Z1: あなたの曾おじいさんはどんな理由でカシュガルから出てきたのでしょうか。

X: ほら、満洲人が攻めてきて戦いになったのです。東トルキスタンで中国軍と騒動がおき、戦いになったので出てきたのでしょうか。Xd の父はアンディジャンで結婚したのです。彼の妻はアンディジャン出身者でした。彼 (Xd の父) は「我々は年をとってしまった。お前は弟たちと母を連れてアンディジャンの母方のおじのもとに行け」と Xe に言ったのです。母方のおじというのは、[Xd の父の] 妻の兄や弟のことです。アンディジャンには {XF} という村があります。その土地に母方のおじがいたのです。そこでそこに来て場所をもらい、住み着いたのです。

Z1: つまり、あなたの曾おじいさんのお父さんはカシュガルから出てアンディジャンで暮らしていたのですか。

X: 行き来していたのです。彼自身はカシュガル出身者であり、妻がアンディジャン出身者だったからです。シルクロードでは隊商たちは行き来したものです。

Z1: 曾おじいさんはアンディジャンで生まれたのですか。

X: いいえ、違います。アンディジャンで結婚してカシュガルに [妻を] 連れていったのです。4 人の子供たちがいたうち、1 人だけ自分のもに残しました。そこに娘と一緒に残り、「私が死ぬ時は、看取ってくれるように。お前は弟たちと母とともに行け」と長男の Xe に言ったのです。その後、彼らはアンディジャンの Xg という母方のおじのところで住み着いたのです。Xe の母、妹、弟を Xg おじの所に残し、自分 (Xe) は、平和を求めて {XE} [村] のほうへ向かって留まりました。

しかし、ウイグル村の歴史は私の父祖の来歴だけに限られるわけではありません。その前からすでに始まっていました。800 年以上も前からです。

Z1: あなたの曾おじいさんはウイグルアーバードへ、ウイグル人、もしくはカシュガル出身者がこの地に住んでいるから来たのですか。

X: カシュガル出身者がいるから来たのです。

Z1: まさにあなたのように、その時代に自分の祖先がカシュガルからやって来たという人は [他に] いますか。その人自身はカシュガル生まれでなくとも、例えば [カシュガル出身の移住者から] 4 世代くらい経た人はいますか。

X: います。年取った老人たちならいます。

Z1: どこで会えますか。

- X: {XA} という村があります。70 歳から 80 歳を過ぎた人たちがいます。
- Z1: あなたの曾おじいさんである Xd やカシュガルで居残った父祖たちの名前はわかっていますか、知りませんか。
- X: 知りません。Xb は私の父であり、彼の父は Xc、彼の父が Xd です。Xd の父はあちら（カシュガル）に娘 1 人と残りました。彼自身ずいぶん年取っていたそうです。年取ってから子供に恵まれたそうです。長男の名前は Xe で、18 歳だったのです。彼の子孫たちは {XE} [村] にいます。Xf はアンディジャンに残り、結婚しました。Xd はここに来てから結婚しました。もう 1 人の娘は、Xh です。彼女はカシュガルに残りました。「私が死ぬ時には、看取ってくれるように、私 [の面倒] を見てくれるように」といって残しておいたのです。
- Z1: つまり、その娘は Xe よりも年上だったのですか、年下だったのですか。
- X: 知りません。
- Z1: つまり、お母さんは 3 人の子供を連れてきたのですよね。
- X: 母と長男の Xe、Xd、Xf の 4 人だけが来ました。Xh はその土地に残りました。アンディジャンには Xg という母の兄がいたので、アンディジャンのそのおじを頼って行きなさいと言ったのです。
- {XF} というところがあります。そこにもウイグル人たちが住んでいます、彼らはウズベク化しています。
- Z1: 長老たちの名前を教えてください。
- X: Xi さん。80 歳を過ぎた方です。ハッジに行ってきました。{XA} 村にいます。
- もう 1 人は Xj さん。彼らは [Xi さんと] 互いに親族です。
- Xk さん。1957 年にカシュガルからやって来ました。戦争中の東トルキスタンの情勢について知っています。今、{XA}・マハッラでイマームをして 70 歳近くになります。
- みな {XA}・マハッラの者です。
- Xi。教師です。現在は年金生活者です。彼もハーッジーです。Xi も、Xi ももとは彼の地（カシュガル）出身者です。彼らの父祖たちも古くはカシュガルから出てきた者たちなのです、私同様に。
- カシュガルには {XA}・マハッラがあります。カシュガルの {XA}・マハッラから来て住み着いたのです。隣にはアンディジャン・マハッラがあります。コーカンド・コルガンチャ・マハッラもあります。コーカンド・コルガンチャはアーホンバーバーエフ・コルホーズの向かいです。{XA} 村と隣り合っています。コルガンチャの者たちはコーカンドから出てきて住み着きました。しかし、この {XA} [・マハッラの住民たちは]、カシュガル出身者であり、ウイグル人なのです。

② インタビュー No.2 (2003 年 8 月 10 日)

＜インタビューNo.1 の後、個人宅に移動し、長老たちよりインタビューを行った。＞

Z2: お父さん、こちらの先生方は東トルキスタンの歴史が専門です。

C1: 私は何を話せばいいのですか。⁵⁷

Z2: 東トルキスタンから出てきた歴史をです。

C2: どこでお生まれになりましたか。

C1: 我々はここで生まれました。

Z1: あなたの曾おじいさんはカシュガル出身者だそうですね。それに関心があって質問をしようと思って来たのです。

C1: ここから我々の親族の 1 人がカシュガルに行きました。カシュガルから、一人はカシュガルに残ったのですが、もう一人はハッジに行ったのです。女性です。そのことを話すということですね。

Z2: そうです。

Z1: あなたご自身はカシュガルから来たご先祖から何代目になりますか。

C2: あなたのおじいさんの墓所はどちらですか、カシュガルですか。アトゥシュですか。

C1: アトゥシュのはずです。

C2: お名前は何でしたか。

C1: Ca です。

Z1: おじいさんですか。

C2: おじいさんです。お父さんのお父さんです。お父さんの名前は何でしたか。

C1: 私の父の名は Cb です。父の父についてはよく知らないのです。我々はまだ小さかったから。父についてなら知っています。

Z1: [おじいさんは] あなたが生まれた時、ご存命でしたか。

C1: 私が生まれた時、まだ父はいたのです。彼は 1985 年に 85 歳で亡くなりました。

C2: 何年に生まれましたか。

C1: 1902 年に生まれたのです。

C2: あなたのお父さんはカシュガルで生まれましたか、それともここですか。

C1: 私の父はここで生まれたのです。

Z2: あなたのお父さんのお父さんはカシュガルで生まれたのですね。

C1: 父方の祖父はカシュガルで生まれました。

⁵⁷ インタビュー①における Xi 氏にあたる。

Z1: どこで亡くなりましたか。

C1: カシュガルのアトウシュで亡くなりました。父はここで生まれました。彼はコルホーズ
成員でした。

Z1: あなたは何年にお生まれになったのですか。

C1: 1928 年です。

Z2: あなたの姓名を教えてください。

C1: C1 です。

Z2: あなたの父方のおじいさんはカシュガルで生まれ、亡くなったのですね。あなたのお父
さんはどうしてこの地で生まれたのですか。

C1: 私の父は母親とともにこの地に来たのです。祖父はカシュガルに残りました。私の父は
母親とともに来て、後に帰れなくなったのです。後に結婚してここに留まりました。

Z1: つまり、あなたのお父さんは自分の父に会っていないのですね。

C1: そうです。私は会っていません。

Z1: あなたじゃなくて。あなたのお父さんはどうですか。

C1: 会っています。

Z1: どこですか。

C1: あちらですよ。私の祖父はカシュガルで亡くなりました。私の父は戻ってこちらに來
て、そしてあちらに行けなくなったのです。

Z2: こちらに來たということは、つまり、あなたのお父さんはカシュガルで生まれているの
ですね。

C1: いいえ、父はここで生まれました。あ、そうです。私の父はカシュガルで生まれたので
す。その通りです。

Z1: あなたのお父さんはカシュガルで生まれ、その後、この地へ来て、また戻ったのでしょ
うか。

C1: いいえ、[カシュガルに] 戻ることは出来ず、[ここに] 残ったのです。

C2: カシュガルで生まれて、何らかの理由でこの地に來たのです。來た後、カシュガルに戻
ろうとした時、ロシア人たちが国境を封鎖したのです。国境を封鎖した後、赤軍は彼ら
を通さなかったのです。

Z1: あなたのお父さんはカシュガルで生まれ、彼の母とここに來た後、帰れなかったのです
ね。

C2: おっしゃる通りです。

Z1: あなたのおじいさんはここに一度も來なかったのですか。

C1: 祖父ですか。いいえ、來られませんでした。

Z1: ただカシュガルにいらしたのですか。

C1: ただカシュガルにいただけです。

Z1: あなたのお父さんは、いくつの時にここに来たのですか。

C1: 25-26 歳ぐらいで来たのです。

C2: あなたは 1925 年生まれでしたよね。

C1: 1928 年です。

C2: 1928 年生まれということは、この人のお父さんは、来てここで結婚したということですね。1925 年頃にここに来たのですよね。国境は 1926 年から 1928 年、1930 年まで開放されていました。その後、通れなくなったのです。「我らのものである」と布告が出たので。

Z1: あなたのお母さんはこちら出身の方ですか。それともカシュガル出身者ですか。

C1: この地の者です。ウイグル人です。

Z1: あなたのおばあさんはどうですか。

C1: 祖母もウイグル人です。

Z1: カシュガル出身者ですか、この人ですか。

C1: 母の母はこの地の者です。父の母はカシュガル出身者です。

Z1: では、カシュガル出身のおばあさんは、どのようにしてここに来られたのですか。

C1: 父とともに祖母がここに来たのです。2 人共です。前から親族がいたので、彼らの所に来て 1-2 年身を寄せているうちに帰れなくなったのです。帰れなくなった後、父はこの地で結婚し、子をもうけました。後に、私の父の父が亡くなったと知らせがきました。

C2: 互いに手紙を送りあっていたのですね。

Z2: あなたのお父さんとそのお母さんはどんな理由で来たのでしょうか。

C1: 客に来たのです。

Z2: あなたのお母さん⁵⁸には息子さんが 1 人だったのですか。

C1: 息子が 2 人、娘が 1 人いました⁵⁹。

Z2: 彼らはカシュガルに残ったのですか。

C1: いいえ、こちらにいます。3 人の母から 3 人の子供が生まれました。1 人妻をめとりましたが、亡くなったので、もう 1 人めとり、また死にました。それでまためとりました。1 人の父ですが、3 人の母から 3 人子供が生まれました。

Z2: あなたのお父さんには兄弟はいますか。

C1: いいえ、彼 1 人です。

⁵⁸ 質問者は回答者の父方の祖母について尋ねようとしたが、誤って「あなたのお母さん」と尋ねてしまった。

⁵⁹ 回答者は、自分の母親について答えている。

- Z1: あなたのお父さんがカシュガルに帰れなかったために、この地で結婚したのですか。
- C1: そうです。帰れずに残ったからこの地に残って結婚したのです。
- Z2: 1902 年頃、彼の父は生まれました。1926-1927 年頃、つまり 25 歳頃に母とここに来たのです。後に、カシュガルに帰れなくなりました。そして、この地で結婚しました。それでこの人が生まれたのですね。
- Z1: 何年に国境が閉鎖されたのですか。
- C2: ロシア人たちはカシュガルから人が家畜・財産とともに通る許可を与え続けていました。この土地から帰って行く許可は出ませんでした。[国境は] ただ一方向に働きました。最後は 1957 年まで許可があったようですが、1957 年を過ぎるとその後は完全に通さなくなってしまうそうです。ロシア人たちは、人々を煽動し、騙し続けました。「我々のところでは、あれもいい、これもいい、条件が良い」といって。しかし、逆には通しませんでした。労働力を使って開拓するためにです。国内の政治状況はそんな感じでした。
- Z2: あちらから手紙が来ていましたか。あなたのおじいさんのほうから。親族から写真などは来ましたか。
- C1: 写真は来ませんでしたし、のちに手紙も来なくなりました。メッカ巡礼の時、サウジアラビアから写真が来ました。メッカ巡礼に行った人は私の母方のおばの娘でした。おばはこの地の近くで亡くなりました。おばも特別に学識のある女性でした。とても強い女性でした。知識が豊富でした。[こちらに来る]道が開けて後、彼らはこの地にきました。
- Z2: あなたのおばの娘は何年に旅に出たのですか。
- C1: 何年かは知りません。
- Z2: では、何歳の時ですか。
- C1: 現在、77 歳です。
- Z2: どこに住んでいらっしゃいますか。
- C1: [今でも]サウジアラビアに住んでいます。親族とともにメッカ巡礼に出かけたのです。父親はカシュガルに残りました。後に、娘にその地（サウジアラビア）で夫を見つけてやりました。コーカンド出身の人間に嫁に出したのです。そこで子供をもうけて残りました。
- Z1: あなたの母方のおばの子供ですよ。
- C1: はい。
- C2: 今はどこに住んでいますか。メディナでしたっけ。メッカでしたっけ。
- C1: メッカに住んでいます。現在 77 歳です。
- Z2: 名前は何とおっしゃるのですか。
- C1: 名前は Cc です。

Z2: 何歳の時にここからカシュガルに行きましたか。

C1: この地から父親とともに 10 歳の時にカシュガルに行きました。私より 2 歳年上です

Z2: 1926 年生まれということですね。

Z1: 現在も、あなたたちは手紙を書きあっていますか。

C1: いいえ、今、手紙を書くような人はいません。

Z1: 手紙が来なくなったのはいつ頃ですか。

C1: 5 年、いえ 8 年経ちました。その母方のおばが死んでから。Cc の母が 1995 年に亡くなったのです。

C2: この地で彼女が亡くなってから手紙は来なくなりました。

Z1: あなたの従姉妹（母方のおばの娘）は誰とカシュガルに行ったのですか。

C1: 彼女の父親とともにです。

Z1: 彼女は誰とともにメッカに行ったのですか。

C1: 親族です。女性は女性同士でメッカ巡礼に出るものです。彼女の父はカシュガルに残ったのです。彼女の父は 1 年後、ためらいつつも「我々も行こう」と言い、それでも行けなかったのです。

Z1: カシュガルであなたのおじいさんはいつ亡くなったのですか。

C1: 1929-1930 年頃に亡くなったに違いありません。

Z1: つまり、あなたのお父さんがこの地へ来て 5 年経ってから、亡くなったということですね。あなたのお父さんはカシュガルにいらした頃はどんな仕事に就いていましたか。

C1: 農業をしていました。

Z1: あなたのおじいさんも農業をしていたのですか。

C1: 農業です。[私の父は] この地へ来ても農業をしていました。

③ インタビュー No.3 （2003 年 8 月 10 日）

D1: 私は 4 代目です。⁶⁰

Z1: お名前は何とおっしゃるのですか。

D1: D1 です。

Z2: 名字は何ですか。

D1: D1 です。

Z2: 何年に生まれましたか。

D1: 1939 年です。

Z2: あなたのお父さんの名前、あなたのお父さんのお父さんの名前、そのお父さんの名前と、彼らが何年に生まれ、亡くなったかを話していただけませんか。

D1: 私の父はおよそ 1889 年頃に生まれ、1985 年に亡くなったのです。

Z2: 彼の名前は何か。

D1: Da、Db の息子です。私の祖父は Db です。

Z2: おじいさんは何年に生まれ、何年に亡くなりましたか。

D1: 私の祖父が亡くなった時、私の父は 14 歳だったそうです。私の祖父が 56 歳の時に、私の父が生まれたそうです。

Z2: ということは、[あなたのおじいさんは、] 70 歳まで生きたということですね。この方のお父さんが 1889 年に生まれて、14 歳の時にそのお父さんが亡くなったということは、つまり [この方のおじいさんは] 1903 年に亡くなったということですね。

D1: 私の父は 1985 年に亡くなったと言いましたっけ。1975 年でした。いえ、1978 年でした。

Z1: あなたのお父さんは 1978 年に亡くなったのですか。

D1: 1978 年 2 月 23 日です。

Z2: お祖父さんは 1903 年に 70 歳で亡くなったということですね。

Z1: あなたのお父さんは 90 歳まで生きられたのですか。

D1: 84 歳、いえ 86 歳です。

Z1: あなたのお父さんは 1978 年に 86 歳で亡くなったのですね。あなたのお父さんは 14 歳で彼の父を亡くしました。彼の父は何歳で亡くなったのでしたっけ。

D1: 父の父は 70 歳で亡くなりました。

Z1: 56 歳の時の子供ということでしたね。あなたのおじいさんのお父さんの名前を知っていますか。

⁶⁰ インタビュー①における XI 氏にあたる。

D1: はい、Dcです。

Z1: 彼はいつ亡くなられたかご存じですか。

D1: いえ、知りません。

Z1: 彼のお父さんの名前は何ですか。

D1: それは知りません。そうだ！Ddでした。

Z1: カシュガルからここに来たのはこのDdだったのですか。

D1: そうです、そのDdたちの一族が来たのです。Ddの次がDc、Db、Daです。我々の{DA}村の歴史は250年には達しません。

Z1: あなたのおじいさんはカシュガルで生まれたのですか。

D1: カシュガルで生まれました。しかし、[カシュガルの]どこで生まれたかは知りませんが。

Z1: あなたのおじいさんは何歳でここに来たのですか。

D1: 結婚した時に来たのです。

Z1: あなたのお父さんはここで生まれたのですか。

D1: はい、ここで生まれました。

Z1: あなたのお父さんに兄弟はいますか。

D1: 私の父は1人息子でした。3人の姉がいました。3人の姉の子孫たちがいます。

Z1: つまり、このパフタアーバード郡には様々な時期にわたって人が来ていたのですね。

D1: 母方のおじの子孫たちはあちら出身でしたが、こちらに来たのです。その後、ソヴィエト時代に階級闘争（裕福層と貧困層の戦い）が起きました。その後あちらに逃げたのです。今も、彼らには[あちらに]親族がいて、手紙をやりとりしています。彼はあちらに行きたいと思っています。現在、経済的に厳しいので行けないのです。行くには大金が必要です。ずっと行きたいと強く望んでいます。自分の甥姪たちが懐かしいのですが、行けないのです。道は開かれています、金がありません。甥姪や血族たちがいるのです。あちらには。

Z1: あなたのおじいさんの妻、すなわち、あなたのおばあさんはカシュガル出身者ですか、それともここの人ですか。

D1: ここの者です。

Z1: 彼らはカシュガルで結婚したのですか。

D1: 祖父たちですか。祖父たちは全て向こうの者（カシュガル出身者）でしたよ。私の父がここで生まれ、この人間と結婚したのです。

Z1: つまり、あなたのおばあさんはここの人だったのですね。

D1: 祖母はここの者でした。私の母もまたここの者でしたよ。

Z1: Dbという人はあなたのおじいさんですね。

D1: そうです、祖父です。

Z1: カシュガルで生まれたんですね。

D1: いいえ、Dcが「カシュガルで」生まれたのです。

Z1: ここで生まれたのは誰でしょうか。

D1: 我々の父「の父」、Dbがここで生まれました。

Z1: 曾お祖父さんのDcさんはどうですか。

D1: 彼はカシュガル出身者でした。あちらで生まれたのです。

Z1: あなたのおじいさんはここで生まれ、あなたのお父さんもまたここで生まれたんですね。

D1: 曾祖父は向こうで生まれたのです。

Z1: 彼は結婚してからここに来たんですね。

D1: そうです。

Z1: カシュガルで結婚したのですか。

D1: 彼はカシュガルで結婚したのです。

Z1: 奥さんはカシュガル出身者だったのですか。

D1: カシュガル出身者でした。

④ インタビュー No.4 (2003年8月10日)

E1: 私はカシュガルで生まれました。1956年にカシュガルを出てきました。今や昔となつてしまいましたが、本当に生活状況も、気候も、土地も全てが同じようだったのです。少しも違いはありませんでした。土、水、この土地のどんな果実もあそこにもある、状況は恐ろしいぐらいに似ていなくても。この地に比べて、あそこの土は少しだけ硬く、痩せていました。土の成分もここより少しだけ肥えていませんでした。たくさん肥料をまかないと多くの収穫はありませんでした。たくさん働かなければなりませんでした。村で取れる肥料で肥料を蒔いていました。我々はあちらで牧畜もしていました。あちらの人々は牧畜をして生活していたのです。しかし、気候、生活状況、暮らしぶりはウズベキスタンと同じで、全く同じように暮らしています。例えば、娘を嫁がせること、息子を結婚させること、あるいは、祝宴を行うこと、全ての条件は同じです。

Z1: カシュガルから出た時、あなたは何歳でしたか。

E1: 16歳でした。

Z1: 何年生まれですか。

E1: 1940年生まれです。

Z1: どんな理由でこの地に来たのですか。

E1: 私の両親は、もともとはあちらの出身だったのですが、両親はここで生まれました。後に、ここでクラークの時代⁶¹になった後、私の両親はクラークになり、あちらに行ってしまった。

Z2: クラークです。ソヴィエト政権になって、人々を階級ごとに分け、富裕層や貧困層に分けた後、富裕層だったために〔彼らは〕逃げて行きました。そうでなければ、彼らは収監され、銃殺されました。1928年のことです。何年にあなたのご両親は出て行ったのですか。

E1: 1933年頃です。

Z2: 1933年頃にこの地から出て行ったそうです。

X: カシュガルのアトウシュ・マハツラに行ったのです。

E1: 私の父の墓もその地にあり、私の甥姪もいます。

Z1: あなた自身はウイグル人ですか、ウズベク人ですか。

E1: ウイグル人です。曾祖父はあちらの出身です。カシュガル出身者でした。後に、彼らが

⁶¹ 本来、ロシア語のクラーク kulak は富裕層を意味するが、ここでは弾圧された富裕層であるために弾圧され、粛清の対象となった人々、あるいは弾圧そのものを指して用いられている。また、発音も、quloq と訛っている。

来て定住してから、私の両親はここで生まれました。この地で家土地をもったのです。
曾祖父が亡くなってから、ソヴィエト時代になり、ソヴィエト政権が設立されてから、
クラークとなりました。そのため、やむを得ず再び逃げたのです。

Z1: あなたは元来カシュガル出身ということですね。

E1: そうです、カシュガル出身者です。

Z1: あなたのお父さんはどこで生まれたのですか。

E1: 父もここで生まれました。

Z1: あなたのお母さんはどうですか。

E1: 母もこの土地出身です。

Z1: あなたのお父さんは何年に生まれましたか。

E1: 知りません。

Z2: 名前は何ですか。

E1: Ea です。

Z2: 何年に亡くなりましたか。

E1: 私が 1 歳半か 2 歳頃亡くなりました。

Z2: 何歳で亡くなられましたか。

E1: 40-45 歳ぐらいだと思います。若くして亡くなりました。

Z1: 最も初めにカシュガルからこの地に来たあなたの祖先はいつごろ来たのですか。

E1: それはずっと前のことです。彼らの歴史を知らないのです。

Z2: Ea さんのお父さんの名前は何というのでしょうか。

E1: Eb です。

Z2: 彼は何年に亡くなったのでしょうか。

E1: それは知りません。

Z1: その方はここで生活されたのですね。しかし、その人は[カシュガルから]来なかった、
ということは彼の父が来たのでしょうか。

Z2: Eb の父が来たそうです。 Eb の父がこの地に来たようですよ。

E1: 我々の父の父の父がこの地に来たのです。

Z2: Eb の父が来たようです。しかし、その人の名前などは知らないようです。

E1: そうです。

Z2: カシュガルでシャーミー・ダームラーというサウジアラビアから来たある宗教学者がい
たのですが。彼について聞いたことがありますか。

E1: いいえ、聞いたことがありません。

Z2: タシュケントからもユーヌスハーン・ダームラー・ハキームジャーノフ⁶²という人が〔カシュガルに〕移住したのですが。その人については聞いたことがありませんか。

E1: 我々は村に住んでいたのです。市内と村落部の間には違いがあります。

Z2: ドック・カーリーという人がアンディジャンから行ってカシュガルでコーラン読誦教室を開いていたそうですが。それらについても聞いたことがありませんか。

E2: ドックチ・イーシャーンのことではありませんか。

Z2: いえ、違います。ドック・カーリーです。

Z1: カシュガルのどこに住んでいらっしゃったのですか。

E1: アトゥシュです。

Z1: アトゥシュではどんな仕事をされていたのですか。

E1: 農業です。それと牧畜で生計を立てていただけです。

Z2: 毛沢東が来るまでのカシュガルの歴史を知っていますか。

E1: それは上海のことです。台湾に逃げて行った者たちについては基本的に知っています。

Z2: アリーハーン・トラ・サーグーニーを聞いたことがありますか。

E1: いいえ、ありません。

Z1: あなたのご両親は 1930 年頃にここからカシュガルへただ 2 人で逃げていったのですか。

E1: 〔その他にも〕例えば、兄、祖父もいました。家族全員で行ったのです。

Z1: ここで裕福だったのですか。

E1: そうです。

Z1: どんな仕事をされていたのでしょうか。

E1: ここでも農業をしていました。

Z1: 農業で人は裕福にはなれないでしょう。

E1: 大土地所有者だったのです。広大な土地を所有していたのです。私の父の父の名前は Eb といいます。私の母の父の名前は Ec といいます。祖父 Eb はこの地で亡くなりました。私の母は父とともに逃げていきました。この地で弾圧して土地を明け渡せと言われたので出て行ったのです。

Z1: あなたはトラ〔の子孫〕ですか。

E1: いいえ、ウイグル人です。

Z1: ウイグル人にはトラはいないのですか。

E1: いまね、いたとしても少しです。トラは別です。

Z1: ホジャもですか。

⁶² タシュケントのウラマーの一人。タシュケント市内にあるシャイハンタウル廟のシャイフであったが、ロシア革命の際に、タシュケントから逃亡した。

E2: ホジャも別です。例えば、カシュガルでアーファーク・ホージャの墓があります。我々はそれに近いのです。我々はウイグル人です。

Z1: [近いということは] あなたたちはムリードなのでしょうね。

E1: そうです。ムリードです。

Z1: アーファーク・ホージャ廟へ巡礼に行ったことがありますか。

E1: はい、行きました。現在、また道が開放されました。私の父の墓もそこにあるのです。私の母方のおじの墓もそこにあります。甥姪たちの墓もそこにあります。まだ墓参りに行く時間があります。上手くいけば行けるでしょう。

Z1: あなたのお父さんの墓もそこにあるのですか。

E1: はい、そこにあります。

Z1: 今でも親族たちと手紙のやりとりを続けていますか。

E1: ああ、親族たちはいます。

Z1: アトウシュにですか。

E1: ええ。カシュガル市内にです。

Z1: あなたのお父さんの墓はどこにあるのですか。

E1: 私の父の墓はアトウシュにあります。

Z1: 今、あちらにどなたがいますか。

E1: 今、甥姪たちがいます。

Z1: あなたの兄弟のうちでそこに残った人たちはいますか。

E1: いいえ、私の兄弟で残った者はいません。ただ甥姪たちがいるだけです。親族の第二世代ならいますが、第一世代はいません。

Z1: 彼らを残して、あなたはここに来たのですね。

E1: 彼らはここに来ることを望まなかったのです。

Z1: あちらで生まれたからですか。

E1: 私もあちらで生まれました。しかし、彼らはここに来るのを望まなかったのです。我々はここに帰ってくることを望みました。彼らは望みませんでした。望んだ者が帰ってきたのです。

Z1: あなたの名字は何とおっしゃるのですか。

E1: E1 です。

Z1: カシュガルの事件を覚えていらっしゃいますか。

E1: ええ、覚えています。私が9歳か10歳の頃、中国で富農たちの土地や水路を没収し、貧

農に与えたのです⁶³。まさにここで起こったことと同じく、[中国の] 新政府は、[かつての] 支配者（パードシャー）や富農の土地を没収し、貧農へ与えた後、富農を罰して、5 年、10 年、15 年の懲役刑に処したのです。我々の目の前で、本当に有力な富農たち 5 人を撃ち殺したのですよ。

Z1: その撃ち殺した 5 人の富農はアトウシュで殺したのですか。

E1: はい、アトウシュ市内です。彼らの土地を没収しました。しかし、牛や羊などの家畜には手を触れませんでした。土地改革をしたのです。当時、1 人の富農に 5,000 から 10,000 の牛・羊がいたのです。牛・羊を政府の方針に従って売り、[政府が] ああしろ、こうしろと言ったため、そこで暴動が起きたのです。暴動が勃発した後、政府は牛・羊を富農自ら好きにさせました。土地及び水路を富農たちから没収し、貧農に与えました。しかし、牛・羊は彼ら自身や家族に残したのです。

Z1: 他に何が起こったのですか。

E1: それだけです。土地・水路を貧農に与えました。その後、皆平穏に暮らし続けました。富農や貧農という差はなくなり、皆平等で同じく暮らしたのです。

Z1: アトウシュであなたの家族は富農とみなされていましたか。

E1: いえ、それほどでもありません。こちらから移住して行って、あちらで豊かに暮らすのは難しかったのです。

Z1: つまり、あちらの富農の土地を没収し、あなたたちに分け与えたのですか。

E1: そうです。分け与えました。

Z1: 中国政府のそのような政策は「あなたたちにとって」悪くなかったわけですね。

E1: ええ、悪くはありませんでした。

Z1: では、どうして 1956 年にあなたはここにいらっしゃったのですか。

E1: この地に 1956 年に来たわけは、親族や親戚、父母、兄弟がここにいたからです。お互いに懐かしくなったので会いに来たのです。

⁶³ 新疆南部のオアシス地域における「土地改革」の際の状況については、Basil Davidson, *Turkistan Alive: New Travels in Chinese Central Asia*, London: Jonathan Cape, 1957, pp. 152–59.を参照。

3. 2004 年 8 月 30 日 ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡

① インタビュー No.1

＜ウイグルアーバード村の村民議会事務所において職員に現在の村の概要を尋ねた。＞

F1: 村の名前はウイグル人という語から取られており、ウイグル民族に属する人々が暮らしているということを意味しています。中華人民共和国のカシュガル地方から今から 450 年から 500 年前に移住してきたウイグル人たちは、この場所で定住民として暮らし始めました。

Z1: この情報はどこから引用しましたか。

F1: 人々から聞いたのです。年寄りから聞いたのです。我々の村の片方にテンタクサイ、もう片方にカラ・ダルヤーが流れています。カシュガルから移住した者たちは、自分たちが暮らしてきた村もしくはマハッラに、カシュガルで自分たちが暮らしていた村の名前、マハッラの名前を付けたのです。現在のウイグル村にある、トックズ・バーグ、アトゥシュ、シャウルグ、パイマーンなどのマハッラはカシュガル地方にもあります。

ウイグル村は郡の中心地から 4 キロメートルの所にあり、州の中心地から 28 キロメートルほど離れた場所に位置します。最寄りの鉄道駅はパフタアーバード郡のテンタクサイ駅であり、そこまでの距離は 6 キロメートルになります。

村には、カダムジャーイであるキリチ・ブルハーンの巡礼地があります。

村には、今日 7 箇所のマハッラの村民議会があります。中でも、グザル、シャウルグ、サイなどのマハッラは村の中心地に位置します。残りの 4 箇所のマハッラ村民議会についての情報は別にここにあります。

村には 3,949 世帯あり、17,812 人の人口がいます。もともとこれは以前の統計ですが。現在は 18,000 人の村民が暮らしています。2002 年で 3,949 世帯でした。今は世帯数もそれより増え、人口も 18,000 人以上になりました。人口のうち、91%がウイグル人、1%がクルグズ人、ロシア人、タタール人で、ウズベク人は 8%です。

Z1: どのマハッラが古いでしょうか。

F1: トックズ・バーグ、シャウルグ、プシュマーンでしょうか。

村落部の住民は基本的に農業で生計を立てています。ウイグル村ではアーリム・クルバーノフ・組合集団農場が活動しています。村はパフタアーバード灌漑用水路から灌漑農業をしています。カラ・ダルヤーの水が用いられています。

村の通信部門は 4 箇所、公衆浴場、散髪屋、その他に日用雑貨・サービス店が住民に貢献しています。市民は、食品の売買は郡中心地のデフカーン・バーザールで行います。

村には大工工務店が 6 箇所、水力脱穀機・粉碎機が 39 箇所、商店が 56 箇所あります。我々のウイグル村には一貫制義務教育学校 5 箇所、幼稚園 2 箇所、薬局 1 箇所が営業しています。村境からは、パフタアーバードとクルグズスタンのバーザール・コルガンを結ぶ幹線道路、パフタアーバードとジャラクドゥクを結ぶ幹線道路が通っています。村出身の経済学準博士で、ウズベキスタンで活躍した経済人たちもいます。

Z1: あなたたちのところに地図はありますか。

F1: いいえ、地図はありません。役所にあります。

Z1: 1956 年から 1957 年の間にここに人口が移住してきませんでしたか。それによって人口比率が変わりませんでしたか。

F1: いいえ、それほど変わりませんでした。感じるほどの変化はありませんでした。8 世帯から 10 世帯が来たのです。

X: 彼らはタシュケントへ移住していきました。それから、クルグズスタンでコチカル・アタという所があります。そこもウイグル人は多いです。アラルという場所もあります。そのアラルには我々の所から [ウイグル人が] 行ったのです。この土地から行った者たちもまたあちら (カシュガル) から来た者たちもいます。多くはありませんが。しかし、コチカル・アタには 1956 年頃に来た者たちがいます。

Z1: 1956 年に何故この地に彼らは来る許可を得られたのでしょうか。

F1: 自分たちで [許可なく] 来たのです。ウイグル人たちがいる、カシュガル出身者がいるところへ行こうと言って [来たのです]。彼らには [その後、ここに住む] 許可が与えられました。[彼らは、以前にこちらから] あちらに行った人たちですが、ここにその親族たちがいたのです。

X: 例えば、Fa さん⁶⁴たちは、ここに親族がいたのです。

⁶⁴ 2003 年 8 月 10 日のインタビュー①における Xk 氏にあたる。

② インタビュー No.2 （2004 年 8 月 30 日）

<インタビューNo.1 の後、個人宅に移動し、インタビューを行った。>

Z1: あなたのお名前は何ですか。

G1: G1 です。

Z1: 何年生まれですか。

G1: 1926 年です。

Z1: どのマハッラに住んでいますか。

G1: {GA}・マハッラです。

Z1: あなたたちのうちでどなたがいつカシュガルからやって来たのですか。

G1: [今生きている] 我々のうち、誰もカシュガルから来た者はいません。我々の父の父は今から 200 年前、彼の父の母である女の子がカシュガルのベシュカラム⁶⁵という村から来たといえます。来て、彼女はアンディジャンの {GB} という所に辿り着きました。

Z1: あなたのお父さんはいつ亡くなったのですか。

G1: 1933 年です。

Z1: 何歳で亡くなったのですか。

G1: 52 歳です。

Z1: あなたのおじいさんはどうですか。

G1: Ga です。

Z1: 会ったことはありますか。

G1: 会ったことはありません。聞いたことがあるだけです。

Z1: 何年に亡くなりましたか。

G1: 1901 年に亡くなりました。

Z1: 地震⁶⁶より前ですか。

G1: 地震の時より少しだけ前になくなったのです。

Z1: 何歳でしたか。

G1: 84 歳でした。

Z1: あなたのおじいさん自身はカシュガルで生まれたのですか。

G1: いいえ、ここで生まれたのです。その母がカシュガルから来たのです⁶⁷。

Z1: あなたの曾おばあさんがアンディジャンに来たのですね。何歳だったのですか。

⁶⁵ カシュガル市東北東約 15 キロメートルに位置する村落。

⁶⁶ 1902 年にアンディジャンで大地震が発生した。

⁶⁷ 実際には、この後の発言からも分かるように、回答者は父方の祖母の母について話題にしている。

G1: 18 歳でした。

Z1: 名前をご存じですか。

G1: 知っています。Gb です⁶⁸。カシュガルで彼らはドゥンガン人と戦争をしたそうです。まさにその戦争・暴動から人々は避難したのです⁶⁹。戦争で、我々の祖父の祖母⁷⁰は避難して来て、間違えてアンディジャンに来て、アンディジャンに住んでいた時、ウズベク人と [2 度目の] 結婚をして、[前夫との間に生まれた] 娘を育てて、[娘を] ここに嫁に出しました。その娘の子孫が我々なのです。我々はその娘の孫なのです。

X: Gb が Ga に嫁ぎました。

G1: 彼らに Gc が生まれました。Gb は、母親がカシュガルから避難してくる時に既にお腹の中にいました。アンディジャンに来て生まれたのです。カシュガルから 1 人の娘が来て、アンディジャンで子供を生んだのです。後に、彼女はアンディジャンで [再び] 結婚し、2 人の息子を生まれました。我々の祖母は長女で、Gb です。そのカシュガルから出てきた [Gb の] 母の名前は私は知りません。

Z1: Ga さんはどこで生まれたのですか。

G1: Ga がどこで生まれたのかは知りません。

Z1: 18 歳で来た娘は誰でしたっけ。

G1: [私の祖母である] Gb の母です。

Z1: 彼女のお母さんは、18 歳で 1 人でお腹の子供と一緒にカシュガルから逃げて来たのですか。

G1: そうです。逃げて来たのです、アンディジャンへ。

Z1: Gb を生んだ母親は他の夫に嫁いだのですか。アンディジャンで。

G1: はい、その後、2 人の息子を生まれました。

Z1: Gb という人が、この人の祖父と結婚して、この人の父を生んだのですね。

G1: [Gb の夫である] Ga より前の最初の [Gb の] 夫は Gd さんのお父さんです。Gd さん [の母親] と我々の祖母は同一人物で、[我々の] 祖父 [と Gd さんの父] は別です。Gd は次男で、私の父は三男です。

Z1: あなたのおじいさんはウズベク人でしたか、ウイグル人でしたか。

G1: ウイグル人でした。彼は 81 歳で亡くなりました、Ga は。我々の父が残りました。1933 年に父は 52 歳でこの世を去りました。母は 1937 年に 52 歳でこの世を去りました。

⁶⁸ 実際には、18 歳でアンディジャンに来たのは Gb の母である。

⁶⁹ これがいつの時点を目指すのか明確ではないけれども、トゥンガン（現在の回族）が現れるところからすると、1864 年に発生した清朝に対する大規模なムスリム反乱の中における混乱状況に該当する可能性がある。

⁷⁰ 正しくは、祖父の妻の母。

Z1: あなたは「存命中の」Gbに会いましたか。

G1: 会ったことはありません。

Z1: いつ彼女は亡くなったのですか。

G1: 1920 年代です。

Z1: 何歳でしたか。

G1: この人も 80 歳ぐらいで亡くなりました。

Z1: Gbは自分より 20 歳以上も年上の人と結婚したのですか。

G1: 違いますよ。

Z1: 1901 年、あなたのおじいさんは 84 歳で亡くなりましたよね。

G1: いえ、今言ったのは、Gbのことです。1920 年代に 80 歳ぐらいで亡くなりました。ええ、はい。祖父は 84 歳で 1901 年頃に亡くなったのなら、そうかもしれません。20 歳ぐらいは年上だったかもしれません。私たちは彼女の 2 人目の夫の子孫ですから。

Z1: Gbはアンディジャンで生まれ、アンディジャンで結婚した・・・

G1: そうです。初めに結婚して 2 人の子供をもうけた後、夫が亡くなりました。夫が亡くなった後、少しの間は 1 人で暮らしていました。その後、舅、つまり彼女の夫の父が、我々の祖父に娘を嫁に出したのです。ある老人にです。その後、我々の父が生まれました。2 人の子供が生まれた後に「Gbの」夫が亡くなりました。舅は「2 人の子供がいる。娘よ、結婚しなさい。このような状況ではだめだ。子供 2 人とだけいるわけにはいくまい」といって、貧しいムッラーだった我々の祖父に嫁に出しました。その後、5-6 年は子供が出来ずにいて、神に願をかけて、息子が 1 人授かりました。名前を Gcと名付けました。

Z1: あなたは {GA}・マハッラで生まれたのですか。

G1: そうです。{GA}・マハッラで生まれました。

Z1: あなたのお父さんもですか。

G1: 父もです。

Z1: Gbは {GA}・マハッラに嫁入りしたのですね。

G1: そうです。最初の家に嫁入りした時、家の者にとって Gbは姪にあたったそうです。最初の夫もカシュガル出身者でした。初めの夫は Gbにとって親戚だったのです。

Z1: 姪と言いませんでしたか。

G1: そうです。[姑にとって] 姪です。妹の娘でした。最初の夫は「Gbの母の」姉の息子でした⁷¹。親戚たちのことは知りません。ただマハッラを知っています。バシュカラムというのです。

⁷¹ この発言から、Gbを身ごもっていた母は、姉とともにアンディジャンに避難してきたか、姉がすでにアンディジャンに居住していたと考えられる。

③ インタビュー No.3 (2004 年 8 月 30 日)

＜H1 氏が 1987 年に新疆ウイグル自治区に旅行に行った話の途中から録音が始まる。H1 氏は先祖の故郷であるカシュガルの {HA} を訪ねたいと思っていたが、叶わなかった。＞

H1: アーファーク・ホージャ廟に行き、参詣をして、カシュガルへ行き、カシュガルに一晩おり、その後、帰ってきました。とても遠いです。私はアトウシュに行き、アトウシュのバーザールの横にホテルがあったのですが、そのホテルに泊まり、翌朝、朝の礼拝をして、アーファーク・ホージャ廟に向かいました。アーファーク・ホージャ廟に行こうとしたら、我々のような手軽な車がないのです。[それでも] 行って、アーファーク・ホージャ廟を参詣し、その後、カシュガルに向かいました。早朝行ったのです、礼拝をして。[カシュガルに] 行くと、隣人の義理の兄弟（バージャ）⁷²がそこにいたのです。うちによく来ていたのです。私の同行者たちはアトウシュに残りました。私だけが [カシュガルに] 行ったのです。20 メートルほどの綺麗な綿の布を [土産に] 買いました。あちこちを見物していました。Ha の店を尋ねて行きました。Ha は店を開いて、お茶を淹れていました。[私は彼に] 「アッサラーム・アライクム」と言いました。「H1 さん、あなたは空から降りてきたのか、地下から出てきたのか」と驚きました。その人と語らっていたら、その人の息子が来ました。カシュガルにはこんなく小さな、と手で示す> ナーンがあります。我々にはまだそのようなナーンはありません。小さくて、お腹が一杯でも 2 枚は食べられてしまいます。[その人が私を] バーザールの奥深くまで連れて行ってくれました。少し買い物をしました。彼は、「ここに泊まっていくかね」と聞きましたが、私は、「いや、泊まらないよ」と答えました。

Z1: {HA} という場所はアトウシュにあるのですか。

H1: いいえ、{HA} は遠かったのです。私は行けませんでした。

Z1: でもあるのですよね。

H1: そうです。あります。カシュガルの {HA} という場所から来て、{HA} ・マハッラを立てたのです。

カシュガルの歴史について語りましょうか。カシュガルのアトウシュから出てきて [ここに] アトウシュ [・マハッラ] を作りました。ジャンジャルから出てきてジャンジャル [・マハッラ] を作りました。カシュガルのマハッラの名前は全てウイグル語なのです。アザクから出てきてアザク [・マハッラ] を作りました。

Z1: あなたの [存命中の] 家族で誰がカシュガルから出てきたのですか。

⁷² 姉妹の夫同士。つまり、隣人の妻の姉妹の夫

H1: 私の家族でカシュガルから来た者はありません。我々の先祖が来たのです。私の父の父の父がきたのです。

Z1: あなたのお父さんの名前は何ですか。

H1: Hb です。

Z1: あなた自身はどうですか。

H1: H1 です。

Z1: あなたは何年生まれですか。

H1: 1930 年生まれです。

Z1: あなたのお父さんの名前は何ですか。

H1: Hb です。

Z1: 何年に亡くなりましたか。

H1: 私が 10 歳の時でした。私の父が亡くなったのは。

Z1: つまり、1940 年ということですね。

H1: 1941 年でした。36 歳で亡くなりました。

Z1: あなたのおじいさんはどうですか。

H1: 私の父の父は [名前は] Hc・ハーッジーです。

Z1: 会ったことはありますか。

H1: いいえ、会ったことはありません。彼は 92 歳になっていました。カシュガルから来た曾祖父は 102-103 歳ぐらいで亡くなりました。[彼の名前は] Hd です。

「私が知っているのは 5 世代です。」

H1: 自分の父が 32 歳で亡くなったことは知っています。彼らのことは知りません。

Z2: どんな理由でカシュガルから出てきたのでしょうか。

H1: カシュガルで戦争がまだなかった時のことです、私が聞いたところでは。この土地は藪地でした。その藪地を開拓して、カシュガルのどの村の出身者であっても、その名前を [新しい開拓地に] 付けたのです。{HA} 村出身者は {HA}・マハッラという名前を付けました。

Z1: カシュガルから出たのには何らかの理由があったのですか。

H1: それは知りません。我々のパフタアーバード郡でウイグル人たちは後の時代に来たのです。コーカンド村については、コーカンド・ハーン国がコーカンドの土地税を引き上げ、[コーカンドから] 出て行く人々が多くなりました。コーカンド・ハーンが圧政をしていたため、人々が [ここに] やって来たのです。そして、コーカンド村が出来ました。コーカンド出身者の村というのがその由来です。

ここではトックズ・バーグ、ウチコルガン、ドング村もあります。ドング村そのもの

はウイグル人です。しかし、コルホーズは別です。ウズベク化してしまいました。彼らは2-3年もするとウズベク化したのだそうです。そうでなければ、我々はウイグル人です。家族もウイグル人だし、嫁もウイグル人だし、皆がウイグル人なのです。私の妻もここで生まれました。妻の父もここで生まれました。{HB}・マハッラで生まれたのです。イスラームでは、1人の人間は7世代まで祖先を知らねばならないのです。

Z1: カシュガルへいつ行ったのですか。

H1: 独立以前、1987年のゴルバチョフ時代です。私は1年間病気になり、体の半分が動かなくなりました。今は良くなりましたが。

クルグズスタン国境で3日間寝泊まった後、カシュガルに行きました。国境はまさにその時、設置中でした。オシュから行ったものではありません。

カシュガルに行ってみると、我々の仲間たちはバーザールを開いていました。全ての人に鍵と錠を渡すのです。秩序がとてもしっかりしているのです。アトウシュではある騒ぎが起きました。事情を聞いてみると、カシュガルで1ソムの物を買ってくると、1ソム10ティインにして売るので。1ソム20ティインにして売るとバーザールから追い出されるのです。私たちが行った当時の話ですが。運転手はアトウシュに行った後、ホテルの前まで送ってくれました。

Z1: カシュガルに行った目的は何ですか。

H1: {HA}を一つ見ようと言ってですね。[{HA}の人へのお土産として]100冊のノートを買いました。100本のペンを買って行きました。我々は4人で行ったのです。アトウシュで尋ねると{HA}は遠いと言われました。アサカにも{HA}があります。そこにもウイグル人たちがいます。

Z1: 誰と行ったのですか。

H1: 4人です。女性が2人、男性が2人。友達で行ったのです。アンディジャンには旅行用バスがあり、それで行ったのです。

Z1: あなたの奥さんも連れて行ったのですか。

H1: いいえ、10人も子供がいたので。私は子供を育て、41年間コルホーズで働いたのです。

Z1: カシュガルから来たあなたの親族たちもいますよね。

H1: います。1957年に来たのです。

Z1: あなたたちはホジャの家系ですか。

H1: 我々はウイグル人であって、ホジャではありません。ホジャたちは自分たちを誰その血筋だ、といいます。皆自分の民族を自慢します。我々ウイグル民族は、アーファーク・ホージャの出自であり、清らかだと言います。アンディジャン出身者は我々が最も清らかなる者だと言います。誰もが自らのことを他よりも低いとはいわないものです。

④ インタビュー No.4 （2004年8月30日）

Z1: あなたの姓名を教えてください。

I1: I1です。

Z1: 何年生まれですか。

I1: 1936年です。パスポートには1935年と記載されています。1年多く書かれています。

Z1: あなたはカシュガル出身者ですか。

I1: 私はカシュガルで生まれました。私の両親はあちらです。私の舅がずっと昔にカシュガルで暮らしていたそうです。

Z1: あなたのお舅さんはここで生まれたのですか。あちら（カシュガル）で生まれたのですか。

I1: ここで生まれました。ウズベキスタンで生まれました。1933年に行ったのです。

Z1: あなたも元々、こちらで生まれたということですか。

I1: いえ、カシュガルで生まれました。

Z1: あなたのお父さんはどのような人でしたか。

I1: 父は亡くなりました。私が2歳の頃、亡くなったのです。

Z1: あなたのお父さんは何歳で亡くなりましたか。

I1: 亡くなってから66年になります。私は3歳になっていました。

X: 1940年に亡くなったそうです。

Z1: ではあなたは5歳だったのですか。

I1: いえ、2歳の時でした。

Z1: すると、1938年に亡くなったのですね。あなたのお父さんのお父さんのお名前は何か。

I1: Iaです。

Z1: あなたのお父さんのお名前は何か。

I1: Ibです。

Z1: Iaさんはカシュガルで生まれたのですか。

I1: いえ、彼はここの出身者です。

Z1: Iaさんの父はどのような人ですか。

I1: Iaの父は知りません。私たちは1955年にここに来ました。ウズベキスタンのパスポートが既にありました。

Z1: あなたの曾おじいさんはここで生まれたのですよね。

I1: 彼自身はここの人です。パフタアーバード郡のウイグル村出身者です。1933年、クラー

クになった時、富農たちを追放した後、彼は出て行き、1955年に帰ってきました。私には **Ic** というとても学のある息子がいます。あちらの歴史を学んでいます。中国の歴史はとても強大だと言います。

Z1: あなたはウズベク人ですか、ウイグル人ですか。

I1: パスポートにはウズベク人とあります。

Z1: あなたのお父さんはどこで生まれましたか。

I1: 私の父もここで生まれました。

Z1: あなたのお母さんはこの人ですか、カシュガルの人ですか。

I1: 母もこの人です。私 1 人がカシュガルで生まれました。

Z1: 1933 年、あなたのお父さんはカシュガルに行った時、結婚していましたか。

I1: 結婚してから家族とともに [カシュガルへ] 行ったのです。

Z1: あなたのお父さんは 1933 年にここから去ってから 2 年後、カシュガルで亡くなったのですね。5 年後に。

I1: 監禁から逃れられずに亡くなりました。

Z1: あなたのお父さんは 1933 年、カシュガルへ行った後、どんな仕事をしたのですか。

I1: よそ者としてあちこち行き、志願兵として闘争に参加し、監禁されて亡くなったのです⁷³。

Z1: その後、あなたはカシュガルのどこに住んでいたのですか。

I1: コルガン・ムッラーザードにいました。カッタ・ウイ・マハッラという場所にありました。

Z1: カシュガルのどこですか。

I1: カシュガル市内です。

Z1: 何歳までカシュガルにいたのですか。

I1: 19 歳までです。

Z1: その時、結婚していましたか。

I1: ええ、結婚していました。

Z1: おいくつですか。

I1: とても若い時期に結婚しました。14 歳で結婚しました。ここに来た時には子供がすでにいました。

Z1: カシュガルでは何をしていたのですか。

⁷³ 1933 年当時、カシュガルは大規模なムスリム反乱の最中にあり、同年 11 月には反乱勢力によりカシュガルを中心とする「東トルキスタン共和国」政府が樹立された。当時のソ連領中央アジアより中国領に移動し、この反乱に参加した人々も少なくなかったとみられる。その中にはバスマチ指導者なども含まれていた (Forbes, A.D.W., *Warlords and Muslims in Chinese Central Asia: A political history of Republican Sinkiang 1911-1949*, Cambridge University Press, 1986, p.90)。

I1: カシュガルではマクタブで 3 年間学びました。あちらでも全ての生徒に教科書がありました。マクタブでは、中国語、英語、アラビア語を学びました。非常に学のあるムフティーがアラビア語の授業をしました。

Z1: どのマクタブで学びましたか。

I1: カシュガルの大きなマクタブです。1 人タタール人の教師がいました⁷⁴。

ナマーズを詠み、様々な種類の科目や、生徒が勉強すべき全ての授業がありました。1 時間、イマームが授業をしていました。マクタブは有料でした。授業料の払えない生徒たちはお茶を沸かす仕事をしていました。

Z1: あなたのお父さんが亡くなった後、誰があなたたちを養ったのですか。

I1: 祖母が面倒を見てくれました。

Z1: あなたのお父さんの祖母ですか。

I1: 私の父の母です。

Z1: あなたは 14 歳で結婚したのですよね。あなたのご主人はその時何歳でしたか。

I1: 私より 10 歳年上でした。夫は親族に当たります。父方のお婆の所に嫁に行ったのです。私は夫の母方のおじの娘です。夫は私の父方のお婆の息子です。

Z1: つまり、あなたのお父さんとあなたのご主人の母はきょうだいだったということですね。どちらが年上だったですか。

I1: 私の父が年上でした。

Z1: あなたはお父さんの妹の息子と結婚したのですね。あなたのご主人はどんな仕事をしていたのですか。

I1: 法学を学びました。

X: ここへ来た後、コルホーズの有能な作業班長でした。

Z1: あなたには 10 人の子供たちがいますよね。19 歳でカシュガルから出てきた時、何人の子供がいましたか。

I1: 2 人は亡くなってしまいました。1 人残っていました。

Z1: 10 人とおっしゃったのは、10 人産んだということですか。

I1: 「産んだのは」17 人です。7 人は子供のうちに亡くなりました。10 人が残りました。子供を 10 人生んだので「英雄母」になりました。

Z1: カシュガルから出てきた理由は何ですか。

⁷⁴ 1934 年以降、カシュガルにおけるウイグル人を中心とする教育活動においては、女子学校教育も推進されたと言われ、タタール人女性に関わっていたことが明らかにされている。詳しくは、清水由里子「ウイグル人の女子学校教育の開始とその展開—1930 年代のカシュガルを事例に—」『中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究』（平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金基盤研究 A（1）研究成果報告書）2007 年 3 月、pp. 71–90.を参照。

- I1: 私たち自身の祖国に行こう、とって。祖国への愛から来ました。
- Z1: あちらで苦労しませんでしたか。
- I1: いえ、苦労はありませんでした。
- Z1: あなたのご主人はどこで生まれたのですか。カシュガルですか、ここですか。
- I1: 彼はここで生まれました。
- Z1: あなたのお父さんはここで生まれたのですよね。1933年にカシュガルに行ったのですか、幼少の時ですか。
- I1: 知りません。1933年にクラークになったのです。
- Z1: 1933年にここからカシュガルへ行った理由は何でしたか。
- X: この人の夫の名前はIdさんでした。Idさんの父は偉大なイーシャーンでした。Ieでした。IeはIfという雅号で詩を書いていた詩人です。彼はイーシャーンでしたので、当時、イーシャーン、ムッラー、富農たちは追放されました。そのIeは家族とともに1929年、中国に行きました。Ieは3人の妻がいました。最年長の妻はIg、Igは{IA}出身者でした。アンディジャン近郊に{IA}という村がありました。次の妻はIhといいました。彼女はここの人です。Ihから生まれた子供たちがこのIdさんとIiさんです。3番目の妻は{IB}方面で、{IC}・コルホーズにいます。名前はIjです。IjにはIkという息子がいます。彼らはここに残りました。最年長の妻と2番目を連れて行き、3人目は残りました。スターリンが死んだ後、彼らは1956年に帰ってきました。1956年に、Idは配偶者とともにここに来ました。{IC}・コルホーズの{IB}村、すなわち、最も年若の妻の村へ行ったのです。しかし、その妻は亡くなってしまいました。後に、Ifは最年長の妻とともに暮らしました。
- Z1: 詩人の名前は何といいましたか。
- X: 名前は、Ieです。Ifは雅号です。
- Z1: あなたのご主人はどこで学んだとおっしゃいましたっけ。
- I1: あちらに行って学んで働きました。ここへ来てコルホーズで働きました。学び、ここへ来る道が開けてから、ここに来ました。上海で法学を学びました。
- Z1: 上海で学んだのですか、ウルムチですか。
- I1: 上海です。
- Z1: 上海で何年勉強したのですか。
- I1: 2年学んできました。卒業して、ここへの道が開けてから、ここに来ました。来たのですが、ここではマクタブがありませんでした。
- Z1: あなたのご主人はあなたより10歳年上でしたよね。カシュガルから出てきたのが29歳の時でした。29歳でカシュガルでどんな仕事をしたのですか。

- I1: 彼はマクタブで学んでいました。18-19 歳で監禁されました。24-25 歳頃、監禁から釈放されて、結婚しました。
- Z1: 結婚された時というのは、監禁から釈放された時だったのですか。
- I1: 釈放された後、私と結婚しました。
- Z1: 何年監禁されていましたか。
- I1: 24 歳で釈放されました。
- Z1: 釈放されてからすぐに結婚したのですか。
- I1: そうです。釈放された後に結婚しました。
- Z1: あなたのご主人はあなたと結婚したのが 24 歳でしたよね。その後、5 年後にカシュガルで暮らしていました。その 5 年間のうち 2 年間、あなたのご主人は上海にいました。あなたはその間、カシュガルに 1 人で残っていたのですか。
- I1: 姑と一緒に残っていました。
- Z1: お子さんは生まれていましたか。
- I1: はい。
- Z1: ここへ帰ってきてから、あなたのご主人は仕事をしていましたか。
- I1: 作業班長をしました。ビシュケクで 10 ヶ月作業班長をしました。
- Z1: カシュガルから出てきた後、何でビシュケクに来たのですか。
- I1: 大きな車で来ました。
- Z1: カシュガルからフルンゼまでのルートを通ったのですか。イルケシュタムを通ってきたのですか。
- I1: はい。イルケシュタム経由です。ええと、リュバチ、イッスィック・コル、コチカル・アタを経由しました。いえ、コチカル・アタではなくて、こんな道があります。アトバシ、ナリン、イッスィク・コルを通ってきました。夜の 12 時に出て、朝の 8 時に国境を越えました。
- Z1: フルンゼでは 10 ヶ月間どんな仕事をしたのですか。
- I1: 作業班長をしたのです。彼らはキビを育てていました。フルンゼ郡の {ID} コルホーズでした。
- Z1: その後、ここに来たのですね。車で来たのですか。
- I1: 汽車で来ました。
- Z1: ここに来てからどんな仕事をされましたか。
- I1: 作業班長をしました。

4. 2006 年 8 月 4 日 ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡

① インタビュー No.1

＜質問者らは、K1 氏宅を訪れたが、K1 氏が不在であったため、K1 氏の娘と話しながら K1 氏の帰宅を待っていた。＞

J1: 私の父はアンディジャンに行ったようです。「あちこちに行くなあ」とおっしゃるでしょうが、娘たちをあちこちに嫁がせたため、そうなるのです。

X: ＜X 氏は以前、インタビュー J1 氏の祖父 Ja について聞き取りを行い、その結果を出版する計画であった。＞ああ、あの話は本になるところですよ。願わくば、本になって出版されますよ。＜質問者らに向かって＞彼らの人生を私は調査したのです。彼らのおじいさんは Jb⁷⁵ という知識人（ダームラー）だったのです。本名は Ja⁷⁶ です。

J1: それはお見事、長生きなさってください。＜質問者に向かって＞あなたも、ご健康でいらして下さい。

X: 彼らはもともと {JA}⁷⁷ 出身です。その Jb・ダームラーは、例の、イーシャーン、ムッラー、トラたちが肅清された時代に、カシュガルに行ったのです。妻子とともにカシュガルに行ったのです。つまり、この [家の主人] Jc⁷⁸ さんや、彼のお父さん、お母さんと一緒にです。カシュガルの他の村にも 1 人の妻がいました。その人には 3 人の妻がいたのです。

Z1: ああ、その頃はそんな時代だったんですね。

X: ああ、妻の 1 人はここに残りました。2 人は彼とともにあちらに行きました。

Z1: 3 人の妻がここにいる、そのうちの 2 人とともに行ったということですか。

X: まあちょっとお待ちなさい。今私が説明してあげます。Ja という人がいました。この人は詩人でした。タハッルス（雅号）は Jb でした。この人が Jb・ダームラーは、イーシャーンであり、ホージャの 1 人でした。分かりましたか。Jb について簡単に情報を伝えおきましょう。さあ、お書きなさい。Ja、Jb。

Z1: Ja。

X: Jb。雅号が Jb。文人としての雅号です。詩人でした。

Z1: Jb ですね。

X: 1879 年に生まれました。1960 年に亡くなりました。

⁷⁵ 2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における If にあたる。

⁷⁶ 2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における Ie にあたる。

⁷⁷ 2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における {IA} にあたる。

⁷⁸ 2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における Ii にあたる。

Z1: カシュガルですか。

X: いえ、この人は {JA} で生まれました。彼自身は {JA} の人だったのです。{JA} とは、アンディジャン郡があるでしょう、アンディジャン郡に {JA} という村があったのです。この {JA} 村で生まれました。私は正しく説明していますか、娘さんたちよ。{JA} 村で生まれました。それから、この人はホージャ家の、イーシャーン家の人でした。その時代には、ムッラー、トラ、イーシャーンたちは、ソヴィエト政権によって弾圧されました。その時代には、一部の人たちは外国に「逃げて」出て行き、また一部の人は投獄されました。この Jb こと Ja はカシュガルに「逃げて」行きました。カシュガルに行き、ある金曜モスクでイマーム職を勤めました。同時に執筆も行いました。文学の執筆です。1956年にスターリンが亡くなった後、誰でも望む故郷に戻っても良いということになり、死ななかった学識が戻ってきました。1956年に、この {JB}⁷⁹・コルホーズがあるでしょう、{JB}・コルホーズの {JC}・マハッラに1人の妻がいました。この妻の名は Jd⁸⁰でした。まず、第一夫人は…

J1: Je⁸¹です。

X: 3人の妻がいます。

Z1: [コルホーズの名は] {JB} でしたっけ。

X: ええ、{JB}・コルホーズにね。第三夫人が、この Jd です。第一夫人は Je です。第二夫人は Jf⁸²で、ウイグルでした。ええと、あそこの、{JD} 村出身でした。3人すべてに子供がいます。何年頃だったか、第一夫人と子供たちと一緒にやってきました。ここに来て、{JB} 村の {JC}・マハッラに住みます。

Z1: それは妻の故郷ですね。

X: {JB}・組合農場、コルホーズの、{JC}・マハッラに住みます。

Z2: 以前もここに住んでいたのですか。出て行く前には。

Z1: いいえ、アンディジャンでしたよね。

X: いいえ、住んでいませんでした。{JA} から出て行ったのです。

Z1: ここは妻の故郷だったのですか。

X: ええ、妻の故郷です。自身は {JA} 出身であり、[カシュガルへは] 第一夫人の Je と一緒に行きました。そこの子供たちと一緒にです。その後、後を追ってここの妻、Jf が [カシュガルに] 行きました。彼らは追って行ったのです。第三夫人はここに残りました。子供たちと一緒にです。彼の地から戻って来たのですが、[その経緯はというと、] この

⁷⁹ 2004年8月30日のインタビュー④における {IC} にあたる。

⁸⁰ 2004年8月30日のインタビュー④における Ji にあたる。

⁸¹ 2004年8月30日のインタビュー④における Ig にあたる。

⁸² 2004年8月30日のインタビュー④における Ih にあたる。

小さい息子、彼は、ええと、Jg⁸³という人がいて、Jgさんというのは、Jcさんよりも年長だったはずですが、Jgさんが行って、カシュガル国境を越え、中国の国境から連れて来たのです。そしてここに連れて来て、{JB}・コルホーズで暮らしました。1960年に亡くなるまでは{JB}・コルホーズに住みました。彼は遺言をして、「私が死んだら、私を私の父の傍に、私の生まれた{JA}に埋葬して欲しい」と言います。今、この人の墓は{JA}にあります。{JA}村にあります。

<J1らに向かって>あなたたちと、よく話していなかったみたいですね。Jcさんとは話したのですが。

<質問者らに向かって>息子たちの名前を書き取りなさい。Jeが第一夫人。Jeから、Jh [が生まれました]。Jhは、ほらあの中国人民解放軍に加わったために、国民党の人々により、生き埋めにされたのです。

Z1: ちょっと質問があります。

X: 何ですか。

Z1: そのJhは、彼女の息子は、何に加わったために「埋められたの」ですか。

X: 中国人民解放軍に加わったために、国民党の人たちが彼を捕らえ、何と言うか、彼を埋めてしまったのですよ、生きたまま。国民党を知っていますか。中国の歴史を。

Z1: それは何年頃のことですか。彼らがまだカシュガルに住んでいた時、まだ戻って来なかった時ですか。

X: 彼らは1929年にカシュガルに行き、1956年まで住んでいました。

Z1: その間に起こった出来事ですか。

J1: ええ、この間に起こった出来事です。

Z1: どこで彼は捕らえられたのですか。カシュガルの中ですか、それとも。

X: ええ、カシュガルの中です。

Z1: 国民解放軍ですよ。

X: あなたたちは何を理解できずにいるのですか。

<回答者らに向かって別の話題で話しかける。>Ji、Jiという人たちは、あなたたちの親族にあたるのですよね。彼らもあなたたちにとって母方の一族になるのでしょうか。

Jiたちは我々にも少しばかり親戚になります。

J1: 私たちの母と父は、姉と弟の子供たちになるのです。その点からも、母方の家系も一つです。姉と弟がクダ（夫婦それぞれの両親同士の関係）になったのです。

X: Jiは、つまり、あなたたちのお母さんにとって「誰にあたりますか」。

⁸³ 2004年8月30日のインタビュー④におけるIkにあたる。

J1: 実の姉の子供になります。

J2: 甥になるということです。

J1: 彼らは私たちの祖父（父の父）にとっては親族ではありません。

X: 祖父にとってですか。

あちら側の親族についても話してあげてはどうでしょう。彼らの名前、その他のことを、カシュガルのどこのことなのかを。この人たち（質問者）が探し出してくれますよ。

Jeさんが知っているはずですね。

J1: ええ、父が知っているでしょう。

Z1: 彼は投獄された後どうになりましたか。出て来ましたか。

J1: ええ、死ぬでしょう。埋めてしまったんですよ、彼を。

Z1: 牢獄ですか。

X: ええ、現在の政府です。中国が認めなかった政府です。共産党の毛沢東が主席です。この毛沢東たちの軍隊に加わったのです。毛沢東たちと国民党の人たちは互いに戦争をしたのです。以前は、政府の上には国民党の人たちがいました。その前、1864年には、中国には8つの大きな共和国、もとい国家が征服してしまいます。アメリカ、イギリス、日本、そしてドイツ、イタリアなどがそうです。そして、その後、この国民党の人々は中国を解放するために立ち上がった人々でした。彼らは富裕層でした。そして、その後、国家のトップには、ソヴィエト政権がここに成立した後、中国に援助をして、そこにもソヴィエト政権を成立させ始めます、歴史では。その際、毛沢東派の方に、人民解放軍に加わったのです、この人は、この Jh は。このように毛沢東派についた人を処刑し始めたのですよ、両者の間で戦争になった時に⁸⁴。

それから、もう1人、Jkというこの人の娘がいます。Jkは最近、去年亡くなりました。Jkの娘がいます。Jlという名で、今は、ここの役所で働いています。彼女には子供たちがいます。[つまり、] Jkの子孫たちがいます。彼女は、ここに残った妻 (Jd) のあれにあたるんですけど。違いますね、Jeの孫にあたりますね。

<調査ノートに記した Jf という名前を指して> [この] 下に第二夫人と書いておきなさい。第二夫人は、Jf です。Jf からは、Jm⁸⁵ [という息子が生まれ]、二番目の息子は、Jc です。今、私たちは Jc の家にいるというわけです。今戻って来ますよ。この娘たちは

⁸⁴ 人民解放軍に加わったウイグル人がカシュガルで国民党により捕えられ、生き埋めにされたという言い方が事実に沿ったものかどうか明確ではない。カシュガルで人民解放軍と国民党軍との戦闘は行われなかったからである。中華民国期、南新疆において中国共産党の影響力はきわめて希薄であった。あるいは、1940年代後半、ソ連の影響力の強かった「三区革命」勢力側に立って活動し、国民党政府による弾圧の犠牲になったという状況の可能性も考えられる。

⁸⁵ 2004年8月30日のインタビュー④における Id にあたる。

Jcの娘たちです。Jcの子供たちも書いておくとい良いでしょう。私が娘たちの名前を言ってあげましょう。書きなさい。

J1: [長女の] J1です。

X: 次女は。

J1: Jnです。

X: 三女は。

J1: Joです。四女は Jpです。

X: 末の息子の名前もそこに書いておきなさい。

J1: Jqです。

X: さて、第三夫人も書きなさい。第三夫人は Jdです。息子は Jgです。Jgの子供たちは、ええと、誰でしたっけ、ああ、Jrです。書きなさい、Jrと。あなたたちとの間に付き合いはないようですね。

J1: ええ、来るのですが、よく知らないのです。来る機会は限られていて、結婚式や、法要などに来るのです。ただ、大勢の中なので、親しく話すことができないのです。別の機会を見つけて来て座って話したら良いと思うのですが。そんな風（付き合いのない関係）にはならないのに。父が帰って来たら、[詳しく話] しますよ。

X: ほら、この Jb・ダームラーについて、私は話を書いたのですよ。前回（質問者たちが 2003 年 8 月に訪れた際）詩を詠んであげたでしょう。

Z1: Jaのおこなったことを話して下さい。

X: Jaのしたことと言えば、第一に詩人であり、第二にカシュガルに行った後に金曜モスク⁸⁶のイマームであったことです。また、スーフィズムの教養高い人々の 1 人でもありました。スーフィズムを知っていますか。宗教の流派です。

Z1: ここに住んでいた頃も、そのような[スーフィーとしての]活動をしていたのでしょうか。

X: イスラーム教の教養人だったのです。

Z1: この人のピール（師）は誰でしたか。彼のピールです。

X: 何ですか、シェール（詩）ですか。

Z2: いえ、彼のピールです。

X: ああ、彼のピールが誰であったのかは知りませんが、しかし、ブハラで勉強しました。彼はブハラのミール・アラブ・マドラサで学びました。彼には 1 人の友人がいました。ミール・アラブ・マドラサと一緒に学んだのです。その後、カシュガルと一緒に行きま

⁸⁶ カシュガルの金曜モスクは、まちの中心部に位置する「ヘイトカル」（イードガーフ）・マスジドであり、新疆でも最大規模を誇る。

した。Js・カーズイーという人です。Js・カーズイーはアンディジャンの人でした。彼らはいつも、カシュガルでも一緒に過ごしました。彼、Js・カーズイーは、領事館、カシュガルには〔ソ〕連邦政府の領事館があったのですが、そこでウズベキスタンの通訳官として働いていました。その後、その人は病気になって、そこで亡くなったのです。

Z1: Js・ホー ज्याでしたっけ。

X: いえ、Js・カーズイーです。彼もトラの1人です。アンディジャンの人です。アンディジャンには彼の孫がいます。カシュガルから戻った時に、この人の子供たちが帰って来たのですが、Js・カーズイー本人は彼の地で亡くなったのです。

Z1: Js・カーズイーはカシュガルで亡くなったのですね。

X: そうです。Jb・ダームラーの弟がいました。去年アンディジャンで92歳で亡くなりました。 Jtという人でした。

Z1: その人は Js・カーズイーの弟なのですか。

X: いえ、Jb・ダームラーの弟です。Jbこと Jaの弟です。彼もカシュガルで暮らしました。後に帰って来て、アンディジャンで暮らしました。私は彼とも話をしました。92歳で2004年に亡くなりました。

Z1: カシュガルには誰が残りましたか。

J1: あ、父親が帰って来たようです。話してくれますよ。

Jaの父は、Ju・ハリーファという人です。

Z1: 誰のハリーファ（代理人）だったのですか。

X: ハリーファです、ハリーファ。

Z1: ハリーファですよ。誰のハリーファだったのですか。

X: Ju・ハリーファという名前だったのですよ。

Z1: いえ、誰かのハリーファだったのだと思いますが。

ここは、パフタアーバード郡のどこですか。

X: 何ですって。

Z1: [私たちが連れて来られた] ここはパフタアーバード郡のどこですか、ウイグル村ですか。

X: ここは[ウイグル村ではなく]パフタアーバード郡の中心です。[ここ]古い名前はコーカンド村です。コーカンド村に、後にパフタアーバードという名前が付けられたのです。

Z1: 第一夫人と第二夫人はどこの出身でしたか。

X: 第一夫人は{JA}出身で名前は Jeです。第二夫人は我がウイグル出身の Jfです。このさっきの[帰宅した]人はこの Jfの子供です。この人たちは、Jcの娘です。あそこの

あの人は第三夫人から生まれた Jg です。[Jb は] 第一夫人とより長く一緒に暮らしました。彼の地から来てからも、ここで第一夫人と一緒に暮らしました。彼が戻ってくる前に第三夫人はここで亡くなっていました。

② インタビュー No.2 (2006 年 8 月 4 日)

<J1 氏へのインタビューから、J1 氏の父親の K1 氏が、Jb こと Ja の息子の一人であることが
わかったため、その確認からインタビューを始めた。>

K1: [息子の] 1 人が私です。

Z1: この人は Ka⁸⁷ さんですか、K1⁸⁸ さんですか。

K1: 私の父の名前は Kb⁸⁹ です。詩人としての雅号は Kc⁹⁰ です。

K1: 私たちの父の雅号は Kc です。

Z1: Ka さんですか、こちらの方 [のお名前] は。

K1: [Ka は] 私の上の兄です。

K2: Kd⁹¹ は誰にあたりますか。

K1: Kd も私の兄の 1 人です。彼 (Ka) よりは年少で、私よりは少し年長です。

X: あなたよりも年少だと思っていましたよ、Kd さんは。

K1: いえ、私より 8 ヶ月年長です。

X: あなたより年少だと [本に] 書いてしまいました。

K1: あなたたちは、どこから情報を得てここにいらしたのですか。

X: 私が連れて来たのですよ、私が。

K2: もともと、この方を探していらしたのですか、この方たちは。このダームラーを。

X: この方たちは日本からのお客さんです。それから、[この方は] タシュケントの東洋学大学で研究をされています。この人たちは本を書きます。この人たちはここに何度か来ました。私を訪ねてくるのですよ、この人たちは。ほら、こちらの人はフェルガナからです。この人も研究をしています。それから、この人たちは、ウイグル人の歴史を、由来を、トラたちの歴史を、イーシャーンたちの歴史を、系譜書を、何年も探して歩いています。ここだけではなく、中国にも行くそうです。カシュガルにも行くそうです。この人たちは、民族の歴史を調査しながら世界中を回っています。そのために今日もまたや

⁸⁷ 質問者は、紹介された K1 が K1 なのか、その兄弟の Ka なのか分からずにこのような質問をした。なお、ここに言う Ka は、2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における Id、2006 年 8 月 4 日のインタビュー①における Jd と同一人物を指している。

⁸⁸ 2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における Ii、2006 年 8 月 4 日のインタビュー①における Jc にあたる。

⁸⁹ 2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における Ie、2006 年 8 月 4 日のインタビュー①における Ja にあたる。

⁹⁰ 2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における If、2006 年 8 月 4 日のインタビュー①における Jb にあたる。

⁹¹ 2004 年 8 月 30 日のインタビュー④における Ik、2006 年 8 月 4 日のインタビュー①における Jg にあたる。

ってきたようです。我が民族の歴史を「知るために」。「カシュガルに親族がいるような
[人はいいますか]。あちらと交際をするような [人がいますか]。いつこちらに来たので
すか。そのような [ことを話してくれる] 老人がいれば、話したいです」と言っていま
した。それで、ここで K1 さんを思い出したのです。K1 さんは 1956 年に [カシュガル
から] 出て来たと私は言ったのですが、正しいですか。1956 年に出てきたのですよね。

K1: 私たちは 1955 年に出て来ました。4 月 21 日です。

Z: 1929 年にあちらに行ったのでしたよね、1929 年ですよね。

K1: 私たちはここで 1928 年に生まれました。生まれた年は魚の年でした⁹²。これは私たちの
生まれた年のことです。[当時すでに] このコルホーズがありました。ウイグル・コル
ホーズと呼ばれていました。私たちは {KA}⁹³ 村で生まれました。私は 1928 年に生ま
れました。1930 年にコルホーズができ、私たちはクラーク⁹⁴ (富農) でした。[クラーク
が何であるかを] あなたたちは知らないでしょうね。

Z1: クラークですか。

K1: 土地改革があったのです。土地所有者、富豪たちの土地を奪い取り、持ち主を追放しま
した。

Z1: ああ、追放ですか。

K1: ロシア語でクラーク⁹⁵と言います。クラーク。

Z1: 大粛清の頃ですよね、知っています。

K1: その頃、私は 5 歳でした。

Z1: 何年生まれですか。

K1: 生まれたのは 1928 年です。名前は K1 です。1928 年に生まれ、5 歳の時に土地改革があ
りました。土地改革では、誰が土地を多く所有し、富を多く持ち、多くの使用人を搾取
しているのか、それを調べて、[社会主義建設のための] 援助の妨げになると [言って断
罪したのです]。そのような人たちは、何らかの援助が少ないと見なされていたのです、
ロシア語で。そのような人を投獄したりしました。罪があれば投獄します。[特に罪が]
なければ収容所に収容し、そして土地改革が始まりました。再びコルホーズは集団農場
になったのです。私が 5 歳の頃のことです。その後、私たちは状況を受け入れ難かった
ので、中国のカシュガルに行ったのです。

Z1: つまり、1933 年頃のことですか。

K1: 1933 年頃です。彼の地では…。

⁹² 回答者は、干支と星座を混同している。

⁹³ 2006 年 8 月 4 日のインタビュー①における {JD} にあたる。

⁹⁴ この時回答者は、quloq と発音した。

⁹⁵ 本来のロシア語では、kulak。

Z1: あなた自身は覚えていますか。

K1: はい。

Z1: 行ったことをですか。

K1: はい。

Z1: 5歳だったのにですか。

K1: はい。

K2: 1928年生まれなら、1933年にあちらに行ったのですね。[自分たちの]土地を没収されれば、どこかしらに引っ越さなければなりません。いずれにせよ、それに比べれば[ましだということ]で、あちらに引っ越したのです。それから、こちらが安定した後になって、1955年にこちらが安定した後にもた帰ってきたのです、生まれ故郷に。理解できましたか。

K1: このことはXたちも知らないでしょう。あの頃私たちの身に起こった状況を。私たちは、この人たちに比べれば、やや年長です。自分の年齢に従って、あの頃身に起こった出来事を、政治情勢を思い出しました。[当時は]多くのクラークがいて、知識人は尊重されず、政治を分かる人はいませんでした。政府は予算を投じていましたが、[コルホーズの]事務所の連中は、何をするにも力が及びませんでした。そのため、少しでも話に他の人を参加させようものなら、その人を肅清していました。彼(Kc)は、政策にもとづいた仕事をする人ではありません。このため、ある者はシベリアに、ある者はロシアに、ある者はウクライナに[連行されて]行き、またある者はアフガニスタンに[亡命して]行き、ある者はトルクメニスタンに行きました。あちこちに行ったのです。ここで暮らすことができなかったから出て行ったのですよ、そうでしょう。私は彼の地で1年生、2年生から、5年生、6年生まで勉強しました。

X: カシュガルですか。

K1: はい、あちらには5歳で行きましたから、あちらの学校で学びました。

Z1: カシュガルですか。

Z2: カシュガルのどこですか。

K1: カシュガルを、一つの州のことを…。中国語を知っていますか。

Z2: はい。

K1: 「ホシチョ」と言うのです。ある領域を「ホシチョ」と言うのです。

Z2: 「ホシチョン」という風に言うものではありませんでしたっけ。

K1: ええと、ウイグル語ではカシュガルと言い、中国語では「ホシチョ」⁹⁶と言います。

⁹⁶ 漢語らしき音であるが、なにを指すかは明確でない。コンテキストからは、「喀什州」が一応想定されるけれども、音としてはずれがある。

Z1: あなたは、そのカシュガルの中で [暮らしたのですか]、それとも。

K1: カシュガルと「ホシチョ」は一つの言語ですよ。

X: 同じ言葉と言いなさいよ。

K1: はい、同じ言語です。私たちは 1933 年に行きました。1955 年にまた戻ってきました。

1955 年 4 月 21 日でした。22 年間彼の地で暮らしました。

Z1: カシュガルのどこで暮らしていましたか。カシュガル市内ですか、それとも郊外ですか。

K1: 市内に住んでいました。

Z1: どのマハッラに住んでいましたか。

K1: クム・ダルヴァーザ、ユマラク・シャフル、ケシク・ダルヴァーザ⁹⁷などに住んでいました。あなたは [カシュガルの] どんな場所を知っていますか。

Z1: 私はまだ行ったことがありません。＜Z2 を指して＞この女性が知っています。

Z2: ユマラク・シャフルですか。

K1: はい。

Z2: ということは、1933 年頃に、カシュガルの町で革命が起こりました。その頃あなたは町にいらしたのですか。

K1: はい。

Z2: 革命のことは覚えていますか。

K1: 覚えています。

Z2: どんなことが起こりましたか。

K1: ロシア語では、「レヴォリュューツィヤ」と言います。ウイグル語、ムスリム語では、「インキラブ」と言います。あっていますか。中国語では「ガミン（革命）」と言います。「ガミン」も革命です、あっていますか。

Z2: あっています。

K1: 5 年生、6 年生で、少しばかり中国語も学びましたからね。あの時期に、学校で中国語です。かつての「スン・ヨンスイル・シャムシン」⁹⁸は、「ジョン・カーシ」⁹⁹の義理の父にあたります¹⁰⁰。

X: 「ジョン・カーシ」は、台湾を…。

K1: [「ジョン・カーシ」は、] あの頃の国民党の党首です。

中国語で、老人のことを「ロホン」¹⁰¹と言いますよね、そうですね。今となっては

⁹⁷ テュシュク・ダルヴァーザと思われる。訳注 15 を参照。

⁹⁸ 「孫逸仙先生」Sun Yixian (Sun Yat-sen) xiansheng (=孫文) か。

⁹⁹ 「蒋介石」Jiang Jieshi (Chiang Kai-shek) か。

¹⁰⁰ 正確には、蒋介石夫人の宋美齡と孫文夫人の宋慶齡が妹と姉の関係にある。

¹⁰¹ 「老人」laoren か。

我々が「ロホン」ですねえ。

Z2: 「ロホン」とはどういう意味ですか。

K1: 老人、高齢のことです。日本のことをウイグル語では「リビン」と言いますよね。

Z2: ええ、そうです。

K1: 私たちは日本について学ばなければなりません。彼らは我々から学ばなければなりません。そのようにして、互いをよく理解するのですよね。無知でいてはいけませんよね。日本人や韓国人は我々に比べるとかなり文明化していますよね。汗を流して [働いて] 発展してきた国ですよね。

Z1: ところで、カシュガルでは何年勉強しましたか。

K1: 6年か7年間、小学校で勉強しました。1年以上政治経済のクラスで勉強しました。将軍が我々に授業をしました。

Z1: どの将軍ですか。

K1: 将校です。当時 70 歳の高齢の人が授業をしました。ほら、こんな風に机に寝そべって授業をしました。

X: その将軍はウイグル人でしたか。

K1: いいえ、中国人でした。

Z1: 学校を終えた後、カシュガルでどんな仕事をしていましたか。

K1: 学校を終えて、4年間、公安で働きました。

Z1: カシュガルですか。

K1: 学校長のことを、中国語で「ショジョン」¹⁰²と言います。知っていますか。

K1: 教師のことを、「シャウシン」¹⁰³と言います。生徒のことを、「ショスン」¹⁰⁴と言いますよね。学校長のことは、「ショジョン」と言います。学校の長のことです。その学校の長は、勉学を終えた後、[その学校長は] 我々の「コジャン」¹⁰⁵になりました。私たちは、彼のもとで働く、ある部門の長になりました。学校長は私に授業をして教えました。その後、私はそこで働いたのです。彼はよく知っていたんですよ、私たちを、何をよく知っていると言って働かせていたのです。

<質問者らのことについて>この人たちはとてもたくさん勉強しました。多くのことを勉強しなければ、無知になります。

X: この人たちはアラビア文字も読めるんですよ。

Z1: 4年間、公安で働いたのですね。

¹⁰² 「校長」 xiaozhang か。

¹⁰³ 「先生」 xiansheng か。

¹⁰⁴ 「学生」 xuesheng か。

¹⁰⁵ 「科長」 kezhang か。

K1: はい。

Z1: 何年頃のことでしたか。第二次世界大戦の前ですか、後ですか。

K1: 前です。

Z1: 前ですね。

K1: 第二次世界大戦は 1941 年に始まりました。1945 年に終わりました。第二次世界大戦は 1945 年の 5 月 9 日に終わったと宣言されました、そうですね。1941 年から 1945 年まで続けました。

Z1: あなたは、公安でその頃働いていたのですか。

K1: 4 年間働きました。

Z1: あの戦争の時期ですか。

K1: いいえ。

Z1: 戦争の前ですか。

K1: 1949 年から 1954 年までです。

Z1: つまり、戦後ということですね。

K1: はい、戦後です。戦後、言っているでしょう。戦争は 1941 年 [に始まり]、1945 年に終わりましたよね。1945 年に終わった後のことを、戦後と言います。

Z1: 戦争の頃はあなたは何をしていましたか。

K1: 戦争の前に、先ほど言った小学校で学びました。授業を受けました。その後、働きました。27 歳になった頃のことです。あまり仕事はありませんでした。幼い頃に 7、8 年、年月が過ぎ去りますよね。7、8 年学校で勉強すれば、それにも年月が過ぎ去ります。その後、4 年間、先ほどの事務所で働いたのです。ほら、こうして 27 年が過ぎるのですよ。

Z1: あなたは 4 年間、公安で働いた後、こちらに戻って来るまでの間、あちらで何の仕事をしていたのですか。

K1: ここでですか。

Z1: いいえ、あちらです。カシュガルで、先ほどの公安で働いた後、さらに 3 年間滞在していましたよね、1955 年までに。1952 年まで公安で働いていらしたのなら。

K1: いいえ、その仕事から解雇されて、こちらに戻って来たのです。

Z1: 1955 年頃に戻って来たのなら、1949 年から 1955 年までその公安で働いていたのですか。

K1: 1949 年から 1955 年までその公安で働き、そして学びました。先生は、とても偉大な、とても知識のある方でした。その方は 70 歳を過ぎた高齢の人でした。その方の称号も、将軍の段階に達していました。

Z1: カシュガルに行った時、家族には誰がいましたか。

K1: カシュガルに行った時、私には兄がいました。

Z1: お父さんとお兄さんですか。

K1: 父もいました。

Z1: お母さんはいましたか。

K1: 母もいました。

Z1: そして、お兄さんとご自身ですね。

K1: はい、私です。

Z1: 他には誰かいましたか。

K1: 私の祖父もいました。

Z1: つまり、あなたのお父さんのお父さんですね。

K1: はい。

Z1: Ke・ハリーフアですか。

K1: 違います。

Z1: あなたのおじいさんのお名前は何ですか。

K1: 私の祖父の名前は Kf でした。

Z1: Kf ですね。

K1: 父の父のことも、おじいさん（アーッパーク・ダダ）と言います。

Z1: ええと、では、Kf とは、母方のおじいさんですか。

K1: はい、母方です。

Z1: ああ、母方のおじいさんでしたか、Kf は。

X: この人のお母さんのお父さんらしい、Kf は。

Z1: おじいさんは、カシュガルで何をされていたか。

K1: 当時、私たちと一緒に行きましたよ、祖父は。ううむ。もう年を取った人でしたからね。

Z1: [ここに] 残して行けなかったのですね。

K1: 残しては行きませんでした。もし残して行ったら、ここで逮捕されます。老人ですから、

[捕らえられたら] 死んでしまうかも知れないと言って、私たちと一緒に行きました。

Z1: 高齢だったのですね。[カシュガルに] 行った時、おじいさんはもう高齢だったのですね。

K1: 高齢でした。65 歳くらいでした。

Z1: おじいさんも、もしここに残っていれば、逮捕されるような人でしたか。富豪だったの
ですか、それともイーシャーンだったのですか。

K1: 私の父はイーシャーンでした。

Z1: お父さんのお父さんはどうでしたか。

K1: 祖父はその前に亡くなっていました。

Z1: あなたは、[存命中のおじいさんを] 見ていないのですね。

K1: 見ていません。

Z1: あなたのお父さんのお父さんの名前が Ke・ハリーファだったのですか。

K1: [訛った表現で] Ke・ハリーファです。

Z1: え、何ですか。

K1: [再び訛った表現で] Ke・ハリーファでした。

X: つまり、[正しい表現で] Ke・ハリーファです。

K1: その Ke・ハリーファは以前に亡くなっていました。

Z1: それは何年頃のことですか。

K1: それはもう、1800 年¹⁰⁶より前に亡くなりました。

Z1: つまり、あなたが生まれるよりだいぶ前ですね。

K1: はい、私たちは 1928 年に生まれましたが、[祖父は] そりゃあもう、20 年、30 年前には亡くなっていましたよ。

Z1: 若くして亡くなったのですか。

K1: いいえ、年をとって亡くなりました。

Z1: この人は誰のハリーファだったのですか。このハリーファというのは、誰かの代理人だったはずでしょう。聞いたことはありませんか。

K1: ハリーファですよ。いいえ、昔の学問を学んだ人のことですよ。

X: ハルパではありません。ハルパだと、パードシャー [の意味] になってしまいます。ハリーファというのは、例えば、学者がいたとしたら、学校で授業をする学者ですが、その学者の最も優等生である弟子のことで、[学者] 自身が不在の際に、生徒たちに授業をする優等生のことです。このような人をハルパとも言うのです。

Z1: ええ、そのことを言っているのです。つまり、その師がいるでしょう。つまり誰かのハリーファであるということでしょう。その人 1 人では、ハリーファにはならないでしょう。誰のハリーファになるのでしょうか。

X: ああ、そのハリーファという名前は、偉大になった後にも、その人に渾名、つまり名前となって残ることもあります。今では、例えば、クラスの長に学級長という名前をつけるでしょう。

Z1: はあ。

X: それに似た名前です。また、他にも、このような綿布を織る人がいますよね、その綿織り職人のうち、もっとも優れた弟子、もっとも信頼できる弟子のこともハリーファと言います。

¹⁰⁶ 文脈から 1900 年の間違いであると思われる。

Z1: 例えば、スーフィズムで、ピールがいますよね、ピール。彼のところで最もよく学んだ弟子のことをハリーファと言います。

X: ええ、よく学んだ学者のことです。

Z1: つまり、この人には、ピールがいたのではないかと言っているのです。

X: 先生がいない時に、生徒に教える、先生の代わりをする人をハリーファと言います。

Z1: その先生とは誰なのかを尋ねているのです。

X: つまり、この人のおじいさんはそのような人だったということです。

Z1: それは理解しました。

X: おじいさんは、Ke・ハリーファです。

Z1: ハリーファだったのですよね。つまり、その先生とは誰でしたか。

X: ハリーファは別の単語です。ハリーファは、王の意味です。

Z1: いいえ、ハリーファは誰の代理をする人だったのかと尋ねているのです。

X: 先生の代理をする人だと言っているでしょう。

Z1: ほら、その先生とは誰だったのかと尋ねているのです。

X: 先生は先生ですよ。

Z1: 有名な人ではなかったのですか。

K2: 彼の先生のことは知りません。忘れ去られたのです。

X: ただ、この人の祖先は皆、学識ある人たちだったのです。

Z1: あなたはお父さんと一緒に [カシュガルに] 行ったのですね。皆で一緒に行ったのですね。あなたがたは一緒に過ごし、一緒に帰って来ましたよね。別々にではありませんよね。

K1: あちらで祖父が亡くなりました。あるお姉さんのお兄さんも一緒に行きましたが、その人も亡くなりました。私たちの祖父もあちらで亡くなりました。

Z1: 戻ってきた理由は何でしたか。あちらでの暮らしは苦しかったのですか。何故戻ってきたのですか。カシュガルの暮らしは苦しいものでしたか。

K1: 私たちはここから向こうに行ったのですよ。理解していますか。他の国の土地で暮らすのは苦しいものですよ、そうでしょう。

Z1: それで後に故郷に戻って来たのですね。

K1: ええ、いや、今説明しましょう。私たちは、あちらに5歳の時に行って27歳の時に戻ってきました。小学校で学び、働きました。その後、こちらで「社会主義」が始まり、コルホーズが作られました。私たちはこのことをあちらで知りました。政府の領事館があります。領事とは何であるか知っていますか。

K2: 大使ですよ。

K1: 領事は、ある国において、外国から来て、その国の仕事をする大使館のことを言います。

〔ロシア語で〕大使館と言います。そこで手続きをして、こちらに戻っても良いと言われた後でこちらに戻ってきました。22 年間あちらに住んでいました。こちらに、親族や知人がいれば、〔あなたがその立場だとしても〕戻ってきますよね。

この人たちの民族は何でしたっけ。

K2: 日本人ですよ。

K1: 日本の言葉は〔中国のそれとは〕別で、文字も別で、民族も別ですね。〔中国には〕あちらには、日本人、モンゴル人、朝鮮人がいますよね。〔中国は〕以前、日本の植民地になったのですよね。

Z1: あなたはウズベキスタンに戻って来た後、ずっとこの家に住んでいますか。

K1: この家は約 10 年経ってから購入し、引っ越してきました。

Z1: 10 年間はどこに住んでいましたか。

K1: ウイグル村に住んでいました。

Z1: 〔ここの〕近くですよね。

K1: 近くです。

③ インタビュー No.3 （2006年8月4日）

X: 長いこと座り込んでしまいましたね。La¹⁰⁷の家で、Laがいるでしょう、彼のところにいたんですよ。お元気ですか。＜回答者を紹介して＞L1です。生年を言ってもらいますか。

Z1: ここはパフタアーバード郡ですか。

X: ウイグル村です。ウイグルアーバード村の {LA}・マハッラです。

Z1: ウイグルアーバード村ですか。

X: {LA}・マハッラです。

Z1: お名前は何でしたっけ、L1でしたっけ。

L1: L1です。

Z1: 何年生まれですか。

X: 生まれた年ですよ。

L1: 生まれは 1925 年です。

Z1: ここで生まれましたか。

L1: はい、ここで生まれました。

Z1: カシュガルに行きましたか。

L1: はい、行きました。1990 年に行ってきました。1990 年に行って、あちらに 2 人の親族がいます。私の父はその年に行って、あちらの一角に子供たちが住んでいます。

Z1: あなたは若い頃あちらで暮らしたことはありませんか。

L1: いいえ。私たちはここで、私の父もここで生まれました。

Z1: どういう状況ですか。

L1: ほほう、約 200 年前にカシュガルからここに移り住んできたのですよ。

Z1: 200 年前ですか。

L1: ここに来て、住み着いたのですよ、カシュガルから来て。

X: あなたのお父さんは後にあちらに行かれたのですね。

L1: 私の父もここで生まれました。

X: 1930 年頃にあちらに行かれたのですよね。

L1: 何ですか。

X: 1930 年頃に行かれたのですよね。

L1: 1929 年に行きました。

X: この人のお父さんは 1929 年に行ったようです。

¹⁰⁷ インタビュー②における K1 氏にあたる。

L1: クラークをしたのですよ。ここらへんの富豪たちを。クラークをした後、私の父はカシュガルに逃げて行きました。さもないと、法で罰せられるところでした。ここに残っていたら。

Z1: あなたのお父さんは誰と一緒に行きましたか。

L1: まず、1人目と3人目と一緒に行きました。その後、また他の人が行きました。

L2: 誰ですか、名前は。

L1: 1人の名前は、Lbで、私の父です。彼より年少なのが、Lcです。その下〔の弟〕がLdです。

Z1: その3人は兄弟ですか。

L1: はい、兄弟です。

X: はい、3人は兄弟です。

L1: 兄は牢で亡くなりました。捕らえられたのです。{LB}村から連れて来たようです。親族たちは皆…。子供たちは皆良い暮らしをしています。貧しい者はありません。

X: さて、そのおじさんたちの子供たちはあちらにいますか。

L1: います。

Z1: それとも、あなたのお父さんはここから行って、あちらでも結婚したのですか。

L1: しました。あちらで1人の息子が生まれました。今はその私の弟も亡くなりました。およそ4年前です。あちらで。Leです。

X: 弟の名前はLeだそうです。あちらの〔弟の名は〕。

L1: 弟はカシュガルです。

Z1: あなたの弟ですか。

L1: カシュガルの弟はLeです。

Z1: 何ですって。

L1: Leです、Le。

X: Leですよ、Leと言った方がいいでしょう。

L1: はい。私の弟には5人の息子と1人の娘がいます。〔弟は〕料理人、コックをしています。レストランを開き、アンディジャンのピラフを作って売っていたのですよ。

X: 彼が、〔カシュガルの〕どのマハッラ、どの村の人か分かりますか。

L1: 村の名前は分かりませんが、お金持ちだったことは知っていますよ。

X: カシュガルでの地名を知っておかなければなりませんね、どこに住んでいるのか。

L1: カシュガルには3つのコルホーズがあります。

Z1: さっきの…。

X: アンディジャンのようなものですよ、カシュガルも。あちらにも通りがあります。

- L1: {LC}、家の番号も {LD} 番です、私の弟の住んでいた通りです。カシュガルのだ真ん中です。カシュガル市自体のです。
- X: カシュガルの中心部だそうです。通りは {LC} だそうです。
- L1: 銅像がありますが¹⁰⁸、私の弟の家はその少しこちら側です。娘は、カラムバーグというところがあるでしょう。
- X: もしかしてベシュカラムですか。
- L1: ええ、そこで医者をしています
- Z1: 弟さんもそこに住んでいたのですか。
- L1: ベシュカラムというところがあるそうです、病院です。息子の名前も言いましょうか。
- X: はい、言って下さい。
- L1: 長男は Lf。
- X: さっき言った弟の子供の名前を言っていますよ、Lf だそうです。Lf です。父親は Le です。
- L1: もう 1 人は Lg です。その下は Lh です。その下が Li です。
- X: では [5 人ではなく] 4 人の息子ですね。
- L1: いいえ、5 人です。その名前は、ええと。一番下は Lj です。
- X: 記憶力が良いですね。
- L1: 娘の名前は Lk です。
- X: Lk だそうです。
- Z1: Lk ですか。
- X: Lk だそうです、娘の名前は。
- Z1: Lk。
- L1: その婿の名前は Li です。
- X: 婿の名前は Li だそうです。
- L1: この人がベシュカラムの病院で働いています。夫婦ともです。
- X: カラムバーグです。[ベシュカラムではなく] カラムと書いておきなさい。
- L1: はい。カラムバーグです。それは、ベシュカラムの庭園の名前です。それから、後にそこは病院になったのですよ。
- Z1: 誰が医者として働いているとおっしゃいましたか。
- X: そこにはカラムバーグという庭園があるそうです。その庭園を後に病院にしたそうです、病院です。

¹⁰⁸ カシュガル市政府の建物の所にある毛沢東像を指している可能性がある。

L1: 病院にしたのだそうですよ、その庭園を。あちらには、私の母方のおじの息子がいます。

〔おじの名は〕 Lc といいます。この人は亡くなりました。この人はいません。その息子がいるのです。

X: Lc さんとは会ったことがありますか。

L1: はい。

Z1: 母方のおじの息子さんがいるそうですよ。お書きなさい。

Z1: 母方のおじさんですか。父方のおじさんではありませんか。

L1: ええ。父方のおじですね。

X: 〔質問者たちがカシュガルに行った際に〕 見つけるのが簡単になりますから、息子たちの名前を言ってあげなさい。

L1: 息子は Lm です。もう 1 人は Ln です。娘の名前は忘れてしまいました。

Z1: 彼らもベシュアリクに住んでいますか。

L1: 私の父ですか、いいえ、違います。

X: いいえ、そうではなくて。 Lc の子供たちです。

L1: いいえ、皆カシュガル市内にいます。＜カシュガルの町の地図を手で示しながら、＞ここはこんな風に曲がっています。

X: そのベシュカラムでですか。

L1: いいえ。私の父ですか。いいえ、ベシュカラムではありません。カシュガルの中心です。カシュガルに城壁があるでしょう、その城壁の中の町に住んでいます。

Z1: ベシュカラムに誰が住んでいるとおっしゃいましたか。

L1: ベシュカラムには誰もいません。そこで、庭園を病院にしたということです。

L2: ベシュカラムで働いているそうです。

Z1: ベシュカラムでは誰が働いていますか。

L1: いいえ、彼自身はベシュカラムには住んでいません。〔カシュガルの〕市内に親族がいます。

X: 市内だそうです。

L2: ベシュカラムバーグ。その人は歌手でした。

L1: ベシュカラムバーグは今では病院になりました。

X: 〔カシュガルで〕 ベシュカラムバーグと言えば分かりますよ。ベシュカラムバーグは今では病院だそうです。

L1: ヤールヴァーク・ダルヴァーザの話をしていますか。

X: 何ですか。ヤールヴァーク・ダルヴァーザですか。

L1: はい。

- X: 分かりました。ヤールヴァーク・ダルヴァーザですね。
- L1: はい、そこに着いて、そこから私たちはカシュガルの中に入りました。
- X: ヤールヴァーク・ダルヴァーザから入るのだそうです。
- Z1: [あなたたちの先祖が] 200 年前にカシュガルからいらしたのですね。
- L1: 先祖がこちらに移住しました。
- Z1: これを誰から聞きましたか。200 年前に移住したということを誰から聞きましたか。どのように聞きましたか。
- L1: 先祖が経験したのですよ、父や祖父から。
- Z1: 例えば、誰が統治していた時代ですか。
- L1: あちらの君主ですか。ニコライが皇帝でしたよ、あちらでは。
- X: ロシア帝国ですね。
- L1: そのニコライは、最初、すべての場所を [割譲せよと] 要求したのですよ、あちらで。
- Z1: あなたのお父さんはカシュガルに逃げた時、何故あなたを置いて行ったのですか。
- L1: 知りません。私たちは、妹と一緒に残りました。私の母も残ったので、3 人で残ったということです。
- X: 何故あなたたちを置いて行ったのかと聞いていますよ。
- L1: 逃げなければ投獄されるところだったのですよ。私の母方のおじの 1 人が牢で亡くなりました。私の父たち 3 人の兄弟は逃げなければここで投獄されました。その頃、クラークをしたのです。
- Z1: 逃げた時、何故あなたたちも連れて行かなかったのでしょうか。
- X: この人を家に残して行ったのですよ。この人たちはまだ幼い子供だったのですよ。
- L1: 私たちは、あちらに連れて行くにはまだ幼かったのです。
- X: この人はお母さんと一緒にここに残ったのですよ。
- L1: 私たちをあちらに連れて行くには [幼かったのです]。ここから着の身着のまま逃げたのです。
- X: あなたはお母さんと一緒に残ったのですね。
- L1: はい、母と一緒に残りました。
- Z1: [先ほどの話に出て来た] あなたの弟と一緒に連れて行ったのですか。
- L1: 弟も亡くなりました。ここには私の妹がいました。母も逝きました。今や私だけが生き残っています。
- X: ここに 1 人の妹と一緒に残ったらいいです。
- L2: [先に聞き取り調査をした] La も 1925 年生まれでしたか。
- X: いいえ、彼は 1928 年生まれでした。

- L2: 彼は 1933 年に [カシュガルに] 行ったと言っていましたよ。この人は 1925 年生まれで、
1930 年に [カシュガルに] 行ったということですね。
- X: 1929 年に行きました。
- L1: 1929 年に父が行きました。クラークになって。
- X: コルホーズができたのが 1929 年でした。
- L1: 私たちは母の実家に行き [暮らし] ました。
- Z1: 1929 年にお父さんがカシュガルに行かれた時、あなたは 4 歳でしたか。
- L2: 4 歳で残ったのですか。
- L1: いいえ、私は 6 歳か 7 歳でした。
- 生まれた [本当の] 年は 1923 年です。それが色々あって [書類上は] 1925 年になった
のですよ。
- X: 本来は 1923 年生まれらしいですね。
- L2: 書類では 1925 年と書かれているそうです。
- L1: 書類では 1925 年と書かれていますが、実際は私の年はもっと多いのです。
- Z1: そうですか。それなら、カシュガルに連れて行ったあなたの弟さんがいたでしょう。あ
なたのお父さんがカシュガルと一緒に連れて行った弟さんがいるでしょう。
- L1: いいえ、彼は [私がさきほど言った、ここに残った] 妹ではありません。[さきほど言っ
た弟は] あちらの妻から生まれたのです。
- X: カシュガルに行って、そこで結婚しました。第二夫人です。その人から Le というのが
[生まれました]。
- L1: あちらで生まれたのです。その人はカシュガルの妻から生まれたのです。ところで、[あ
なたたちが先ほど調査に訪れたという] La は [家に] いましたか。
- X: はい、ナマーズに行っていました。私たちは彼の帰りを待っていました。
- L1: さて、あちらには私の Ld という母方のおじから 1 人の息子がいます。もう 1 人 [のお
じ] からは 2 人の息子がいます。
- X: Ld おじさんの子供たちについても知っていますか。
- L1: はい。1 人は Lo、もう 1 人は Lp です。
- X: 弟たち [実際には] の 1 人、Ld の息子たちについてもお書きなさい。Ld おじさんの息
子たちです。
- Z1: 誰とおっしゃいましたか。
- X: Lo だそうです。Ld おじさんのもう 1 人の息子は Lp だそうです。
- L2: [先の調査地の] 彼らもまたあなた方と同様で、Lq の父は別で、La の父は別だそうで
す。

X: いいえ、[Lqの父は] Laのとは同じで、Lrのとは別ですよ。

Z1: ソ連時代には「カシュガルとは」行き来はありませんでしたよね。

X: ありませんでした。

L2: 行き来はなかったのですか。

X: 当初は行き来はなかったのですよね。

L1: 当初は私たちには「行き来の」許可がありませんでした。後に、あのクラークをした後、許可が出ました。その後、1954年にあちらからこちらに戻って来ました。クラークをして行った人たちが帰ってきました。その後、往来がありました。あちらからヴィザが来れば、行くことができました。ヴィザがなければ行けません。私たちもヴィザを取って行きましたよ。

L2: 口鬚、顎鬚を生やしたまま「ヴィザ用の写真を」撮ったのですか。

L1: 昔から「鬚は」ありましたよ。

L2: そうですか。気付きませんでしたよ。

<L3が入ってくる。>

L1: おや、お元気ですか。

L3: ええ、ありがとう、君はどうですか。健康ですか。ありがとう。あなたたちは、農業と厩肥の価値（服の汚れと臭い）を感じているところでしょう。

L1: あははは。

X: この方たちはお客さんですよ、L3。この人たちは研究者です。

L3: え、何ですって。

X: この人たちは研究者です。

L3: 日本から来たのですか。

L2: はい。

L3: 日本も暑いですか。

X: L3、彼らは日本から来たお客さんです。＜質問者の一人を指して＞「この人は」タシュケントの大学で東洋学科で働いています。

L3: 「大学で」学んでいるのですか。

X: いいえ、研究しているのです。

L3: ほう。

X: この人たちは研究者です。この人たちは、ウイグル人の歴史、生活を、世界中を探して回っているのです。

L3: ほほう。

X: カシュガルにも行きます。ここにも何度も来られたのですよ。私の理解によると、彼ら

は、高齢の人たちに質問をして、調査しているのです。彼らは今、ウイグル人についての本を書いているそうです。

Z1: 私たちは明日、カシュガルに発ちます。

X: <また別の質問者を指して>ここで最も偉いの(このグループの代表者)はこの人です。

L1: カシュガルに行くのですか。

Z1: 明日発ちます。

L3: 明日ですか。

L1: すばらしいですね。[ロシア語で] 上等だ。

Z1: 明日はオシュまで行きます。

L1: [先の食事で食べた] ラグマンは残っていますか。

Z2: [ラグマンなら] カシュガルにもありますから [お気遣いなく]。

L2: さあ、ナーンをちぎろう (食事にしよう)。

L1: 私の弟の子供たちは今、食堂で働いています。

Z1: ベシュカラムで誰が働いているとおっしゃいましたか。

L1: いいえ、ベシュカラムは別で、あちら(カシュガル)で、ここの[親族]が多いのです、町です。

Z1: 医者として働いているとおっしゃったではありませんか。

X: ベシュカラムではないそうです。ええと、カラムバークというところがあるそうです。カシュガルを中心のかつての砦があった場所です。

L1: あなたたちを見て、日本を見たような、東京を見たような気持ちになりましたよ。

X: <食事が始まった>他に2人のお客さんがいますよ。フェルガナから来た運転手です。

L1: 呼びなさい。

④ インタビュー No.4 （2006年8月4日）

Z1: ここはウイグル村ですか、それとも。

M1: はい、ウイグル村です。

Z1: 何マハッラですか。

M1: {MA}・マハッラです。

Z1: {MA} ですね。

M1: はい。

Z1: 弟さんとはお母さんが違うということですね。

M1: どの〔弟あるいは妹〕ですか。はい、母が違います。私の父がここから〔カシュガルに〕
逃げて行って、あちらでも結婚しました。ほら、あそこから新聞が発行されていますよ。

Z1: あなたの氏名を書いておきたいのですが。

M1: はい。M1です。

Z1: 何年生まれですか。

M1: 私は本来 1932 年生まれですが、書類では、若くなっていしまい、1935 年生まれということ
になっています。

Z1: あなたのお父さんはここからカシュガルに行きましたか。

M1: カシュガルに行きました。ここでクラークをした時に。

Z1: そうですか。〔あなたのお父さんは〕もともとパフタアーバードの人でしたか、それとも
カシュガル出身者でしたか。

M1: 先祖が〔カシュガルから〕こちらに来ました。

Z1: いつですか。

M1: それについては、私たちは分かりません。先祖が来たということしか。

Z1: けれど、元来カシュガル出身ということですね。

M1: カシュガル出身です。それに私の父の親族も〔カシュガルに〕います。しかし、私たち
は会っていません。行ったのですが、彼らを見つけられなかったのです。そして、彼ら
は〔こちらに〕来ませんでした。私たちは〔手紙を〕書かせて送りましたが、彼らは来
ませんでした。

Z1: あなたのお父さんは何年頃に行きましたか。

M1: 1933 年に行きました。

Z1: 〔その時〕あなたは 1 歳でしたか。

M1: 私は生後 10 ヶ月でした。1 歳にもなっていませんでした。

Z1: 〔あなたのお父さんは〕誰と一緒にに行きましたか。

M1: 18 歳になった Ma という名の息子と一緒に行きました。

Z1: つまり、あなたのお兄さんですね。

M1: はい、私の兄です。

Z1: 2 人で行きましたか。

M1: はい、2 人が行きました。私たちはここに 3 人で残りました。私が 10 ヶ月で残りました。

それから、私より 3、4 歳年上の姉が残りました。「[私たちを] 連れて行っても、家もないし、苦労するから」と言って、「家を見つけてからあなたたちを連れて行く」と言ったのです。

Z1: お姉さんと一緒にですか。

M1: 私たちは 3 人で残りました。

Z1: あなたのお父さんはあちらに行つて、また結婚したのですか。

M1: その後、彼らが通過した後、国境が閉鎖されてしまったのです。通過できなくなつてしまい、それであちらで再婚したのです。[それで生まれた] その私の弟は 1938 年生まれです。

Z1: 第二夫人はカシュガルの人でしたか、それともこちらから行った人ですか。

M1: ええ、いいえ。カシュガルの人でした。

Z1: あなたが幼かった頃、彼らのことを知っていましたか。手紙を書いたりしていませんでしたか。

M1: いいえ、全く。

Z1: いつ [彼らのことを] 知ったのですか。

M1: 1955 年に知りました。当時、中等学校で労働者のための講座で勉強していたようです。私たちの親族があちらから戻ってきて、「[あなたの腹違いの弟は] 労働者のための講座で勉強している」と言ったのです。

Z1: あなたのお父さんではなくて、親族が [戻って] 来たのですね。

M1: 親族が [戻って] 来ました。ええ、当時、1947 年に私の父は亡くなったそうです。私の父は 1947 年に亡くなりました。そして、子供が残されていたのです。

X: あちらの彼らの住んでいたマハッラの名前を知っていますか。弟さんのいたマハッラを。

M1: 私の弟は、マハッラではなく、彼らのところでは、法に従って {MB} の寮 (砦) があるらしいのです¹⁰⁹。その中で常に住むことができるそうです。

X: 退職したらどうなるのですか。

M1: いいえ、退職しても、そこに住むことができるそうです。今は分かりません。手紙を書

¹⁰⁹ 壁で囲まれた職場の敷地内に職員の居住すべき住宅が付属している状況を指していると思われる。

いても返事が来ないのです。

X: あなたのお父さんが住んでいたのは何というマハッラですか。

M1: いいえ、私の父はもう亡くなりました。墓参りをしてきたと言ったでしょう。

X: いないのですか。

M1: はい。

X: あちらにも〔他に〕親族がいますか。

M1: あちらにもいます。今は私の〔腹違いの〕弟の兄がいます。母が同じで父が異なります。

X: 彼のことも教えてあげなさい。

M1: ええ、言いますよ。〔私の実の兄は〕銃殺されました。

Z1: あなたは〔腹違いの〕弟さんといつお会いになったのですか。

M1: 私の弟は1986年に妻とともに来ました。親族と一緒に来しました。彼の妻は11人の子供でした。彼の妻はあちらに残りましたが、彼らはソヴィエトにいました。兄弟のうち、8人ほどがアルマトゥにいて、1人はタシュケントにいて、1人はフルンゼ（ビシュケク）にいます。

Z1: 〔今おっしゃったことは〕よく分かりませんでした。

M1: 私の〔腹違いの〕弟のあちらで結婚した妻のことです。分かりましたか。

妻は11人の子供でした。彼らのうち、1人は中国に残りました。残ったうちの8人、9人はあれです。8人はアルマトゥで、1人はタシュケントで、1人はビシュケクにいます。

Z1: この人たちはあなたの甥姪にあたるのですよね、あなたの弟の子供たちなら。

M1: 〔私の弟の〕子供たちですか。

いますよ。3人の娘と1人の息子がいます。

Z1: さっき11人とおっしゃったのは、誰の子供ですか。

M1: 彼らはですね、私の弟の妻の兄弟ですよ。

Z1: ああ、彼女の兄弟ですね。

M1: はい。彼女の兄弟です。私の父は、1933年にクラークになって、初めはミールザチオル¹¹⁰に追放されました。

Z1: ええと、つまり、さっきの11人のうち1人がカシュガルに残ったとおっしゃいましたよね。それがあなたの弟さんの奥さんということですか。

M1: それが彼の妻です。

¹¹⁰ 現在のカザフスタンの南カザフスタン州、ウズベキスタンのシルダリヤ州、ジザフ州、タジキスタンのザファルアーバード周辺地域にまたがる荒野。現在のシルダリヤ州グリスターン市近郊に「ミールザチオル試験農場」が設置され、1900年以来この地域の開拓に貢献した。Ўзбекистон миллий энциклопедияси, 5, Тошкент, 2003, 646-647 б. 1930年代のスターリンによる弾圧の時代には、各地から追放された人々がここで強制労働に従事した。

Z1: その人ですね。

M1: はい。

M1: 彼らも、カシュガルでクラークになったらしいです。彼らはその後、こちら（旧ソ連）側に逃げて国境を越えたようです。私の弟は{MB}で教師をしていたために、彼は残ったようです。あちらで名誉回復されて。

Z1: そうですか。

M1: 残りの兄弟たちはみなこちら（旧ソ連）側にいます。彼らもクラークになったそうです。ごらんさない。1人の兄は作家でした。もう1人の兄は、軍機関の中佐でした。すいかを食べないのですか。召し上がれ。

Z1: あなたはカシュガルに行きましたか。

M1: 行きました。1986年に弟が妻と一緒に来ました。その後、1988年にヴィザの手続きをしてくれました。そして、私が妻と一緒に行きました。

さて、アトウシュにですね、アトウシュには私の弟の兄がいます。その息子がいます。私の父の墓もアトウシュにあります。

Z1: 私の弟の誰がいるとおっしゃいましたか。

M1: 私の弟の兄がいます。母が同じで、父が違うのです、その兄とは。分かりましたか。彼ら同士は母親が同じです。私と[弟と]は父が同じです。

Z1: つまり、あなたのお父さんの第二夫人は[あなたのお父さんと]子連れで再婚したということですか。

M1: いいえ。私の弟の母親と2人の子供を残して父親が死んでしまったのです。もう弟はいません。2人の子持ちの女性がそのままではいられないでしょう。[夫が]死んだ後、彼女は2人の子供を連れ、私の父と再婚したのです。そしてその後、子供が、つまり私の弟が生まれたのです。あちらの兄弟は、彼とは母親が同じです。私たちは、父親が同じ兄弟になります。

Z1: 分かりました。それで、アトウシュには誰がいるとおっしゃいましたか。

M1: アトウシュにはその私の弟の兄がいます。

X: 母親が同じで父親が違う兄がいるそうです。

M1: 今日はこれからどこに行く予定ですか。

X: 彼らはフェルガナに戻ります。

M1: ここに泊まりませんか。ほら、場所も広いし。

Z1: いいえ、私たちは明日カシュガルに発つので、オシュに向けて。明日はホテルをチェックアウトしなければなりません。ホテルに荷物が置いてあるのです。

M1: では、あなたたちにある住所と電話番号を託そう。

Z1: 下さい。

M1: 私たちは彼らの電話番号を知ることができないでいるのです。向こうに行ったら、彼らを見つけて、私たちの電話番号を渡して下さい。あるいは、私たちに電話して、あちらの電話番号を教えて下さい。

Z1: 彼らはカシュガルにいるのですか。

M1: カシュガルに、Mbという人がいます。私の弟の知り合いです。名前は、Mbとか呼ばれています。

Z1: はい。メモしておきます。この人とはどんな関係ですか。

X: 彼の弟の知り合いがいるそうです。

Z1: 知り合いですか。

M1: 知り合いです。友達、友人です。

M2: もともと[あなたのご先祖は] あちらのご出身のようですね。

Z1: それは何年頃のことですか。

M1: 何年のことになるのかは知りません。

Z1: あなたは[存命中の] おじいさんには会っていないのですか。

X: [あなたのおじいさんは]何歳で亡くなったのですか。何歳の時で、何年のことですか。

M1: 私の父はあちらで 63 歳で亡くなりました。1947 年にあちらで死亡しました。それは私が調べて分かったのですよ。

X: 1947 年に亡くなりましたか。

M1: はい。

X: 63 歳ですか。

M1: はい。私の父は 1884 年生まれです。亡くなったのは 1947 年でした。

はい、これが私の住所です。あなたたちが[カシュガルに]行ったら、彼らに私たちに住所を知らせてもらって下さい。あるいは、あなたたちが[私たちに]電話して下さい。あるいは彼らに私たちの番号を渡して下さい。私たちに電話させて下さい。彼らの電話番号が分からずにいるのです。住所も、他の情報もです。私たちも今年行きたいと思っていますのですが、どうなるか分かりません。

Z1: どうやって行くのですか。タシュケントでヴィザをもらって行くのですか。

M1: はい。タシュケントでヴィザをもらってです。前はウルムチからヴィザがきました。前は彼らがウルムチからヴィザを送ってくれたのです。そして私たちが行ったのです。

Z1: アトウシュのコク・バーザール（青物市場）、Mc。

M1: Mc です。その父は Md です。分かりましたか。コク・バーザールというバーザールがあります。彼の家はまさにそこです。

Z1: コク・バーザールですか。

M1: はい。野菜を売っているところです。そのコク・バーザールにあるそうです。

M1: 青物バーザールです。色々と細々したものを売るところのようです。私たちはそこに行ったのですよ。

Z1: その Mc という人はおよそ何歳くらいですか。

M1: 40 歳は過ぎていますが、50 歳にはなっていません。この人の母親はもう私たちと同年輩になったでしょう。75 歳か 80 歳あたりだと思います。Md という人はですね、まだ生きていますよ、彼は死んではいませんよ。

Z1: あなたのお父さんのお兄さんですか。

M1: 彼とは母親が同じで、私たちとは父親が同じです。

＜メモを渡して＞Mb の氏名はこれです。

Z1: ＜メモを指して＞この人は誰ですか。

M1: この人は私の弟の知り合い、同級生ですよ。

Z1: ＜メモを指して＞え、この人があなたの弟さんのお兄さんですか。

M1: はい、お兄さんです。

Z1: ＜メモを指して＞この人は〔弟さん〕ご自身ですか。

M1: はい、この Mc は甥です。彼は若いです。

Z1: 何ですって、甥ですか。

M1: はい、甥です。〔メモの〕下に Md があるでしょう、それがお兄さんです。彼は息子です。

ほらこの Mc は。この Md の。

Z1: 彼のお母さんはアトゥシュの人だったのですね。

M1: はい。アトゥシュの人でした。この人の家でした。お金持ちだったようです。〔最初の〕夫を〔私の父がその妻と再婚する〕2 年前にドンガン人たちが撃ち殺したそうです。その後、私の父を誰かが紹介して、ニカーフ（宗教婚）をして、家に連れてきたのです。その母親も 1986 年に亡くなったそうです。私の母も 1983 年に亡くなりました。同じ時期に亡くなったのです。

もっと前から分かっていたら、私もあなたたちと一緒にいったのに。あなたたちと一緒に向こうで楽しんで来たのに。最近では、ここから出掛けて行くそうですよ。養蚕業者たちの大会があるそうです、北京で。養蚕業者大会です。ここアンディジャン州から 5 人か 10 人が行くそうです。住所は渡しましたね。彼らはカシュガルに行って、その後ウルムチに行って、ウルムチから帰るそうです。

Z1: あなたのお父さんはここでどんな仕事をされていたか。

M1: 農民でした。米を育て、自分の水力脱穀機があり、自分の粉碎機があり、自分の土地を

持っていて、農民でした。そのため、彼らをクラークしたのです。

Z1: お金持ちの農民だったということですね。

M1: はい、お金持ちの農民でした。自分の粉碎機があり、自分の水力脱穀機があり、自分の馬がいて、牛もありました。そのためクラークしたのです。かなり広い土地がありました。

Z1: あちらに行ってからは何の仕事がされていたのですか。

M1: 父は、かわいそうに、あちらで何の仕事ができるというのでしょうか。野菜畑を耕していただけですよ。他に何の仕事ができたというのでしょうか。ここでは、全体的にすべての政府が混乱していた時代でしょう。

Z1: 何ですか。

M1: ここで、私たちの父をクラークして、ミールザ Chol に移住させようと思いました。

Z1: ミールザですか。

M1: ミールザ Chol、タシュケントにです。

X: ほら、シルダリヤ州のグリスターン方面に。

M1: あちら（ミールザ Chol）では、生活〔環境〕がとても悪かったようです。水がなく、暑く、木もない、作物もない。そして戻って来た後、ここの人たち（役人たち）が、また〔ミールザ Chol に〕行けと言ったそうです。また〔ミールザ Chol に〕行くくらいなら、カシュガルに行こうと言ってカシュガルに行ったのだそうです。

X: クラークした目的は、あちら（ミールザ Chol）を開拓しようとしてでしょうか。

M1: はい。タシュケントの研究機関の高い役職の人たちの多くを〔強制労働のため送っていたのです〕。そこに苗木を植えるために〔私の父たちは〕行っていたのです。なぜなら、彼らは皆お金持ちだし、〔農業の〕仕事をよく知っている人たちでしょう。〔その後彼らは〕土地を開拓して、お金持ちになって、子供たちを教育したのです。

Me さんは、{MC} の人でしょう。そのミールザ Chol に移住して行ったでしょう。そこから行って学んだのです。Mf と一緒に来たのです。そこで大学で教師になったそうです。私たちの中からは、Mg という人が高等教育を受けました。彼はタシュケント〔の大学〕を卒業しました。あちらで、1 人の〔ミールザ Chol に〕移住した人と知り合いました。とてもたくさんのタシュケントの〔機関の〕指導者たちが、そのミールザ Chol で子供たちを教育しました。

X: Mh もそうでしたよね。

M1: Mh は、ウクライナに行きました。一部の人をウクライナなどに追放したようです。〔ミールザ Chol に行った人は、〕この辺りでは、アサカからが多いらしいです。マルハマトからもいるようです。ここからもいます。ここの人たちの多くは逃げて来たようです。マルハマトや、アサカから行った人たちは、カッタ・タジキスタンというマハッラがあ

るのですが、そこに住み着いたようです。

M2: ここの人たちは逃げて来て、カシュガルに逃げたのですね。

M1: はい。彼らは、仕事を知っている農民ではありませんか。条件を整えて、農業をして、徐々にお金持ちになったのですよ。皆、庭園も持っていました。

1979年に、研修のために行ったら、Miという名の{MD}の長がいて、一緒に学びました。その人の知り合いたちは、{ME}の運転手でした。そのミールザ Chol に行って、研修も受けて、同時にその大学の車も運転するのです。今では{MF}の長らしいです。分かりましたか。そこに、親族がいるようです。その人はその大学の教師だそうです。大学ではそのような教師がたくさんいるそうです。

Z1: ところで、あなたのお父さんですが、18歳のあなたのお兄さんと一緒に[カシュガルに]逃げて行ったのですよね。

M1: 兄が先に行きました。

Z1: 先に行ったのですか。

M1: あちらに一緒に行ったのですよ。逃げて行った後、彼らのカッタヤグという所に親族がいるそうです。

Z1: どこですか。

M1: カッタヤグです。カシュガルにカッタヤグというマハッラがあります。私の父の親族がいます。彼らは[カシュガルに逃げて行く時]、馬の両腹につける振り分け荷袋で、金か何かがあれば、それを持って越境して行きました。それから、あちらでは、ひどく搾り取るらしいです。それを[くれと]言って取ったり、あるいは[何も]言わずに取ったりしたそうです。

取った後、[親戚に助けてもらおうとカッタヤグの親戚を訪ねて]「私はあなたの親族だ」と言って、「家を購入する[から助けてほしい]」と言って来たら、[親戚は]「私の物を食べてしまう気か」と言うのだそうです。すぐに怒って戻ってカシュガルに来たそうです。そこはカシュガルから30キロはあるそうです。カッタヤグまでは。

その頃、喫茶店があったそうです。それら、荷袋に入れた全ての物を彼らに預けたのだそうです、喫茶店に。

息子と一緒に1日か2日寝た後で、アトウシュから私の父の所に来て働いていた労働者がいたそうです。彼らは秋になると帰って行くそうです。ここで働いて帰って行きました。ひとつ彼らの所に行ってみようと言って、バーザールに行くと座っていると、彼らが[父を]見つけたそうです。私の父をその後5、6日もてなしたそうです。5日か10日滞在した後、父は戻って来ました。

戻ってくると、その中のこちらから行った人たちと一緒に、ここの人たちが混じって、

カシュガルを中国から分離させよう、戦おうと言ったそうです、中国とですよ。その時、中国は彼らを騙し、こんな風にぐるぐる巻きにして、全員を小川に連れて行き、銃殺したそうです。私の兄をも撃ち殺したのです、彼らと一緒に。

その後、[喫茶店に行って] あの荷袋を返してくれと言ったら、お前の息子が持って行ったよ、と言われたそうです。

私の父には何も残らず、その後、再婚したのですよ。さっきの [カシュガルと一緒に行った] 息子が死んだでしょう。だから、[カシュガルで再婚した妻から] 息子が生まれた時、亡くなった息子の名前をつけたのです。私の死んだ息子を取り戻したぞと言って。

彼の名前も Mj です。今のも Ma です。

Z1: よく分からなかったの、ゆっくり言っていただけませんか。まず、あなたのお兄さんが亡くなったのは何年のことでしたか。

M1: 彼は、1933 年に行ったのです。

Z1: 行ったのですね。

M1: 行った後、この人たちの多くは、カシュガルを中国から分離させようと言ったのです。

自分たちで、独立しようと言ったのですよ¹¹¹。その後、中国人の方が多数派ではありませんか。彼らを騙してか、殴ってか、何をしてでも殴って連れて来て、全員を紐で縛って小川に連れて行って銃殺したのです。

ああ、あなたたちは日本人であるのに、なぜこのようなウイグル人たちに興味を持ったのですか。

Z1: 研究上の興味が沸いてきたのです。歴史書などを読んでいると。

M1: お茶は飲みました。今度はご飯にしましょう。

Z1: いえ、結構です。

M1: 1 晩泊まって行けばいいのに。たくさんお話しできたのに。

Z1: 道も暗くなってしまうましたし。

M1: わかりました。アーミン。神様があなたたちに力を与えて下さいますよう。あなたたちの仕事が発展しますように。いつも顔を温かくして、仕事がますますうまくいきますように。神は偉大なり。

M3: 終わりましたか。あらあ、熱々のピラフを作っていたところだったのに。

¹¹¹ 前述（訳注 73）の 1933 年における東トルキスタン共和国政府樹立の動向を指すと思われる。

Ⅱ インタビューの文字テキスト（ウズベク語）

1. 2003 年 8 月 6 日 クルグズ共和国オシュ州カラスー郡

1. 06 August 2003, Qirg'iziston Respublikasi, O'sh viloyati, Qorasuv tumani

① インタビュー No.1

(1) Suhbat No.1

A1: Uylanib bola-chaqali bo'lgan. Bu qishloq uyg'urlarining har qaysi shundan boshlanadi.

A2: Hozir bir oqsoqolni olib keladi. U to'qson beshga kelgan odam.

A3: A4mi?

Z2: Sizlar ham aytib bering.

A1: Qashqar qishlog'ining kelib chiqishi shundan boshlanadi.

Z2: Qishloqning tashkil topishi shundan ekan.

Z1: Yetti kishidan ekanmi?

Z2: "Yetti kapa" deb otalgan ekan.

A1: Yetti oila bo'lgan-da.

Z2: "Kapa" degani, uy degani.

A1: Bu qishloqda uyg'urlarni paydo bo'lib qolishi shu yetti oiladan ko'paygan odamlar ekan-da.

Z2: Keyinchalik Mao Tszedun vaqtida ko'chib kelmaganmi?

A1: Yo'q.

A2: Ha, 1956 yillarda ko'chib kelgan-da.

A1: Urush davrida, kim edi, Mao Tszedunlar kelishdi. Bular kelishib turib, undan keyin mana shu yerda yashayotgan uyg'urlar ularga ruxsat bergan. 1956 yil yo'l ochilgandan keyin Mao Tszedun, Qashqardan kelgan uyg'urlar bo'lsa, bir oyning ichida chiqib ketsin deganlar, Xitoydan. Bunday degandan keyin bu uyg'urlar hammasi, biz chiqib ketishimiz kerak, o'z yurtimizga boramiz deb, ko'p Qozog'istonlik bo'lgan, bu yerlik bo'lgan, bizga qarindosh-urug'imiz bor deb kelgan-da. Kelishib ular ham bu yer yoqmasa, Qozog'istonga ketishib qoldi. Qozoqlar ham ko'p chiqqan u mahalda. So'rab [ruxsat] bergandan keyin hammasi olganni olib sotganni sotib, bir oyning ichida hammasi Mao Tszedunlar qaytib chiqishgan.

Z1: Demak sovet davlatining territoriyasida tug'ilib u yerga o'tib ketganlarmi?

A1: Ha, u yerda bola-chaqali ham bo'lgan.

Z1: Ularni Xitoy chiqazganmi?

A1: Urush bilan, kim xohlasa chiqadi.

Z1: Xohlasami?

A1: “Dobrovol’nyi parad” degan. Urushib, Mao Tszedun bilan kelishgandan keyin gazetada radioda “Dobrovol’nyi” aytgandan keyin bular hammasi chiqib kelishgan. Yana qaytishidi. Yana Mao Tszedun “uslovie” bergan bularga. Agar yoqmasa, bir oyning ichida qaytib o'tishardi.

Z2: Yoqsa qolasiz, yoqmasa, qaytib ketasiz.

A1: Qaytib ketganlar ham bo'ldi.

Z2: Qishloqda qancha odam yashaydi?

A1: Hozirmi? O'n ikki mingdan oshiqroq.

A2: O'n to'rt ming o'n besh ming bor, hozir. Hokimiyat bo'yicha yigirma mingga yetadi. Bu yerda o'zi o'n to'rt ming.

Z2: Hammasi uyg'urlarmi?

A1: Yo'q, har xil millat. Aralashib ketganlar.

Z1: Uyg'urlar necha foizi bor?

A2: Hokimiyatda bor.

Z2: Taxminan, yarmisimi, uchdan birmi?

A2: Taxminan oltmish foizi bor.

A1: U mahalda qiyinchilik bo'lib, urush bo'lgandan keyin, ko'chib kelganlar bor.

Z2: Siz o'zingiz otingizni ayting.

A1: A1.

Z2: Nechanchi yilsiz?

A1: O'ttiz to'qqiz[daman].

A4: Assalomu alaykum.

A2: Yaqinroq o'tiring.

A4: Kim bilan gaplashaman? Sizmi?

A2: Bu kishi to'qson to'qqiz yoshdalar.

Z2: Otaxon, bu kishilar Yaponiyadan kelishgan.

A4: Nima qilamiz endi?

Z2: Tarixchi olimlar. Universitetda ishlaydilar. Qashqar tarixi bilan shug'ullanadilar, XIX, XX asrlar. Shunga Qashqarning tarixiga bog'lik voqealarni sizlar bilan suhbatlashish uchun

keldilar. Shularni aytib bersangiz.

A4: Endi, Qashqar qishlog'ining tarixiga uch yuz yil bo'ldi deb to'rt asr o'tdi. Bizning cho'ng otamiz o'tdi, sakson, to'qsonga kelib. Undan keyin yana bir otamiz o'tdi, Aa, u ham sakson, to'qsonga kelib. Yana bir otamiz o'tdi, u ham sakson, to'qsonga kelib. Men ham o'tyapman, mening o'g'lim ham yetmishga keldi.

Z1: Siz o'zingiz bu yerda tug'ilganmisiz, yoki Qashqardan kelganmisiz?

A4: Men mana shu yerda tug'ilganman. Mendan katta uch kishi shu yerda tug'ilgan.

Z1: Qashqardan kelgan ajdodlaringizning Qashqardan kelgan sababini bilasizmi?

A4: Yo'q, biz Qashqardan kelganda, bir ulug' odam kelib, shu qishloqning atrofiga kelgan ekan, cho'ng otamiz. Shundan bir urug' tarqab, hozir to'rtinchi asr o'tishgan.

Z2: U yerda tug'ilgan odamlar yo'qmi?

A2: Ab tog'a bor. Ab tog'a shu yerda tug'ilib, u yerga o'n bir yoshda ketib, to'rt ikki yoshda qaytib kelgan.

Z1: O'ttiz yil u yerda yashaganmi?

A2: Qarindosh-urug'lar shu yerli-da.

Z1: U kishi necha yoshdalar?

A2: Sakson oltida.

Z2: Hozir sakson olti yoshda bo'lsa, 1917 yil tug'ilgan, 1928 yili ketgan, 1957 yilda qaytib kelgan. Stalin davrida ketib, Xrushchov davrida qaytib kelgan. U kishini uydan olib kelsangiz bo'ladimi?

A2: Ha. Borib kelishsin.

Z2: Endi bu kishidan so'rasak.

Z1: Bularning bobolari Qashqardan kelganmilar, yoki katta bobolarimi?

A2: Katta bobolari.

Z2: Bu kishining otalarining otalari.

Z1: Oppoq dadalarimi?

A2: Oppoq dadalari.

Z2: Cho'ng ota. O'rischasiga "ded".

Z1: "Praded" emasmi?

Z2: "Dedushka".

A2: Yo'q, "ded"ning "ded"i. To'rt "pokolenie" deyapti.

Z2: "Praped" ekan.

Z1: Nechanchi yil ekanligini bilib bo'lmaydimikin? Bu kishining dadalari necha yoshda

tug‘ilib...?

Z2: Cho‘ng bobongiz nechanchi yil bu yerga ko‘chib kelganlar, taqriban necha yil bo‘ldi?

A4: Endi, u cho‘ng ota, bizning otamizning otasi, Ac degan odam kelgan ekan, dastlab. Undan keyin Aa degan o‘g‘li tug‘ilgan ekan, Aa degan. besh qiz uch o‘g‘il bilan kelgan ekan. Aa ham saksonga kelib o‘lgan ekan, uning o‘g‘li. Undan keyin mening dadam Ad degan odam, u ham saksonga kelib o‘lgan. Undan keyin men ham bir kam yuzga keldim.

A2: Ikki yuz qirq yil bo‘ladimi? Bu ham hozir to‘qson to‘qqizga keldi.

Z2: Lekin har bir odam otaning o‘ttiz yoshda tug‘iladi-yu. Bir yuz yildan oshdimi?

A4: To‘rt ota, yetmish beshdan hisoblasak, uch yuz yil bo‘ladi.

Z2: Bolalarini yetmish besh yoshda tug‘dirgan emas-ku.

Z1: Bular tug‘ilganda oppoq dadalari tirik edilarmi?

Z2: Sizning cho‘ng bobongiz siz tug‘ilgan vaqtingizda hayot edimilar?

A4: Cho‘ng otamiz o‘lib ketgan ekanlar.

Z1: Bobolarini ham ko‘rmaganmilar?

Z2: Siz otangizni ko‘rdingiz, otangizning otasini-chi?

A4: Ko‘rganman, otamning otasini.

Z2: Lekin cho‘ng bobongizni ko‘rmadingiz.

Z1: Bobolari qachon vafot etdilar? Bular necha yoshda bo‘lganlarida vafot etdilar?

A4: Cho‘ng ota to‘rt yil hajja piyoda borib kelgan, Aa degan-da.

Z2: Sizning otangiz ismlari qanday bo‘lgan?

A4: Otamiz kolxozda ishlab, u vaqtda kolxoz yo‘q edi, hech narsa yo‘q edi. Qassob bo‘lgan.

Z2: Cho‘ng otangiz nechanchi yil vafot etdi?

A4: Cho‘ng otamga yetmish besh yil bo‘ldimi? Qaysi yildadir o‘ldi-da, endi...

Z1: Siz necha yoshda edingiz?

A4: Otam o‘lganda men oltmish besh, yoki yetmish yoshda edim.

Z2: O‘z otangiz o‘lganda. Cho‘ng otangiz-chi?

A4: Uni, endi bilmayman. Unda men yosh edim. O‘lganini bilaman, besh, o‘n yoshda edim.

Z1: Necha yoshda vafot etdilar?

Z2: Hali aytdilar, yetmish besh, saksonga kelib o‘ldilar. Bular besh, o‘n yoshda bo‘lgan bo‘lsa, nari yoqqa yana yetmish besh, saksonni qo‘shsak, 1820-1830 yillarga to‘g‘ri keladi. Demak, Jahongirning davriga to‘g‘ri keladi, Madalixon davrida, taqriban.

Z1: Bular to‘qson to‘qqizga kelgan bo‘lsalar, 1904 yil tug‘ilganmilar?

Z2: 1906 yil tug‘ilganlar. Chunki Islomda har o‘ttiz uch yilga bir qo‘shish kerak. Yana

onasining qarnida bir yil o'tadi. To'rt yil ham qo'shadilar-da, demak, milodiy yilda to'qson besh yoshdalar. Qashqarda qarindoshingiz bormi?

A4: Yo'q, hech kim yo'q. To'rt asr o'tib ketgandan keyin.

Z2: Ab bilar ekan, Qashqarni.

Z1: Bu qishloqda "to'ra"lar bormi?

A2: Yo'q, bu yerda "to'ra" dengan ham xo'ja degan ham yo'q.

Z2: Xo'jalar ham yo'qmi?

A2: Xo'jalar {AA} mahallada bor. "Chistyi" xo'jalar bor. Bu yerdan uch kilometr.

Z1: Qashqar qishlog'ida yo'qmi?

A2: Yo'q. Ular G'ayrat qishlog'ida.

Z2: Bu atrofda yana Qashqar qishlog'i bormi?

A2: Bor. Uyg'ur qishlog'i bor, O'zbekistonda, Paxtaobodda.

Z1: Ha, biz ham boramiz, Uyg'urobodga.

A2: Ular "Chistyi" uyg'urlar, biz Qirg'izstonning ichida o'zbekcha, qirg'izcha oralashib ketgan-da. Bizning millatimiz uyg'ur, lekin uyg'urchani bilmaymiz.

Z1: Uyg'urchani bilmaysizlarmi?

A2: Endi, tushunamiz, gaplasha olmaymiz.

Z2: Uyg'ur maktab yo'qmi, bu yerda?

A2: Yo'q, maktab yo'q.

Z1: O'zbekistonda ham yo'q. Bir qurgan ekan, keyin yopishgan ekan.

A2: Mana shu yerda, uyg'ur milliy markazi bor.

Z1: Bu yerda muzeyga o'xshagan narsa bormi?

A2: Yo'q, muzey yo'q.

Z1: Bu yerda qanday faoliyat ko'rsatadi?

A2: Uyg'ur milliy markazi har yil to'y beradi-yu.

Z2: Birorta kitoblar, jurnal, gazetalar chiqazganmi?

A2: Bir uyg'urcha gazeta chiqazyotgan edi, chiqazmay qo'ydi.

Z2: Bormi, o'sha gazeta?

A2: Bilmadim.

Z2: Bibliotekada bo'lsa kerak.

Z1: Qachon chiqqan?

A2: Uyg'ur milliy markazida biblioteka bormi? Ae direktori bo'lgan markazda.

A1: Bilmadim. Lekin bu oblastda eng katta markaz shu.

Z2: Uygʻur milliy markazida bazi biror narsalarni nashr qilmaganmi? Sizlarga tarqatmadimi?

A2: Esimda yoʻq.

② インタビュー No.2 (2003 年 8 月 6 日)

(2) Suhbat No.2 (06 August 2003)

Z2: Nechanchi yil tug‘ilgansiz?

B1: 1917 da.

Z1: Otlarini yana bir marta aytsinlar.

B1: B1, Ba o‘g‘li.

Z1: “Revolutsiya” yilda tug‘ilganmilar?

B1: Ha. “Revolutsiya” bo‘lgan yilda. Yana so‘rasin, men aytib beraman.

Z2: Bu kishi, o‘rtadagi kishi qiziqayaptilar. Qashqar tarixi bilan qiziqayaptilar.

B2: Bular Yaponiyadan kelgan kishilar ekan.

Z1: Birinchi, siz qachon bu yerdan Qashqarga bordingiz?

B1: 1927 yil.

Z1: O‘n yoshda edingiz.

B1: Ha.

Z1: Kim bilan bordingiz?

B1: Otam bilan.

Z1: Nima sabab bilan?

B1: Ketishimizning sababi, bu yerda sovet davri vaqtida boylar qolmagan. Yerni olgan.

Qochmasak, otib qo‘yadi, qamab qo‘yadi. Akamni O‘shda qamab qo‘ygan.

Z1: Taxminan necha kishi shunday qilib Qashqarga qochib ketganlar?

B1: Biz shunda to‘rt kishi ketdik.

Z1: Otangiz bilan yana kim bor edi?

B1: Yana tog‘am bor edi.

Z1: Ikkita tog‘angiz bormidi?

B1: Tog‘am bitta. U yerda Bb degan bir odam bor edi. Yana Bc degan odam bor edi, Bd tog‘am, to‘rt kishi, men bilan besh kishi bor edi.

Z1: Qashqarga borganingizdan keyin shaharning o‘zida yashadingizmi, yoki chetdami?

B1: Qashqarning o‘zida katta shahar bor. Yorvoq darvozasi degan shahar bor edi. Burun to‘rt darvozasi bor edi, Qashqarning shaharning atrofi qo‘rg‘on edi. Shuning ichida.

Z2: Chorvoq darvozami?

B1: Yorvoq darvoza.

Z1: Dadangiz Qashqarda nima ish qildilar?

B1: Dadam Qashqarda savdo bilan shug'ullandilar.

Z2: Savdogar ekanlar.

Z1: Nimani sotdilar?

B1: Latta, har xil mayda narsalar.

Z1: Savdo deganingiz, Qashqarning ichidami, yoki sovet davlatiga narsalarni olib kelib, olib chiqib, shunday qildilarmi?

B1: Qashqardan olib, Yarkand, Qarg'alik degan shahar bor, u yerga olib borib sotar edilar.

Z1: Qashqarga borishdan oldin, dadangiz bu yerda ham savdo bilan shug'ullandilarmi?

B1: Qilardi.

Z1: Shuning uchun boy bo'lganlarmi?

B1: Ha, shuning uchun qochganlar.

Z1: Siz necha yoshgacha Qashqarda bo'ldingiz?

B1: Shu ketgancha 1956 yil keldim. Yana ko'p so'raversin. Men turgan shaharlarim bor.

Z2: Yana savollarni ko'p bersangiz bo'lar ekan. Chunki boshqa shaharlarda ham yashabdilar.

B1: Ha, men boshqa shaharlarga borganman.

Z2: Qaysi shaharlarga bordingiz?

B1: Men Urumchi degan shaharda turdim. Xo'tan degan joyda ham turdim. Hami shahriga, Kuhna Turfon deganga bordim. Kariya degan joy bor yana, Xo'tanning Kariya degan joyga bordim. O'n sakkiz yil u yerda turdim. Otam o'lgandan keyin men tijoratga ketganman. Otam besh yildan keyin o'lib qolgan.

Z1: Demak o'n besh yoshingizdan boshlab savdogarchilik qilganmisiz?

B1: Qilganmiz.

Z1: Qashqarda biror joyda o'qimaganmisiz?

B1: Qashqarda men, bu yerdan ketgan bir domlamiz bor edi, o'sha domladan ozroq namozni yoshlaganimda o'qib, ikki yilcha o'qib, undan keyin bu odam ham ketib qolganlar, qari odam edilar.

Z2: Otlari kim edi, o'sha domla?

B1: Be domla edi.

Z1: O'qiganda necha yosh edingiz?

B1: Dadam besh yildan keyin o'lgan bo'lsa, dadam bor paytda ikki yil, uch yil o'qiganman. Dadam olib borib bergan-da, maktabga. Undan keyin boylar Qashqarda qolmagan, qamadi.

Z2: U yerdagi madrasalarga kirib o'qimadingizmi?

B1: Yo‘q.

Z2: Xitoy tilini ham o‘rganmadingizmi?

B1: Xitoy tilini oldi-sotdini bilaman, savdogarchilik uchun. Hisobini bilaman. Tijoratda pul topish kerak-da.

Z1: Sin‘tszyanda 1933-1934 yillarda Sharqiy Turkiston Respublikasi degan bir davlat paydo bo‘ldi. U haqida xabaringiz bormi?

B1: A shunda boylarning bolalari qolmagan-da.

Z2: Sharqiy Turkiston Respublikasini eshitmaganmisiz?

Z1: O‘n yetti yoshlarda bo‘lganlar.

B1: Esimdan chiqib qoldi. Qarib qoldim.

Z2: Alixonto‘ra sog‘uniyni eshitmaganmisiz?

B1: Alixonto‘rani eshitganman, Guljada turgan. Guljada Alixonto‘ra qo‘zg‘oloni bo‘lgan. Men Urumchiga borgan vaqtida Ahmad apandi degan guljalik bo‘lgan. Mas‘ud apandi degan bor edi. Ana shular xo‘jayn edi. Men ham bir kuni kinoga [tushdim], mana kino yo‘q-ku, artistlar o‘ynaydigan ko‘p bor edi. Men ham yosh edim, men ham artistni ko‘rib kelay desam, otishma bo‘lib ketdi. Men qattining tagiga kirib qutulib qolganman. Keyin Ahmad apandi Guljaga qochib ketdi.

Z2: 1944-1945 yillarning voqealarini aytayaptilar.

B1: Ana shunda men Urumchida edim.

Z2: Shu paytda Urumchida bo‘lgansiz.

B1: Ana shu Ahmad apandi Mas‘ud jushi degan bor edi, men Urumchida bo‘ldim. Keyin urush bo‘lgandan keyin Ahmad apandi guljalik ekan, Guljaga qochgan u.

Z2: Shu davrlarda sizning esingizda qolgan juda katta boshqa voqealar bo‘ldimi?

B1: Endi ana shu davrlarda ikki yilda bir yilda urush bo‘lib, har unisi xo‘jayn bo‘lib, har bunisi xo‘jayn bo‘lib, pul chiqazib, uni puli o‘tmay, bunisi o‘tib, ikki yil orada yana o‘tmay, urush bo‘lavergan.

Z2: Shu 1930-1940 yillarda har ikki yilda bir yilda urush bo‘lavergan ekan. Bir kelib o‘zini hokimiyat olayotirib, yangi pul chuqazgan, keyin u hokimiyat o‘zgarib, boshqa hokimiyat kelib, u o‘zini pulni chiqazgan, ana u pul o‘tmay qolgan. Shunday qilib, juda ko‘p urush bo‘lgan, pul olmashgan. Qanday pullar bor edi?

B1: Latta pul qilgan ular yo qog‘oz pul qilgan.

Z2: Savdo qaysi respublika paytida yaxshi bo‘lgan?

B1: Keyinmi?

Z2: 1920 yillarning oxirida, 1930-1940 yillarda. Qaysi hukumatniki savdo uchun yaxshi boshqaruv bo'ldi? Odamlar boyib yaxshi yashagan davri qaysi yillar bo'lgan?

B1: Men kelyotganda, men 1956 yil keldim, undan keyin undan burun o'n yil burun odamlar pul topadigan bo'lgan.

Z2: 1946 yildan keyin yaxshi yil bo'lgan.

B1: Biz 1956 yil keldik. Ketganimdan keyin u tarafga xat yozish mumkin yo'q. Xat ham olmaydi. Siz bir gapni qilsangiz, obro'ngiz qolmaydi. Birga birni agent qilib qo'ygan.

Z2: Bu yerdan xat yozib, yo u yerdan xat olish mumkin emas edi. Bu yerning so'zini so'ylasangiz, sizni agent deb, obro'yingiz tushib ketadi yoki bo'lmasa, sizni ja'sus qiladilar.

B1: 1956 yildan keyin u yoq bilan aloqa bo'lgan, Qashqarga.

Z2: 1956 yil aloqa ochilibdi. Bu yerdan 1920 yillarda borgan o'qimishli mullo odam ko'pmidi Qashqarda?

B1: Ko'p edi. Lekin qolmadi-da.

Z1: 1956 yilda bu yerga qaytib kelganingizdagi ahvolni aytib bersangiz.

Z2: 1956 yil Sovet Ittifoqiga qaytdingiz. Shuni batafsil aytib bersangiz.

B1: Chegarami?

Z2: Yo'lga chiqqandan boshlab, bu yo'lga kelguningizcha.

B1: 1955 yili, bu yerda akam enam qolgan, uch, to'rt odam qolgan, xat bordi-keldi qilgandan keyin men bu yoqqa kelishni xohladim. Menga viza yubordi. Viza orqali keldik. Undan keyin mashinaga pul to'lab, odamlar ham shunday qildi, men ham mashinaga pul to'lab, men keldim.

Z2: Qaysi yo'llar bilan keldingiz?

B1: Norin bilan keldim. Otboshi Norin bilan. Otishning tepasi bor. Otish degan joy bor, ana shundan yo'l bor, Noringa keladi Otboshidan, kelib Pishpekga keldim. Pishpekdan bu yoqqa poezd bilan keldim.

B2: Otish, Otboshi, Norin, Rybachi, Pishpek, Toshkent.

Z1: Toshkent orqali keldingizmi?

B1: Ha.

B2: Xitoydan Pishpekgacha mashina bilan, Pishkekdan Qorasuvgacha poezd bilan. To'g'rimi? Poezd bilan kelganmisizlar?

B1: Poezdga keldim. Rybachigacha mashinada keldim. Rybachidan poezdga chiqdim.

Z1: Qaysi chegaradan o'tdingiz?

B1: Kelishdami?

Z2: Ha.

B1: Kelishda Otboshidan o'tdim. Norin bilan. Chegara ko'rinib turar ekan.

Z1: Chegarada hech masala yo'qmidi? Qiyinalmadingizmi?

B1: Yo'q, qiyinalganim yo'q. Bola-chaqam bilan kelganman. Bolalarim bor edi.

Z1: U yerda uylandingizmi?

B1: Ha, kampirim bor edi, bolalarim ham bor edi.

Z2: U yerda oila qurdingizmi?

B1: Ha, yosh ketganman-da. Bola-chaqam bilan kelganman.

Z2: Qayerdan uylandingiz?

B1: Kariyadan uylandim.

Z1: Urumchida ham bo'lgansiz...

B1: Urumchida ham bo'ldim.

Z1: Nechanchi yillarda?

Z2: Nechanchi yildan nechanchi yilgacha Urumchida bo'ldingiz?

B1: Urumchida ikki yil turdim, 1945 yildanmidi, esimdan qutilib ketdi. 1945 yil bo'lishi kerak.

Z1: Ikkinchi Jahon Urushidan keyinmidi?

Z2: Sovet Ittifoqining Germaniya bilan urushidan so'ng bo'ldimi?

B1: Undan keyin. "Yanhan" degan joyda turdim. Konsul turadigan joy bor.

Z2: Qaysi konsul?

B1: O'risniki ham bor edi, boshqalarniki ham bor edi. Langar deb yozib qo'ysangiz ham bo'ladi.

Z1: O'sha mahallada tatarlar ham yashaganmi?

B1: Tatarlar ham kamroq bor edi. O'risdan ham bor edi, shu yerdan qochgan. Tatar ham o'ris ham bor edi.

Z1: Urumchida qanday ish bilan shug'ullandingiz?

B1: Savdogarchilik qildim.

Z1: Nima sotdingiz?

B1: Tavor olib sotdim. Urumchidan olaman, Qora shaharga sotaman. Xitoycha "Yanji" deydi.

Z1: Urumchidan keyin qayerga bordingiz?

B1: Ikki yil u yerda yurib, Kuhna Turfan degan joy bor.

Z2: U yerda ham savdogarchilik qildingizmi?

B1: Ha. Aqsuga bordim, Kuchada turdim, Kariyada turdim, Xo'tanda turdim, Yarkandda turdim. Tijorat bilan yurganman.

Z2: Tijoratda faqat mato olib sotdingizmi yoki boshqa narsa ham sotdingizmi?

B1: Hamma narsa. Foyda bo'lsa sotaman. Qashqarda odamlar tomga chiqar edi. Shahar tor edi. Katta binolar bor edi. Shahar tor bo'lgan uchun tomga chiqar edi. Qishloqlarda unaqa emas edi. Endi hozir qanday, bilmayman. To'rtta darvozasi bor edi. Shaharning atrofi qo'rg'on edi-da. Endi biz kelayotganda ularni olayotgan edi.

Z2: Otaxon, Qashqarda juda muqaddas joylar ko'p, Sharqiy Turkistonda. Shunaqa joylarga ziyoratga borganmisiz?

B1: Oppoq xo'jam degan joy bor. Oppoq xo'jam mozori bor.

B2: Undan keyin?

B1: Kuhna Turfanda Asobka degan joy bor.

Z1: Bular "ekspeditsiya" qildilar.

B1: Yana Kariyaning Niya degan joy bor. U yerda "Imom Ja'far Sodiq" degan joy bor edi. Borganmisizlar?

Z2: Bular shu haqida kitob yozmoqchilar.

B1: Niya degan joy bor. Niyaga borganidan keyin otda ikki kun yursangiz, "Imom Ja'far"ga borasiz. "Imom Ja'far"ning qabri baland, qumda.

Z2: Qanaqa qilib borib qolganlar, u kishi? Rivoyasi bormi?

B1: Bir davrda urush bo'lgan ekan. Urush bo'lib, mana shu yoqqa qochib brogan ekan, askarlar bilan. Keyin o'sha joyda g'or ichiga yo'q bo'lib ketgan ekan.

Z2: G'oyib bo'lgan.

B1: G'oyib bo'lgan ekan. Ana shularni odamlar aytishadi.

Z2: Muqaddas urushga borgan, jihodga va shu yerda askarlar bilan qochib, yuqoriga chiqib, g'oib bo'lgan.

B1: Hazrat Shoh Mashrab degan o'tgan ekan. Hazrat Shoh Mashrab ham o'sha joyga borgan ekan.

Z2: Qaysi shaharda?

B1: Imom Ja'farda yer to'lalar bor, katta bir narsa bor. Shuning tagida egilib turib ibodat qilib kelgan ekan, hazrat Shoh Mashrab.

Z2: Yana qanday ziyoratgohlarga bordingiz?

B1: Yana Charchan degan joy bor. Shuning tog'ida Qora soy degan bir tog' bor. Shunda tog' ichida bir mozor bor ekan. Uning oti Hinjura xonum ekan. Suv tog'dan kichikina oqib chiqadi. Odamlar borishadi, ziyorat qilishadi.

Z1: Birorta odam dafn etilganmi?

B1: Odam turadi.

Z2: Dafn etilgan joy bormi?

B1: Yo‘q, ochiq. U yerda qora sovuq bo‘ladi. Yog‘in kam bo‘ladi.

Z2: Qashqarda siz borishingizdan bir yigirma yil oldin Shomiy Domla degan odam bo‘lgan ekan. Haligi bolalarni o‘sha yerdagi mulla bachchalarni Sahih Buxoriyni o‘qitgan bir odam bo‘lgan ekan.

B1: Shomiy Domlami?

Z2: Ha, Arabistondan kelgan. Shu haqida hech qanaga gap-so‘z eshitmadingizmi Qashqarda?

B1: Endi, bolam, men unda yosh edim. Tuzik bilmayman uni. Endi sal yosh katta odam, uni surishtirib, men kichik bola bo‘lib qolganman. Keyin otam o‘lgandan keyin jon boqishni harakat etib qolganmiz biz. Undan keyin yana bir gap. Bu yerdan borganlar yarmi Sovet tarafi bo‘lgan, yarmi Xitoy tarafi bo‘lgan. Bosh tup olgan har qaysidan. Agar bir-birini topganida urib qamabdi-da, shunday ishlar ham bo‘lgan.

Z2: Otaxon, eshitdik, bir kishi bo‘lgan ekan shu yerda, shu qishloqning tarixi to‘g‘risida kitob yozgan ekanlar. Shular hammasi yozildimi?

B1: Mana shu yerdan o‘tgan, asli uyg‘urmidi, Usmon-oxun domla degan odam bo‘lgan. Endi ana shu odam yozgan bo‘lsa, bilmayman-da, lekin Usmon-oxun domlani Qashqar boyi hammadan hurmat qilib o‘qitadi bolani, o‘sha odam o‘rta bo‘ylik odam bo‘lgan soqollik. U kishi birinchi tarix yozganmi, bilmayman.

Z2: Toshkentda bir Usmon Turkistoniy degan odam bo‘lgan. Uni eshitgan emasizmi?

B1: Bila olmayman.

Z2: 1920-1930 yillarda yashagan.

B1: Uni bila olmayman, bolam.

Z2: Bilimli odam bo‘lgan, Termezlarda yashagan.

B1: Endi, mendan ham yoshi kattaroq odamlar bo‘lsa, bilishi kerak.

Z2: O‘zi Sharqiy Turkistonlik bo‘lgan tagi.

B1: Ko‘p odam borgan bu yerdan. O‘rislardan ham qochib borgan. Tatarlardan ham borgan. Qirg‘izlar ham borgan. Tojiklar ham borgan. Ko‘p borgan. Bu yerdan borganlarni hammasini andijonlik deb.

Z1: Sizning xotiningiz Sin‘tszyandan-a?

B1: Ha, Sin‘tszyandan.

Z1: Hali ham qarindoshlari bilan xat yozishib turasizmi?

B1: Ha, qarindoshlari o‘lib ketdi. Ayolim o‘lib ketdi. Bolalarim bor.

Z2: Xat yozar edingizlarmi yoki telefon qilar edingizmi?

B1: Xat yozardik.

Z1: Hozir-chi?

B1: Hozir, endi, ayolim o'tib ketdi. Ular xabar qilib, odamlar kelib ketishidi, deb so'rashib turamiz.

Z1: Ha, kelib ketishar ekan.

B1: Ha, kelib ketishdi ular. Tog'amning o'gil-qizlari bor edi. Ko'rla degan joyda. Ko'rla degan joy bor.

Z1: Qarindoshingizlar qachon kelib ketdilar?

B1: Uch yil bor.

Z1: Qo'chib kelganlarmi yoki mehmonga kelganlarmi?

B2: Mehmonga. Meni bolalarim ham borib keldi.

Z1: Borib keldingizmi?

Z2: Bu kishining bolalari. Nima bilan borib kelishdi, qaysi transport bilan?

B1: Mashina bilan, avtobus bilan borishdi.

Z1: Qaysi yo'l bilan? To'rg'artdanmi?

B1: Gulja orqali. Ili ham diydi, Gulja ham deydi.

Z1: Charchamadingizmi? Katta rahmat.

B1: Sizlar charchamagan bo'lsangiz... Endi sizlar ham bir mehmon bo'lib ketinglar. Bir piyola choy ichib. Choy damlab bering.

2. 2003 年 8 月 10 日 ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡

2. 10 August 2003, O'zbekiston Respublikasi, Andijan viloyati, Paxtaobod tumani

① インタビュー No.1

(1) Suhbat No.1

X: Uyg'urlar bu yerga kelib dehqonchilik qilgan. Dehqonchilik qilib, kuzga borganda dehqonchiliklarini yig'ishtirib, tuyalarga, otlarga, eshaklarga yuklab yana o'sha yerga ketganlar. Keyinchalik, "Borib kelib yuraveramizmi, mana shu yerga ko'chib kela qolib yashaylik, mana shu yerga, mamlakat bir bo'lgandan keyin" deb sekin-asta ko'chib kela boshlagan. Bu yerga kelgan odamlarning kelishi bir yilda bo'lmagan, hozir ham kelyapti.

Xuddi shuningdek, urush-janjallar shahri bo'lgan. Masalan, manchjurlar, qora xitoylar deydilar bu yerdagi odamlar, Sharqiy Turkistonga hujum qilganlardan keyin natijada keksa ota-onalar o'z farzandlarini saqlab qolish maqsadida, "Andijonga ketinglar", deyishgan. Andijon deb Toshkent, mana shu atroflar, vodiy ham Andijon hisoblangan.

Shu shaharga ular kelib, bu yerga, Andijonga, Andijon atrofidagi qishloqlarga, Namanganga, Marg'ilon atrofiga hattoki Turkmanistonga kelib joylashgan. Shu jumladan bizning mana shu Uyg'ur qishlog'imizga kelib joylashgan. Bu yerga joylashgan odamlarining ko'pchiligi Qashqardan.

Z1: Manchjurlar Sharqiy Turkistonni bosib olgandami?

X: Sharqiy Turkistonni manchjurlar hujum qilib odamlarni bezor qilgan. Ular bu yerga kelib sholi ekan, don ekan, paxta ekan. Bu yerlarni o'sha davrda andijonlik boylar o'zlaricha bo'lib olgan. Andijonlik boylar ham bu yerga kelib ularni ishlatgan.

Ular Qashqarning qayeridan kelgan bo'lsalar, qaysi mahallasidan kelgan bo'lsa, ana shu kelgan mahallasini nomini qo'ygan bu yerga. Qashqarning Otishdan kelgan, bir yerga joylashib, mahalla Otish. Otish degan mahallamiz bor. Ostin Otish, Oldin Otish degan Otishlar bor Qashqarda. To'qqiz bog'dan kelganlar To'qqiz boqqa joylashgan, Ozoq degan joydan kelganlar Ozoqqa joylashgan. Otish Qashqarda bor mahalla bu yerda ham bor. Otish, To'qqiz bog', Shavrug', Ozoq degan mahallalarimiz bor.

Bu yerda yana aholi ko'paygandan keyin mana shu yerning o'zida yangi mahallalar paydo bo'lgan. Masalan, objuvoz tegirmonlar bor bo'lsa, shuni atrofiga joylashgan odamlar

Objuvoz mahalla bo'lgan.

Pushmon degan mahalla bor. Pushmon degani "pushaymon" so'zidan olingan. Ularning mol podasiga bo'rilar to'qaydan hujum qilgandan keyin buni mana shu yerdan turib, "Pushmon qildik-da", deb pushmon qilganlar pushmonliklar bo'lib Pushmon mahallasi.

Keyin, Soy mahalla bor. Bir soy bo'lgan. O'sha soy bo'yida aholi joylashgan. Endi soy yo'q, bitirilib mahalla bo'lib ketgan. Soy mahalla deyiladi.

Undan tashqari, yana Qovul mahalla bor. Matqovul degan odam birinchi kelib shu yerda uy qurgan. Shu Matqovulning nomiga Qovul mahalla bo'lgan.

To'ko' degan mahalla bor. To'ko' desak, bir xil odamlar, "Bu yerda yaponlar bormi", deydilar. Yo'q, to'ko' degani, odam onasidan bir oyog'i kalta bo'lib tug'iladi-ku, ana shu uyg'urchasiga to'ko' deyiladi. Ana shu cho'loq odam bu yerni mahalla qilgandan keyin atrofdagi boshqa odamlar kelib joylashib To'ko' mahalla bo'lgan.

Paynap degan mahallamiz bor. Paynap ekinlarning suvi oyoqqa oqqan. Shu ariqning bo'yida joylashgan, ya'ni Paynap mahallasi.

Z1: Bu Qashqarda yo'qmi?

X: Yo'q, Qashqarda yo'q.

Janjal degan qishlog'imiz bor. Janjal degan ot Qashqarda bor. Mana shu mahallalarda odamlarimiz yashayapti. Hozir yangi mahallalar paydo bo'lyapti.

Oldin, 1930 yilgacha bizning qishlog'imiz Qashqar qishloq deyilgan. 1930 yildan keyin Uyg'ur qishlog'i deb nomlanadi, hozir Uyg'urobod deyiladi. O'n sakkiz ming aholi yashaydi. O'n sakkiz ming aholidan o'n olti ming besh yuz uyg'urlar, qolgani boshqa millat vakillari.

Z1: Uyg'urobodning o'zidami?

X: Ha, Uyg'urobodning o'zida.

Kolxozimiz Olim Qurbonov nomli jamoa xo'jaligi. Olim Qurbonov ko'p yillar shu kolxozga raislik qilgan. Mehnat Qahramoni, besh marta O'zbekiston Oliy Majlisga deputat bo'lib saylangan.

Z1: U Uyg'uroboddanmi?

X: Ha, Uyg'uroboddan.

1957 yilda bizning rayondan birdaniga oltita Mehnat Qahramoni chiqqan. Shu Mehnat Qahramonlarining to'rttasi bizning uyg'ur millatiga mansub, ikkitasi o'zbek. Masalan ularni aytib berishim mumkin.

Tojaxon Yoqubov, uyg'urlik. Yoqub kolxozi deyiladi, shu Yoqub kolxozning raisi

bo'lgan. Shu odamning nomi qo'yilgan, vafot etgandan keyin.

Qo'nog'ali degan brigadir bo'lgan. U ham Mehnat Qahramoni bizning Uyg'ur qishlog'idan.

Bozor Mamadaliev degan odam bo'lgan. Bozor Mamadaliev Rayon Ijroiyy Kommunasini raisi bo'lgan. "Rayispolkom" bo'lgan. U ham uyg'urlik bo'lgan.

Z2: Siz Sharqiy Turkistonda yashaganmisiz, yoki shu yerda tug'ilganmisiz?

X: Shu yerda tug'ilganman. Ha, men uyg'urlikman.

Z2: U yerdan kelgansiz-a?

X: Yo'q.

Z2: Sharqiy Turkistonda tug'ilganlar bormi?

X: Ha, hozir ham bor. 1957 yilda chiqib kelganlar bor.

Z2: 1930-1940 yillarning voqealari haqida gapirib beradigan odamlar bormi?

X: Men beshinchi avlodman. 1956-1957 yillarda chiqib kelgan odamlar {XA} qishlog'imizda bor.

Z2: Sharqiy Turkiston tarixi haqida gapirib beradigan odam bormi?

X: Ha, bor.

Z2: Necha foizi 1920 yillar, XIX asrlarda kelgan, necha foizi 1956 yillarda kelgan?

X: Oldin uyg'ur madaniy markazi raisi bo'lgan Husanoxun Musaev degan odam bo'lgan. Professor, meditsina institutida iqtisod fanlaridan dars bergan odam. Andijonda, {XB}da uyi. Shu odamning aynan Qashqardan O'rta Osiyoga uyg'urlarning kelishi haqida yozgan maqola-kitoblari bor.

Sayfiddin Jalilov degan odam bor. U ham professor. Andijonda universitetda dars beradi. Uning uyi {XC} degan joyda. Shu odam ham bizning qishlog'imizga kelib tarixini o'rgangan. Bir kitob yozgan. Husanoxun aka Musaev o'tib ketdi, uning bolalari bor.

Z2: Sayfiddin Jalilovning Uyg'urobod bilan qiziqishining sababi nima? O'zi u kishi uyg'ur emasmi?

X: Yo'q, u kitob yozmoqchi bo'lgan. Husanoxun Musaevning millati uyg'ur. Iqtisod fanlari kandidati.

Z2: "Uyg'urlarni Sharqiy Turkistondan O'rta Osiyoga ko'chib kelishi haqida maqola yozgan" dedingiz, sizda bormi, o'sha maqola?

X: Yo'q, menda yo'q.

Z2: Muzeyda bormi?

X: Yo'q. Bu yerda uyg'urlar haqida ma'lumot yo'q. Bu muzey Habibiy nomidagi

adabiyot-san'at muzeyi. Umuman ko'pchilik narsalar Habibiya bag'ishlangan. Habibiya mana shu Paxtaobodda tug'ilib, Toshkentda yashab vafot etgan, O'zbekiston xalq shoiri.

Z2: Uyg'urobodga oid hujjatlar qayerda bor?

X: Uyg'urobodga oid hujjatlar, Musaevning maqolasini topsangiz, Sayfiddin Jalilov degan odamni topsanglar, keyin Qosim Boqiev degan odam bor edi, vafot etgan. U Toshkentda yashagan, filologiya fanlari nomzodi. Xalq og'zaki ijodi haqida maqolalari bor. Uning "Sharqiy Turkistondan kelgan uyg'urlar" degan kitobi bor.

Z1: Kim dedingiz?

X: Qosim Boqiev.

Z1: Toshkentda chiqqanmi? Nechancha yillarda?

X: Toshkentda 1970 yillarda chiqqan bo'lsa kerak. Toshkentda uyg'urlarni bilasizlarmi? U yerda uyg'urlar ko'p. Ro'zi Qodiriy degan shoir bor edi.

Z2: U o'lib ketdi.

X: Uyg'urlar bu yerga 1940 yillarda ham, urushdan keyin, Stalin vafot etgandan keyin, Xrushchov davrida ham 1954-1956 yillarda kelgan. Endi hozir kelishmay qoldi. Qo'qon qishloq tarixi kerak emasmi?

Z1: Kerak. Ayting.

X: Qo'qon xonligi bo'lganda birinchi Norbo'tabek, undan keyin ularning o'g'illari Olimxon, Umarxonlar, undan keyin Xudoyorxonlar xon bo'lgan. Mana shu yillarda bu joylar to'qay bo'lgan. Norbo'tabek o'lgandan keyin o'rniga katta o'g'li Olimxon xon bo'lgan. Olimxon o'ldirilib o'rniga Umarxon xon bo'lgan. Umarxon, shoir Nodirabegimning turmush o'rtog'i bo'ladi. Bu yerlarni obod qilish maqsadida asir tushgan, soliq to'lolmasdan qolgan kambag'al odamlarni mana shu yerga ko'chirgan.

Z1: Olimxon davridami?

X: Olimxon, Umarxonlarning davrida.

Ko'chirganlardan keyin bu yerlarga birinchi kelganlardan biri Muazzinboy degan mulla, eshon odam bo'lgan ekan. Bu yerda shu Muazzinboyning avlodlari bor. U birdaniga qirq ikkita aravada kelgan bo'ladi. Qaraydiki, bu yerda yer yaxshi, suv serob.

Shu bilan odamlar Qo'qonning qaysi qishlog'idan, qaysi mahallasidan kelgan bo'lsa, ana shu nomlarni bu yerga qo'ygan. Masalan, Qo'qonda Khafalak degan joy bor. Khafalak degan mahalla bu yerda ham bor. Sangrabot degan joy bor. Sangrabot bu yerda ham bor. Qorashok degan joy bor. Qorashok bu yerda ham bor. Xayrobod, Fayzobod, Qorashok, Qo'qondagi mahallalar mana shu yerga qo'yilgan bo'ladi. Undan keyin bu yerda yana

yangi mahallalar paydo bo'lgan. Qo'qonliklar bu yerni obod qilgani uchun Qo'qon qishloq bo'lgan, Qo'qonliklar qishlog'i.

Z1: Bu yer deganingiz Uyg'ur qishlog'ining o'zimi yoki alohidami?

X: Bu yer Uyg'ur qishlog'idan alohida qishloq. O'zbeklar yashaydigan qishloq Qo'qon qishloq bo'lib, 1926 yilda Izboskan rayoni tuzilgan. Izboskan rayonidan Paxtaobod rayoni 1939 yilda ajralib chiqqan.

Birinchi kelganlardan Muazzinboy, u odamning o'zining nomi boshqa. El ichida tarqalgan nomi Muazzinboy, ilimli, boy odam bo'lgan.

Z3: Paxtaobod tumanida nechta aziz joylar bor?

X: Aziz joylar serob. Uyg'ur qishlog'ida Qilich Burhon degan joy bor. Keyin Xovuskan ota degan joy bor, Turkiston kolxozida. Ko'kto'nlik ota degan joy bor, Ko'kto'nlik qishlog'ida. Hozirda Yoqubov kolxozida. Taqsim ota, Madaniyat qishlog'ida bor. Paxtaobod rayonida Mirtaqsim ota degan mozar bor.

Z1: Sekinroq ayting.

X: Qilich Burhon bu Uyg'ur qishlog'ida. Ko'kto'nlik Ota, Ko'kto'nlik qishlog'ida, Yoqubov kolxozida, Xovuskan Ota Turkiston kolxozida, Mirtaqsim ota Madaniyat qishlog'ida Paxtaobod rayonida.

Z2: Bahovuddin Naqshbandning qabri bormi, Mo'g'ul qishlog'ida?

X: Mo'g'al deng. Mo'g'al qishlog'i Qirg'izistonda. Lekin bilmayman. Qadamjoy bo'lsa kerak.

Xovuskan Ota degan joyda bir tepalik bor. Shu tepalikning yonida qabriston bor. Odamlar shu tepalikning tagini kovlaganda tagidan buloq chiqqan.

Uchko'za qishlog'ida Jonodil-Maqodil degan tepaliklari ham bor. Ulardan xarobalar qolgan. Janodil-Maqodil tepaliklari arablardan oldin, arablarga qarshi kurashgan odamlar bo'lgan. Janodil akasi, Maqodil ukasi. Ular Qutaybaga qarshi kurashgan. Uchko'za degan qishlog'imiz bor. O'sha Janodil-Maqodil katta tepalik qilib bola-chaqasi, urug'-aymog'i bilan tepalikdagi katta saroyda yashagan. Norindan yer tagidan suv olib kelib, o'shalar avlodiga quyilib turar ekan. Arablar bostirib kelgandan keyin saroyning darvozalarini berkitib oladi. Arablar "Ularni qanday qilib yengsa bo'ladi?", deganda sotqinlar, "O'sha Uchko'zaning suvi oqib keladigan teshigini topib berkitishsa, ular chanqoqdan chidolmasdan taslim bo'lishi mumkin" deganda, Noringa somon oqizishgan. Suv trubadan kira boshlayotganda, belidan bog'lab odamlarni tushirib, suv yo'lini berkitgan. Suv, sopoldan qilingan ko'za truba bir-biriga kiydirilib olib kelingan. Ana shuning uchun qishlog'imizning nomi Uchko'za.

Z1: Kim dedingiz?

X: Janodil-Maqodil, aka-uka. Bular haqida to'liq ma'lumotlar yo'q, faqat xalq ichida rivoyatlar bor.

Z1: Uchko'zada mozor bormi?

X: Tepalik bor. O'sha Sayfiddin Jalilov arxeolog olim, bu yerlarni tekshirgan. Unda bular haqida ma'lumot bor. U yerdan odamlarning bosh suyaklari, ko'zalar chiqqan.

Demak, Qo'qon qishloq tarixi Qo'qon xonligi davriga bog'liq bo'lmay undan ham oldin ekan, degan ma'lumotlar bor.

Eski qo'rg'on, Qora qo'rg'on degan joylar bor. O'sha Janodil-Maqodil tepaliklarining atrofidagi tepaliklarni kovlasa ularning tagidan odamlarning uylari chiqqan.

Andijonda {XB} mahallasida Musaev Husanoxun aka degan odam yashab o'tgan. U bizlarning oblast' bo'yicha uyg'ur madaniy markazining boshlig'i edi. Hozir Xa degan odam uyg'ur madaniy markazining boshlig'i. O'sha odamni topsanglar, topib beradi. Husanoxun aka Musaevning uyi Andijon bog'ining kunchiqish tomonidagi mahallada. Universitetning atrofidagi mahallalar {XB} deyiladi. O'sha mahallaning hammasi uyg'urlar. Husanoxun Musaev tarixchi emas, lekin tarixni yaxshi bilardi. O'zi iqtisoddan dars berardi.

Z1: Uyg'urlar Qashqardan Uyg'urobodga kelishi haqida, jungarlar Sharqiy Turkistonni bosib olganda ko'chib kelgan. Keyin, 1956 yillarda ham ko'chib kelgan. O'shalarning orasidagi davr haqida informatsiya yo'qmikan? Kelganlariga yana boshqa sabablar bormi?

X: Sabablardan biri, Qo'qon xonligi davrida Qo'qon xonligi ma'lum bir davrda Qashqarni bosib olgan. Ayniqsa, Umarxon, Umarxonning o'g'li Madalixon, Muhammad Alixon, Sharqiy Turkistonga yurish qilib Qashqarni egallagan, lekin ularni xitoyliklar qaytargan. O'sha davrda ham uyg'urlar Farg'ona vodiysiga ko'plab kelgan. Farg'ona vodiysining turli joylariga kelgan. Farg'ona vodiysining qayeriga borsangiz, Qashqar mahalla, Qashqar qishloq, Uyg'ur mahalla, Uyg'ur qishlog'i degan joylar bor.

Z1: Siz beshinchi avlod ekansiz. Nechanchi yili sizning katta bobongiz, dadangiz kelganlar?

X: Men 1938 yili tug'ilganman. Mening dadam Xb. 1907 yilda tug'ilgan, 1994 yili vafot etgan. Dadamning dadasi Xc. 1933 yili yetmish ikki yoshda vafot etgan. Uning dadasi Xd bo'lgan. U 1916 yili sakson uch yoshda vafot etgan. O'sha Xd Qashqardan chiqqan. Kelib {XD} mahallasida yashagan.

Z1: Demak, siz to'rtinchi avlod ekansiz-da?!

X: Men, dadam Xb, Xc, Xd. Undan oldingisi Qashqarda qolib ketgan. Uning nomini

bilmayman. To‘g‘ri, to‘rtinchi bo‘lar ekan. Bizning avlodimiz Qashqarda, Oppoq Xo‘ja atrofidagi mahalladan bo‘lganmiz.

Z1: Katta bobongiz necha yoshda Qashqardan kelgan, yosh paytdami?

X: Yosh paytda, go‘dakligida, onasining qo‘lida, go‘dak vaqtida chiqqan. Undan katta akasi bo‘lgan. Chiqqanida o‘n sakkiz yoshda bo‘lgan. Uning oti Xe. U {XE}da joylashib qoladi. Onasi bilan ikki o‘g‘il bir qiz, to‘rt kishi chiqib kelgan. Xd, Xf tug‘ilgan ekan. Xfsi Andijonda kimgadir turmushga chiqib qolib ketgan. Xe Xonabodga borib joylashib, o‘sha yerda uylanib o‘sha yerlik bo‘lib ketgan. U yerda ham bizning avlodlarimiz bor. Ukasi bizning Uyg‘ur qishlog‘imizga joylashgan. Bizning dadamizdan ham oldin chiqib kelganlar bor.

Z1: Aynan sizning bobongiz nima sababdan Qashqardan chiqib kelganlar?

X: O‘sha, manchjurlar bostirib kelganda, urush bo‘lganda, xitoylar bilan Sharqiy Turkistonda to‘polon-urush bo‘lganda, chiqib kelgan ekan. Xdning dadasi Andijondan uylangan ekan. Xotini andijonlik ekan. U “biz qarib qoldik endi. Sen ukalaringni, onagni olib Andijonga, tog‘anglarning oldiga ketgin” Xega degan ekan. Tog‘a deb, xotinini akasi yoki ukasini deydi. HakangXF degan qishloq bor, Andijonda. O‘sha yerda tog‘alari bo‘lgan ekan. O‘sha yerga kelib joy olib, bu yerga joylashib qolgan.

Z1: Demak, katta bobongizning dadasi Qashqardan chiqib Andijonda yashagan ekan-da?!

X: Bordi-keldi bo‘lgan. O‘zi qashqarlik bo‘lib, xotini andijonlik bo‘lgan.
Ipak yo‘lida, karvonlarda bordi-keldi bo‘lgan.

Z1: Katta bobongiz Andijonda tug‘ilgan ekan-da?!

X: Yo‘q. Andijondan uylanib Qashqarga olib ketgan. To‘rt farzand ko‘rib, bitta farzandini o‘zi bilan olib qolgan. U yoqda qizi bilan qolib, “Men o‘lsam, jag‘imni boylab qo‘yadi. Sen, ukalaringni, onagni olib ketgin”, deydi, katta o‘g‘li Xega. Keyin bular Andijondagi Xg degan tog‘asinikiga joylashgan. Xe onasi, singlisi, ukasini Xg tog‘asinikiga qo‘yib, o‘zi tirikchilik istab, {XE} tomoniga borib qolgan.

Lekin, Uyg‘ur qishlog‘ining tarixi mening dadamning tarixi bilangina chegaralanib qolmaydi. Undan oldin paydo bo‘lgan, sakkiz yuz yildan ortiq.

Z1: Uyg‘urobodga katta bobolaringiz uyg‘urlar, qashqarliklar bu yerda yashaganliklari uchun kelganlarmi?

X: Qashqarliklar borligi uchun kelgan.

Z1: Xuddi sizga o‘xshab o‘sha davrda katta bobolari Qashqardan kelgan odamlar bormi? O‘zi Qashqarda tug‘ilgan emas, masalan to‘rtinchi avlod bo‘lgan odamlar bormi?

X: Bor. Keksa chollar bor.

Z1: Qayerdan topsak bo'ladi?

X: {XA} degan qishlog'imizda bor, saksonga, yetmishdan o'tgan odamlar bor.

Z1: Xd katta bobongizni, Qashqarda qolgan dadalarini ismi aniqmi yoki bilmaysizmi?

X: Bilmayman. Xb mening dadam, dadamning dadasi Xc, uning dadasi Xd, Xdning dadasi u yoqda qolgan, bitta qizi bilan qolgan. O'zi keksayib qolgan odam ekan. Keksaygan chog'ida farzand ko'rgan ekan. Katta o'g'lining ismi Xe, o'n sakkiz yashar. Uning avlodlari {XE}da. Xf Andijonda qolib turmushga chiqib ketgan. Xd bu yerga kelib uyalashgan. Yana bir qizi Xh ekan. U Qashqarda qolgan. "Men o'lib qolsam, jag'imni boylab, shu menga qarasin", deb olib qo'ygan.

Z1: Demak, u qizi Xedan katta yoki kichik bo'lganmikan?

X: Bilmayman.

Z1: Demak, onasi uchta farzandini olib kelgan-da?

X: Onasi, katta o'g'li Xe, Xd, Xf to'rttalasi kelganlar. Xh u yerda qolgan. Onasining Andijonda Xg degan akasi bo'lgan. Shu tog'asinikiga "Andijonga tushib ketinglar", degan.

HakangXF degan joy bor. U yerda ham uyg'urlar yashaydi, ular o'zbeklashib ketishgan.

Z1: Oqsoqollarni ismlarini aytib bersangiz.

X: Xi, sakson yoshga yetgan odam. Hajga borib kelgan. {XA} qishlog'ida.

Yana bitta odam Xj. Bular bir-birlariga qarindosh.

Xk, 1957 yillarda Qashqardan chiqib kelgan. Urush yillaridagi Sharqiy Turkistondagi vaziyatlarni biladi. Hozir {XA} mahallasida imom. yetmishga yaqinlashib qolgan. Hammasi {XA} mahallasida.

Xl. O'qituvchi. Hozir pensiyada. U ham hoji. Xl ham Xi ham asli mana shu yerlik. Ularning dadalari qadimda Qashqardan chiqqanlar, menga o'xshab.

Qashqarda {XA} mahalla bor. Qashqarning {XA} mahallasidan kelib joylashgan. Yonida Andijon mahalla ham bor. Qo'qon qo'rg'oncha mahalla ham bor. Qo'qon qo'rg'oncha Oxunboboev kolxoziga qaraydi. U {XA} bilan yonma-yon. Qo'rg'onchadagilar Qo'qondan kelib joylashib qolganlar. Lekin, {XA} bu Qashqardan kelganlar, uyg'urlar.

② インタビュー No.2 (2003 年 8 月 10 日)

(2) Suhbat No.2 (10 August 2003)

Z2: Otaxon, professorlarimiz Sharqiy Turkiston tarixi bilan shug'ullanishadi.

C1: Nimani aytishim kerak, men?

Z2: Sharqiy Turkistondan kelib qolish tarixini.

C2: Qayerda tug'ilgansiz?

C1: Shu yerda tug'ilganmiz.

Z1: Sizning katta bobolaringiz Qashqardan kelgan ekanlar, shunga qiziqib bir so'raylik deb kelganmiz.

C1: Bu yerdan bir qarindoshimiz Qashqarga ketgan. Qashqardan, nargisi Qashqarda qolib, unisi hajja ketgan, ayol kishi. Uni gapirib beraman ekan-da.

Z2: Ha.

Z1: Siz o'zingiz Qashqardan kelgan bobolaringizdan nechanchi avlod bo'lasiz?

C2: Oppoq dadangizning qabri Qashqardami, qayerda? Otishdami?

C1: Otishda bo'lsa kerak.

C2: Oti nima bo'lgan?

C1: Ca.

Z1: Oppoq dadalarimi?

C2: Ha, oppoq dadalari. Dadasini otasi-da. Dadangizni oti nima bo'lgan?

C1: Dadamning ismi Cb. Dadamning dadasi haqida ko'p ham bilmayman. Biz yosh edik. Dadam haqida bilaman.

Z1: Siz tug'ilganda bo'lganmilar?

C1: Men tug'ilgan paytda dadam bor edilar. U kishi 1985 yilda, sakson besh yoshda vafot etgan.

C2: Nechanchi yil tug'ilgan?

C1: 1902 yilda tug'ilgan.

C2: Qashqarda tug'ilganmilar, dadangiz, yo bu yerdami?

C1: Dadam shu yerda tug'ilgan.

Z2: Dadangizning dadasi Qashqarda tug'ilgan-a?

C1: Dadamning dadasi Qashqarda tug'ilgan.

Z1: Qayerda vafot etganlar, Qashqardami?

- C1: Qashqarning Otishida vafot etgan. Dadam bu yerda tug‘ilgan. U kishi kolxozchi bo‘lgan.
- Z2: Siz o‘zingiz nechanchi yilda tug‘ilgansiz?
- C1: 1928 yilda.
- Z2: Ismingiz, familiyangizni ayting.
- C1: C1.
- Z2: Dadangizning dadalari Qashqarda tug‘ilib vafot etgan. Otangiz qanaqasiga bu yerda tug‘ilgan?
- C1: Otam buvilari bilan kelgan bu yerga. Dadasi Qashqarda qolib ketgan. Dadam enasi bilan kelib, keyin qaytolmay qolgan. Keyin uylanib shu yerda qolgan.
- Z1: Demak, dadangiz o‘zining otasini ko‘rolmagan-da?
- C1: Yo‘q, men ko‘rganim yo‘q.
- Z1: Siz emas, sizning dadangiz?
- C1: Ko‘rdi.
- Z1: Qayerda?
- C1: O‘sha yoqda. Dadamning dadasi Qashqarda vafot qilgan. Dadam qaytib, bu yerga kelib, u yerga bora olmay qolgan.
- Z2: Bu yerga kelgan, dadangiz. Demak, dadangiz Qashqarda tug‘ilgan-da?
- C1: Yo‘q, dadam bu yerda tug‘ilgan. Ha, dadam Qashqarda tug‘ilgan, to‘g‘ri.
- Z1: Dadangiz Qashqarda tug‘ilgan, keyin bu yerga kelib yana borganmi?
- C1: Yo‘q, borolmay qolgan.
- C2: Qashqarda tug‘ilib, qaysidir sabab bilan bu yerga kelishgan. Kelgandan keyin qaytib ketayotganda ruslar chegaralarni yopib qo‘ygan. Chegarani yopgandan keyin bularni o‘tqizmay qolgan, “qizil”lar.
- Z1: Otalari Qashqarda tug‘ilib, onasi bilan bu yerga kelib, keyin qayta olmay qolgan.
- C2: Juda to‘g‘ri.
- Z1: Sizning bobongiz bu yerga bir marta ham kelmaganmi?
- C1: Bobommi? Yo‘q, kelmagan.
- Z1: Faqat Qashqarda bo‘lganmilar?
- C1: Faqat Qashqarda bo‘lgan.
- Z1: Dadangiz necha yoshda bu yerga kelganlar?
- C1: Yigirma besh, yigirma olti yoshlarida kelganlar.
- C2: Siz 1925 yilda tug‘ilganmisiz?
- C1: 1928 yilda.

C2: 1928 yilda tug‘ilgan bo‘lsa, otasi kelib bu yerda uylangan. 1925 yillarda bu yerga kelgan-da. Chegara 1926, 1928, 1930 yillargacha ochiq bo‘lgan. Keyin o‘tkazmay qo‘ygan, “Bizlarniki” deb e‘lon qilgan.

Z1: Onangiz bu yerdanmi, Qashqardanmi?

C1: Bu yerdan. Uyg‘ur.

Z1: Enangiz-chi?

C1: Enam ham uyg‘ur.

Z1: Qashqarlikmi, mana shu yerlikmi?

C1: Opamning opasi ham mana shu yerlik. Dadamning opasi qashqarlik.

Z1: Bo‘lmasa, qashqarlik enangiz qanday qilib bu yerga kelgan?

C1: Dadam bilan enam bu yerga kelgan. Ikkalasi. Burundan qarindoshlari bor ekan. O‘shalarnikiga kelib, bir ikki yil qolib, kelib qaytolmay qolgan. Qaytolmay qolgandan keyin dadam bu yerda uylanib bola-chaqali bo‘lgan. Keyin dadamning dadasi o‘ldi deb xabar keldi.

C2: Xat yozishib turishgan-da.

Z2: Dadangiz bilan onalari nima sababdan kelgan?

C1: Mehmonga kelgan.

Z2: Onangizning bitta o‘g‘li bo‘lganmi?

C1: Ikkita o‘g‘li, bir qizi bo‘lgan.

Z2: Ular Qashqarda qolganmi?

C1: Yo‘q, shu yerda. Uch enadan uch bolamiz. Bitta xotin olgan, u o‘lgan, yana olgan, yana o‘lgan, keyin yana olgan. Bir ota, uch enadan uch bola.

Z2: Dadangizning aka-ukalari bormi?

C1: Yo‘q, bir o‘zi.

Z1: Sizning dadangiz Qashqarga qaytolmaganligidan keyin bu yerda uylanganlarmi?

C1: Ha, qaytib ketolmay qolganlari uchun shu yerda qolib uylangan.

Z2: Dadalari 1902 yillar atrofida tug‘ilgan. Yigirma yoshlar atrofida 1926-1927 yillarda onalari bilan bu yerga kelganlar. Keyin Qashqarga qaytib ketolmaganlar. Keyin bu yerda uylanganlar. Keyin bu kishi tug‘ilganlar.

Z1: Nechanchi yilda chegara yopilgan?

C2: A Ruslar Qashqardan odamlarni mol-dunyosi bilan o‘tishga ruxsat beravergan ekan. Bu yerdan qaytib ketishga ruxsat bermagan. Faqat bir tomonga ishlagan. Eng oxirigisi 1957 yilgacha ruxsat bo‘lgan ekan. 1957 yildan o‘tib, undan keyin mutlaqo o‘tkazmay qolgan

ekan. “Provakatsiya” qilib, odamlarni aldatavergan ekan ruslar, “Bizda u yaxshi, bu yaxshi, sharoit yaxshi” deb. Lekin qaytarib o‘tkizmagan, ishchi kuchi bilan ta’minlash uchun. Mamlakatning ichki siyosati shunaqa bo‘lgan.

Z2: U yoqdan xat kelib turganmi, bobongiz tarafidan, qarindoshlardan rasmlar kelganmi?

C1: Rasmlar kelmagan, keyin xat ham to‘xtagan. Hojidan rasm kelardi. Arabistondan. Hojilikka ketgan odam xolamizning qizi edi. Xolamiz bu yerda qarib vafot qildi. Xolamiz ham nihoyatda olim xotin edi. Juda kuchli xotin edi, bilimi zo‘r edi. Yo‘l ochilgandan keyin ular keldi bu yerga.

Z2: Sizning xolangizning qizi nechanchi yilda safarga bordi?

C1: Nechanchi yilligini bilmayman.

Z2: Yoshi necha edi?

C1: Hozir yetmish yetti yoshda.

Z2: Qayerda turadi?

C1: Arabistonda yashaydi. Qarindoshi bilan hajga ketgan, dada Qashqarda qolgan, keyin qizga o‘sha yerdan kuyov olib bergan. Qo‘qonlik odamga bergan. U yerda bola-chaqali bo‘lib qoldi.

Z1: Xolavachchangizmi?

C1: Ha.

C2: Hozir qayerda yashaydi, Madina shahridami, Makkadami?

C1: Makkada yashaydi. Hozir yetmish yetti yoshda.

Z2: Otlari kim?

C1: Otlari Cc.

Z2: Necha yoshlarda bu yerdan Qashqarga ketdilar?

C1: O‘n yoshida Qashqarga ketgan, bu yerdan otasi bilan. Mendan ikki yosh katta bo‘lgan.

Z2: 1926 yilda tug‘ilgan ekan.

Z1: Hozir ham xat yozib turasizlarmi?

C1: Yo‘q. Hozir xat yozishadigan odam yo‘q.

Z1: Xat yozish qachon tugadi?

C1: Besh yil, sakkiz yil bo‘ldi-da. O‘sha xolamiz o‘lgandan keyin. Ccning onasi 1995 yilda vafot etgan.

C2: Bu yerda yashab o‘lganidan keyin xat kelmay qolgan.

Z1: Xolavachchangiz kim bilan Qasharga ketgan?

C1: Dadasi bilan ketgan.

Z1: Kim bilan Makkaga borganlar?

C1: Qarindoshi ayol kishi, ayol kishi bilan hajga borgan. Dadasi Qashqarda qolgan. Dadasi bir yildan keyin taraddud qilib “Boramiz” deb, shu bilan borolmay qolgan.

Z1: Qashqarda sizning bobongiz qachon vafot etgan?

C1: 1929-1930 yillar atrofida vafot etgan bo‘lsa kerak.

Z1: Demak, dadangiz bu yerga kelib, besh yillarcha o‘tgandan keyin vafot etgan ekanlar-da. Sizning dadangiz Qashqarda bo‘lganlarida nima ish bilan shug‘ullanganlar?

C1: Dehqonchilik qilishgan.

Z1: Bobongiz ham dehqonchilik qilganlarmi?

C1: Dehqonchilik. Bu yerga kelib ham dehqonchilik qilgan.

③ インタビュー No.3 (2003年8月10日)

(3) Suhbat No.3 (10 August 2003)

D1: Men to‘rtinchi avlodman.

Z1: Ismingiz?

D1: D1.

Z2: Familiyangiz?

D1: D1.

Z2: Nechanchi yilda tug‘ilgansiz?

D1: 1939 yil.

Z2: Otangizning ismi, otangizning otasini ismi, uning otasini ismi va nechanchi yil tug‘ilib vafot etganlarini aytasangiz?

D1: Taxminan, mening dadam 1889 yilda tug‘ilib, 1985 yilda vafot etganlar.

Z2: Otlari nima?

D1: Otlari Da, Db o‘g‘li. Bobom Db aka.

Z2: Nechanchi yil tugilib nechanchi yil vafot etganlar?

D1: Bobom o‘lganda dadam o‘n to‘rt yashar bo‘lgan ekan. Bobom ellik olti yosh bo‘lganida dadam tug‘ilgan ekan.

Z2: Yetmish yil yashagan ekanlar. Dadalari 1889 yilda tug‘ilib o‘n tort yoshda dadalari vafot etgan bo‘lsa, demak, 1903 yil vafot etgan ekanlar.

D1: Dadam 1985 yili vafot etgan dedimmi? Yo‘q, 1975 yil. Yo‘q, 1978 yili vafot etganlar.

Z1: Dadangiz 1978 yili vafot etganlarmi?

D1: 1978 yil yigirma uchinchi fevralda.

Z2: Bobolari 1903 yili yetmish yoshda vafot etgan ekanlar.

Z1: Sizning dadangiz to‘qson yil umr ko‘rganlarmi?

D1: Sakson to‘rt yil, yo‘q, sakson olti yil.

Z1: Sizning dadangiz 1978 yilda sakson olti yoshida vafot etganlar. Sizning dadangiz o‘n to‘rt yoshida otasi vafot etgan. Otasi necha yoshda vafot etgan?

D1: Otasi yetmish yoshda vafot etgan ekan.

Z1: Ellik olti yosh bo‘lganda tug‘ilgan ekan. Bobongizning dadalarini ismlarini bilasizmi?

D1: Ha, Dc.

Z1: Qachon vafot etganlarini bilmaysizmi?

D1: Yo‘q, bilmayman.

Z1: Ularning dadalarini ismlarini-chi?

D1: Buni bilmayman. Haa, Dd!!!

Z1: Qashqardan bu yerga kelganlar, bu Dd bo‘lganmi?

D1: Ha, o‘sha Ddlar kelgan. Ddlardan keyin, Dc, Db, Da bo‘lganlar. Bizning {DA} qishlog‘imizning tarixi ikki yuz ellik yilga yetmaydi.

Z1: Sizning bobongiz Qashqarda tug‘ilganlarmi?

D1: Qashqarda tug‘ilgan. Qayerida tug‘ilganlarini bilmaymiz.

Z1: Bobongiz necha yoshligida bu yerga kelgan?

D1: Uylangan paytida kelgan-da.

Z1: Dadangiz bu yerda tug‘ilganlarmi?

D1: Ha, bu yerda tug‘ilgan.

Z1: Otangizning aka-opalari bormi?

D1: Otam bitta, yolg‘iz o‘g‘il bo‘lgan. Uchta opalari bo‘lgan. Uch opasining nevara-chevaralari bor.

Z1: Demak, bu Paxtaobodga har xil zamonlarda odamlar kelgan ekan-da?

D1: Tog‘aning avlodlari u yerlik bo‘lgan, bu yerga kelgan keyinchalik. Sovet davrida boy-kambag‘allar deb urush bo‘lgan, keyin u yerga qochib ketgan. Hozir, qarindoshlari bor ekan, xat qilib turishar ekan. U yoqqa borish niyati ham bor ekan, endi, iqtisod tarafidan qiyin, borolmaydi, katta pul kerak unga. Intilib turadi borishga. O‘zining jigarlarini sog‘inadi, bora olmaydi. Yo‘l ochiq, lekin pul yo‘q. Jigarlari, qondoshlari bor u yerda.

Z1: Bobongizning xotini, sizning enangiz qashqarlikmi, yoki bu yerlikmi?

D1: Bu yerlik.

Z1: Qashqarda uylanganlarmi?

D1: Bobomlarmi?! Bobomlar, ularning hammalari u yerlik bo‘lgan. Dadamiz bu yerda tug‘ilib mana shu yerlikka uylanganlar.

Z1: Demak, enangiz shu yerlikmi?

D1: Enamiz mana shu yerlik. Mening buvim ham mana shu yerlik-da.

Z1: Db degan odam sizning bobongiz-a?

D1: Ha, bobom.

Z1: Qashqarda tug‘ilganlarmi?

D1: Yo‘q, Dc tug‘ilgan.

Z1: Bu yerda tug‘ilganlari kim?

D1: Db dadamiz mana shu yerda tug'ilgan.

Z1: Katta bobongiz-chi, Dc?

D1: Ular Qashqardan bo'lganlar. U yerda tug'ilganlar.

Z1: Bobongiz bu yerda tug'ilgan, dadangiz ham bu yerda tug'ilganlarmi?

D1: Katta bobomiz u yerda tug'ilganlar.

Z1: U kishi uylangandan keyin bu yerga kelganlar-a?

D1: Ha.

Z1: Qashqarda uylanganlarmi?

D1: Qashqarda uylangan u kishi.

Z1: Xotini qashqarlik bo'lganmi?

D1: Qashqarlik bo'lgan.

④ インタビュー No.4 (2003 年 8 月 10 日)

(4) Suhbat No.4 (10 August 2003)

E1: Men Qashqarda tug'ilganman. 1956 yili chiqib kelganman. Tarixi endi, haqiqatdan ham o'ylasangiz, yashash sharoiti, ob-havosi, tuprog'i hammasi bir xil, hech qanday o'zgarish yo'q. Yer-suv, bu yerda qanday mevalar bo'lsa, u yerda ham bor, sharoiti jindek o'xshamasa ham. Bu yernikiga nisbatan u yerning yeri salgina qattiqroq, aziqroq. Yer strukturasi ham bu yerga nisbatan sal jonsizroq. Ko'proq o'g'it solmasangiz, ko'proq hosil ololmaysiz, ko'proq mehnat qilasiz. Mahalliy o'g'it bilan o'g'it solib turardik. Biz u yerda chorvachilik bilan shug'ullanardik. Odamlari chorvachilik bilan yashaydi. Ammo, ob-havosi, yashash sharoiti, turmushi O'zbekiston bilan bir xil, bap-barobar yashaydi. Masalan, qiz chiqarish, o'g'il uylantirish, yoki bo'lmasa, to'y qilish, hamma sharoitlari bir xil.

Z1: Qashqardan chiqqaningizda necha yoshda edingiz?

E1: O'n olti yoshda.

Z1: Nechanchi yilsiz?

E1: 1940 yilman.

Z1: Nima sabab bilan bu yerga kelgansiz?

E1: Mening ota-onam asli burun u yerdan chiqqan bo'lsa ham ota-onam bu yerda bo'lgan. Keyin bu yerda quloq davri bo'lgandan keyin bizning ota-onamiz quloq bo'lib u yerga ketib qolgan.

Z2: Quloq, sovetlar kelgandan keyin odamlarni sinflarga bo'lib boy-kambag'allarga bo'lishgandan keyin boy bo'lganlari uchun qochib ketishgan, bo'lmasa bularni qamab otgan, 1928 yilda. Nechanchi yilda ota-onalaringiz chiqib ketishgan?

E1: 1933 yillar.

Z2: 1933 yillar atrofida bu yerdan chiqib ketishgan.

X: Qashqarning Otish mahallasiga borgan ekanlar.

E1: Otamning qabri ham o'sha yerda. Jiyanlarim ham bor.

Z1: Siz o'zingiz uyg'urmisiz, yoki o'zbekmisiz?

E1: Uyg'ur. Katta bobomlar o'sha yerlik, qashqarlik bo'lgan. Keyin ular kelib o'mashgandan keyin bizning ota-onalarimiz bu yerda tug'ilgan, bu yerda uy-joylik bo'lgan. Katta otalarimiz vafot etgandan keyin. Sovet davrida, Sovet hokimiyati qurilgandan keyin quloq

bo'lgan, shu bilan majbur yana qochgan.

Z1: Sizning tagingiz qashqarlik-da?

E1: Ha, qashqarlikman.

Z1: Dadangiz qayerda tug'ilgan ekanlar?

E1: Dadam ham bu yerda tug'ilgan.

Z1: Onangiz-chi?

E1: Onam ham mana shu yerlik.

Z1: Dadangiz nechanchi yilda tug'ilgan?

E1: Bilmayman.

Z2: Ismlari nima?

E1: Ea.

Z2: Nechanchi yilda vafot etdilar?

E1: Men bir yarim-ikki yasharligimda vafot etganlar.

Z2: Necha yoshda bo'lganlar?

E1: Qirq, qirq beshlar atrofida bo'lganlar. Yosh olamdan o'tganlar.

Z1: Eng birinchi bo'lib Qashqardan bu yerga kelgan katta bobolaringiz qachon bo'lgan ekan?

E1: U uzoq bo'lgan, ularning tarixini bilmaymiz.

Z2: Ea akaning otalarining ismlari kim bo'lgan?

E1: Eb.

Z2: Nechanchi yil u kishi vafot etganlar?

E1: Endi bilmayman.

Z1: U kishi bu yerda yashagan, lekin u kishi kelmagan, uning otalari kelganmi?

Z2: Ebning otasi kelgan. Ebning dadasi bu yerga kelgan.

E1: Bizning dadamizning dadasining dadasi bu yerga kelgan.

Z2: Ebning dadasi kelgan. Lekin, u kishining ismlarini bilmas ekanlar.

E1: Qashqarda Shomiy domla degan Arabistondan kelgan bir muddaris bo'lgan, shular haqida eshitmaganmisiz?

E1: Yo'q, eshitmaganman.

Z2: Toshkentdan ham Yunusxon domla Hakimjonov degan odam o'tgan ekan. Shu odamni ham eshitmaganmisiz?

E1: Bizlar qishloqda yashaganmiz. Shahar bilan qishloqning o'rtasida farq bor.

Z2: Duk-qori degan odam Andijondan borib, Qashqarda qorixona ochgan ekan, shularni eshitmaganmisiz?

E2: Dukchi Eshon emasmi?

Z2: Yo‘q. Duk-qori.

Z1: Qashqarning qayerida yashagansiz?

E1: Otishida.

Z1: Otishda nima ish qilgansiz?

E1: Shu dehqonchilik, chorvachilik bilan shug‘ullanganmiz, xolos.

Z2: Mao Tzhedun kelishidan oldingi Qashqarning tarixini bilasizmi?

E1: Shu Shanxay shahrida. Tayvanga qochib ketganlari haqida, asosan shular haqida bilamiz.

Z2: Alixon to‘ra Sog‘oniyni eshitmaganmisiz?

E1: Yo‘q.

Z1: Dadangiz bilan onangiz 1930 yillarda bu yerdan Qashqarga faqat ikkovlari qochib ketganlarmi?

E1: Masalan, akam, oppog‘im bor edi. Hamma oilaviy ketganlar.

Z1: Boy bo‘lganlarmi bu yerda?

E1: Ha.

Z1: Nima ish qilgan ekanlar?

E1: Bu yerda ham dehqonchilik qilganlar.

Z2: Dehqonchilikdan boyimaydi-ku odam?!

E1: Katta yer egasi bo‘lgan. Ko‘proq yer egallaganlar. Dadamizning dadasining oti Eb. Opamning dadasining oti Ec. Eb bobo bu yerda o‘lgan. Buvim dadam bilan birga qochib ketgan. Bu yerda kimoshdi qilib o‘rningni bo‘shat, deganda chiqib ketishgan.

Z1: Siz, to‘ralardanmi?

E1: Yo‘q. Uyg‘urman.

Z1: Uyg‘urlarda to‘ra bo‘lmaydimi?

E1: Yo‘q, kam bo‘ladi. To‘ralar alohida bo‘ladi.

Z1: Xo‘jalar ham...?

E2: Xo‘jalar ham alohida. Masalan, Qashqarda Oppoq Xo‘jamning qabri bor. Ana o‘shalarga yaqinmiz, uyg‘urmiz-da.

Z1: Murid bo‘lasizlar-da?

E1: Ha, murid.

Z1: Oppoq Xo‘janing mozoriga ziyoratga borganmisiz?

E1: Ha, borganman. Hozir yana yo‘l ochilib qoldi. Mening dadamning qabri ham o‘sha yerda, tog‘amning qabri ham o‘sha yerda, inilarimning qabri ham o‘sha yerda, jiyanlarimning

qabri ham o'sha yerda. Hali ziyorat qilgani vaqt bor, xudo xohlasa, nasib qilsa, boraman.

Z1: Dadangizning qabri ham u yoqdami?

E1: Ha, o'sha yerda.

Z1: Hozir ham xat yozib turasizmi, qarindoshlar bilan?

E1: Ha, qarindoshlar bor.

Z1: Otishdami?

E1: Ha, Qashqarning, shaharning o'zida.

Z1: Dadangizning qabri qayerda?

E1: Dadamning qabrlari Otishda.

Z1: Hozir kimingiz bor u yerda?

E1: Hozir, u yerda jiyanlarimiz bor.

Z1: Aka-ukalaringizdan u yerda qolganlaridan bormi?

E1: Yo'q, aka-ukalarim qolgani yo'q. Faqat jiyanlarimiz bor. Urug'larimizdan ikkinchi avlodimiz bor. Birinchi avlodimiz yo'q.

Z1: Ularni qoldirib, bu yerga kelgansiz-da-a?

E1: Ular bu yerga kelishni xohlamagan.

Z1: U yerda tug'ilganlar-da?

E1: Men ham u yerda tug'ilganman, lekin ular xohlashmagan bu yerga kelishni. Biz bu yerga qaytib kelishni xohlaganmiz. Ular xohlamagan. Xohlaganlari qaytib kelganlar.

Z1: Familiyangiz nima edi?

E1: E1.

Z1: Qashqardagi voqealar esingizdami?

E1: Ha, esimda. Men to'qqiz, o'n yashar davrlarimda Xitoyda boylarning yer-suvini tortib olib, kambag'allarga olib berib, xuddi shu yerdagidek, yangi hukumat, podsho boylarning yerlarini olib kambag'allarga bergandan keyin, boylarni so'kdirib, besh yil, o'n yil, o'n besh yilga qamoq jazosi bergan. Biz bor joyda, haqiqiy katta boylarning beshtasini otib o'ldirgan.

Z1: Shu otib o'ldirgan beshta boylarni Otishda o'ldirganmi?

E1: Ha, Otishning o'zida. Yerlarini olgan, ammo mol-qo'yiga, chorvasiga tekkani yo'q. Yer islohoti qilgan. O'sha davrda bitta boyning o'n ming, besh ming mol-qo'yi bo'lgan. Mol-qo'yini hukumatning ixtiyori bilan sotib, u bu qilasan degandan keyin u yerda to'polon chiqqan. To'polon chiqqandan keyin mol-qo'yini boylarning o'zlarini ixtiyoriga qo'ygan hukumat. Yer-suvini boylardan olib kambag'allarga bergan. Ammo mol-qo'ylari o'zlariga,

bola-chaqalariga qolgan.

Z1: Yana boshqa nima bo'lgan?

E1: Shu, yer suvlarni kambag'allarga bergandan keyin hamma tinch-osoyishda yashab yuravergan. Boy kambag'allarga bo'linmagan, hammasi bap-barobar bir xil yashagan.

Z1: Otishda sizning oilangiz boy hisoblanganmi?

E1: Yo'q, unchalik emas. Bu yerdan borib, u yerda boy yashash juda qiyin bo'lgan.

Z1: Demak, o'sha boylarning yerlarini olganda sizlarga berganmi?

E1: Ha, bergan.

Z1: Xitoyning shu hukumatining siyosati yomon bo'lmagan-ku?

E1: Yo'q, yomon bo'lmagan.

Z1: Bo'lmasa nimaga 1956 yilda bu yerga kelgansiz?

E1: Bu yerga 1956 yilda kelishimizning boisi, qarindosh-urug'larimiz, ota-onamizning akaukalari bu yerda bo'lgan. Bir-birini sog'ingandan keyin ko'rishga qaytib kelgan.

3. 2004 年 8 月 30 日 ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡

3. 30 August 2004, O'zbekiston Respublikasi, Andijan viloyati, Paxtaobod tumani

① インタビュー No.1

(1) Suhbat No.1

F1: Qishloqning nomi uyg'ur so'zidan olingan bo'lib, uyg'ur millatiga mansub aholi yashashini bildiradi. Xitoy Xalq Respublikasining Qashqar viloyatidan bundan to'rt yuz ellik, besh yuz yil oldin ko'chib kelgan uyg'urlar bu joyda o'troq holda yashay boshlaydi.

Z1: Bu ma'lumotlar qayerdan olingan?

F1: Odamlardan, yoshi katta odamlardan eshitganman. Qishlog'imizning bir yonidan Tentaksoy, ikkinchi yonidan Qoradaryo oqib o'tadi. Qashqardan ko'chib kelganlar o'zlari yashab kelgan qishloqlarini yoki mahallasini Qashqarda o'zlari yashab kelgan qishloq nomi yoki mahalla nomi bilan nomlaganlar. Hozirgi uyg'ur qishlog'idagi mavjud bo'lgan To'qqizbog', Otish, Shavrug', Paymon mahallalari Qashqar viloyatida ham bor.

Uyg'ur qishlog'i, tuman markazidan to'rt km, viloyat markazidan yigirma sakkiz km uzoqda joylashgan. Eng yaqin temiryo'l stantsiyasi Paxtaobod tumanining Tentaksoy stantsiyasi bo'lib, ungacha masofa olti kmni tashkil qiladi.

Qishloqda qadamjoyga aylangan Qilich Burhon ziyoratgohi bor.

Qishloqda bugungi kunda yettita mahalla fuqarolar yig'ini mavjud. Shundan Guzar, Shavrug', Soy mahallalari qishloqning markazida joylashgan. Qolgan to'rtta mahalla fuqarolar yig'ini haqida ma'lumot alohida bu yerda bor.

Qishloqda uch ming to'qqiz yuz qirq to'qqiz oilada o'n yetti ming o'n yetti ming sakkiz yuz o'n ikki, bu oldingi yillardagi, hozirgi yilda o'n sakkiz ming nafar fuqaro istiqomat qiladi. 2002 yilda uch ming to'qqiz yuz qirq to'qqizta oila bor edi, endi oilalar yana ko'paydi aholi o'n sakkiz mingdan oshdi. Shulardan to'qson bir foizi uyg'urlar, bir foizi qirg'iz, ruslar, tatarlar, sakkiz foizi o'zbeklar.

Z1: Qaysi mahalla eskiroq?

F1: To'qqiz bog', Shavrug', Pushmon...

Qishloqning aholisi asosan dehqonchilik bilan shug'ullanadi. Uyg'ur qishlog'imizda O. Qurbonov shirkat jamoa xo'jaligi faoliyat ko'rsatadi. Qishloq sug'oriladigan

dehqonchiligida Paxtaobod kanalidan, Qoradaryo suvidan foydalaniladi.

Qishloqning to'rtta aloqa bo'limi, hammom, sataroshxona va boshqa maishiy xizmat ko'rsatish korxonalari aholiga xizmat ko'rsatadi. Aholi oziq-ovqat bo'yicha oldi-sotdi ishlarini tuman markaziy dehqon bozorida qiladi. Qishloqda oltita duradgorlik ustaxonasi, o'ttiz to'qqizta objuvoz-tegirmon, ellik oltita tijorat do'konlari bor. Uyg'ur qishlog'imizda beshta o'rta maktab, ikkita bolalar bog'chasi, bitta dorixona aholiga xizmat ko'rsatadi. Qishloq hududidan Paxtaobod - Bozor-qo'rg'on, Qirg'iziston Respublikasi Paxtaobod - Jalaquduq katta avtomobil' magistrali o'tgan. Qishloqdan iqtisod fanlari nomzodi, O'zbekistonda xizmat ko'rsatgan iqtisodchilar bor.

Z1: Karta bormi sizlarda?

F1: Yo'q, karta yo'q. Hokimiyatda.

Z1: 1956-1957 yillarda bu yerga aholi ko'chirilmaganmikan? O'shanda aholi tarkibi o'zgarganmi?

F1: Yo'q, unchalik o'zgarmagan. Sezilarli o'zgarish bo'lmagan. sakkiz-o'n oila kelgan.

X: Ular Toshkentga ko'chib ketgan. Keyin Qirg'izistonda Qo'chqor ota degan joy bor, o'sha yerda ham uyg'urlar ko'p. Orol degan joy bor, o'sha Orol'da bizdan ketgan. Bu yerdan ketganlar ham u yerdan kelganlar ham ayrimlari bor, ko'p emas. Ammo, Qo'chqor otada 1956 yillarda kelganlar bor.

Z1: 1956 yilda nega bu yerga ularga kelishga ruxsat berilgan?

F1: O'zlari bu yerga kelishgan. "Uyg'urlar bor, qashqarliklar bor yerga boraman" deganda ularga ruxsat berilgan, u yerga keganlar yoki, ularning qarindoshlari ham bu yerda bo'lgan.

X: Masalan, Faning qarindoshlari bu yerda bor bo'lgan.

② インタビュー No.2 (2004 年 8 月 30 日)

(2) Suhbat No.2 (30 August 2004)

Z1: Ismi sharifingiz?

G1: G1.

Z1: Nechanchi yilsiz?

G1: 1926 yil.

Z1: Qaysi mahallada yashaysiz?

G1: {GA} mahallada.

Z1: Sizlardan kim qachon Qashqardan kelgan?

G1: Bizda hech kim Qashqardan kelmagan. Otamizning otasi bundan ikki yuz yil oldin, otasining onasi bir qiz bola Qashqarning Beshkaram degan qishlog'idan kelgan. Kelib ular Andijonning {GB} degan joyiga tushgan.

Z1: Sizning otangiz qachon vafot etgan?

G1: 1933 yilda.

Z1: Necha yoshda vafot etgan?

G1: Ellik ikki yoshida.

Z1: Bobongiz-chi?

G1: Ga.

Z1: Ko'rganmisiz?

G1: Ko'rmaganman, eshitganman.

Z1: Nechanchi yilda vafot etganlar?

G1: 1901 yilda vafot etgan.

Z1: Zilziladan oldinmi?

G1: Zilzila vaqtida, sal oldinroq vafot etgan.

Z1: Necha yoshda edilar?

G1: Sakson to'rt yoshda.

Z1: Oppoq dadangiz o'zlari Qashqarda tug'ilganlarmi?

G1: Yo'q, shu yerda tug'ilganlar. Opalari Qashqardan kelgan.

Z1: Enangiz Andijonga kelganlar-a? Necha yoshda bo'lganlar?

G1: O'n sakkiz yoshda.

Z1: Ismlarini bilasizmi?

G1: Bilaman. Gb. Qashqarda bular tunganlar bilan urush qilgan ekan. Ana shu urushdan, to‘polondan xalq qochgan ekan. Urushdan oppoq dadamizning onasi qochib kelib, adashib Andijonga kelib, Andijonda turgan mahalda o‘zbekka turmushga chiqib, u qizini katta qilib bu yerga uzatgan. O‘sha qizning bolalarimiz. Qizining nevaralarimiz.

X: Gaga Gb turmushga chiqqan.

G1: Undan Gcni tuqqan. Gb onasi Qashqardan qochganda qornida bo‘lgan. Andijonga kelib tug‘ilgan. Qashqardan bir qiz kelib, Andijonda tuqqan. Keyin Andijonda turmushga chiqib ikkita o‘g‘il tuqqan. Bizning onamiz eng kattasi, Gb. O‘sha Qashqardan chiqib kelgan onamizning ismini bilmayman.

Z1: Ga qayerda tug‘ilgan?

G1: Ga qayerda tug‘ilganini bilmayman.

Z1: O‘n sakkiz yoshda kelgan qiz kim edi?

A: Gb onamning enasi.

Z1: Onasi o‘n sakkiz yoshida bir o‘zi qornida bola bilan Qashqardan qochib kelganmi?

G1: Ha, qochib kelgan Andijonga.

Z1: Gbni tuqqan onasi yana boshqa erga tekkanmi, Andijonda?

G1: Ha, keyin ikkita o‘g‘il tuqqan.

Z1: Gb degan bularning oppoq dadalariga turmushga chiqqan va dadalarini tuqqan.

G1: Gadan burun birinchi erlari Gd akamning oppoq dadalari. Gd akam bilan bizning onamiz bir, otamiz bo‘lak. Gd ikkinchi o‘g‘li, mening dadam uchinchi.

Z1: Sizning oppoq dadangiz o‘zbekmi, uyg‘urmi?

G1: Uyg‘ur. O‘sha odam sakson bir yoshida o‘ldi, Ga. Otamiz qoldi. Otamiz ellik ikki yoshida 1933 yili olamdan o‘tdi. Onamiz 1937 yili, ellik ikki yoshida olamdan o‘tdi.

Z1: Siz Gbni ko‘rganmisiz?

G1: Ko‘rmaganman.

Z1: Qachon vafot etgan?

G1: 1920 yillarda.

Z1: Necha yoshida?

G1: U kishi ham sakson yoshlarida vafot etgan.

Z1: Gb o‘zidan yigirma yosh katta odamga turmushga chiqqanmi?

G1: Yo‘q.

Z1: 1901 yilda oppoq dadangiz sakson to‘rt yoshda vafot etgan.

G1: Yo‘q, bu Gbning o‘lgani, 1920 yillarda, sakson yoshlarda. Ha, endi oppoq dadam sakson

to'rt yoshda 1901 yillarda o'tgan bo'lsa, shunday bo'lsa kerak, yigirma yosh katta bo'lgan bo'lsa kerak. Biz ikkinchi erlaridan.

Z1: Gb Andijonda tug'ilib, Andijonda turmushga chiqib...

G1: Ha, birinchi turmushidan ikkita bola ko'rgandan keyin eri o'lgan. O'lgandan keyin bir qancha yil o'zi yashagandan keyin qaynotasi, erining otasi, bizning oppoq dadamizga bergan, bir cholga. Undan keyin, bizning dadamiz tug'ilgan. Ikkita bola tug'ilgandan keyin eri o'ladi. Qaynotasi "Ikkita yosh bolang bor. Qizim, erga tekkin. Bunaqasiga bo'lmaydi. Ikkita bola bilan qolaverma", degandan keyin bizning oppoq dadamiz bir mulla kambag'al odamga bergan. Undan keyin, besh olti yil bola ko'rmay yurib, xudodan tilab bitta o'g'il ko'ribdi. Otini Gc qo'yibdi.

Z1: Siz {GA} mahallada tug'ilganmisiz?

G1: Ha, {GA} mahallada tug'ilgan.

Z1: Otangiz ham?

G1: Otam ham.

Z1: Gb {GA} mahallaga tushgan-a?

G1: Ha, birinchi oilaga tushgan uydagi odamlarga Gb jiyan bo'lgan ekanlar. Birinchi eri ham Qashqardan kelgan ekan. Birinchi eri Gb ga qarindosh bo'lgan ekan.

Z1: Jiyan dedingizmi?

G1: Ha, jiyan bo'lgan. Singlisining qizi bo'lgan ekan. Birinchi tekkan eri, opasining o'g'li bo'lgan. Qarindoshlarni bilmayman. Faqat mahallani bilaman, Beshkaramni.

③ インタビュー No.3 (2004 年 8 月 30 日)

(3) Suhbat No.3 (30 August 2004)

H1: Oppoq Xo‘jamga borib ziyorat qilib, Qashqarga o‘tib, Qashqarda bir kun bo‘lib keyin qaytib keldik. Juda uzoq ekan. Men Otishga borib, Otish bozorining yonida gostinitsa bor ekan, gostinitsada yotib, sahar namozi bomdodni o‘qib, Oppoq Xo‘jamga qarab ketdim. Oppoq Xo‘jamga borsam, bizga o‘xshab yengil mashinalar kam ekan, borib Oppoq Xo‘jamni ziyorat qilib, undan keyin Qashqarga qarab ketdim. Sahar ketganman, namozni o‘qib borsam, qo‘shnimning bojasi o‘sha yerda edi, biznikiga ko‘p kelgan. Sheriklarim Otishda qoldi. Men o‘zim ketdim. Yigirma metr nozik chit oldim. U yoq bu yoqni tomosha qilgandim. Hani do‘konini so‘rab bordim. Ha do‘konini ochib, choy qaytarib o‘tiribdi. “Assalomu alaykum”, dedim. “H1 aka, Osmondan tushdilar, yerdan chiqdilar” deb hayron qoldi. U odam bilan gaplashib turganda o‘g‘li keldi. Qashqarda shunaqa non qiladilarki, hali bizlarda unaqa non yo‘q. Kichikroq qilar ekan qornim to‘q bo‘lsa ham ikkitasini yeyman. Chuqur bozoriga olib bordi. Mayda-chuyda qildik. “Qolasizmi”, dedi, men “Yo‘q, qolmayman”, dedim.

Z1: {HA} Otishda ekan-da?

H1: Yo‘q, {HA} uzoqda ekan, bora olmadim.

Z1: Bormi, o‘zi?

H1: Ha, bor ekan. Qashqarning {HA} degan joydan chiqib kelib, {HA} mahalla qurganlar. Qashqarning tarixini aytib beraymi? Qashqarning Otishidan chiqib, Otish qurganlar. Janjaldan chiqib Janjal qurganlar. Qashqarning mahallalarining nomi hammasi uyg‘urcha. Ozoqdan chiqib Ozoq qurgan.

Z1: Sizning oilangizdan kim Qashqardan chiqib kelgan?

H1: Mening oilamda Qashqardan kelganlar yo‘q. Bobolarimizdan otamning otasining otasi kelgan.

Z1: Dadangiz kim?

H1: Hb.

Z1: O‘zingiz-chi?

H1: H1.

Z1: Nechanchi yilsiz?

H1: 1930 yil.

Z1: Dadangizning ismlari?

H1: Hb.

Z1: Nechada vafot etganlar?

H1: Men o'n yoshar edim, dadam o'lib ketganlarida.

Z1: Demak, 1940 yilda.

H1: 1941 yilda, o'ttiz olti yoshda.

Z1: Bobongiz-chi?

H1: Otamning otasi Hc Hoji.

Z1: Ko'rganmisiz?

H1: Yo'q, men ko'rmaganman. U to'qson ikki yoshga kirgan ekan. Qashqardan kelgan dadamiz bir yuz ikki, bir yuz uch yoshda vafot etgan, Hd. Men bilganim besh avlod. O'zimning otamning o'ttiz ikki yoshda o'lganini bilaman. Ularni bilmayman.

Z1: Nima sababdan Qashqardan kelganlar?

H1: Qashqarda urush hali bo'lmagan ekan, mening eshitishimcha. Bu yerlar to'qay ekan. O'sha to'qaylarni ochib-ochib Qashqarning qaysi qishlog'idan kelgan bo'lsa shuni otini qo'yib qishloq qilgan ekan. {HA} qishlog'idan kelganligi uchun {HA} mahalla qurgan.

Z2: Qashqardan ketishlariga birorta sabab bo'lganmi?

H1: Ularni bilmaymiz. Bizning Paxtaobodda uyg'urlar keyingi mahalda kelgan. Qo'qon qishloq, Qo'qon xonligi, Qo'qondan yer soliq ko'p bo'lib odamlarning chiqimi ko'p bo'lib, Qo'qon xonligi zulm o'tkazgandan keyin odamlar kelgan. Keyin Qo'qon qishloq bo'lib qolgan ekan. Qo'qonlikning qishlog'i bu aslida.

Bu yerda To'qqiz bog' bor, Uchqo'rg'on bor, Do'ng qishloq ham bor. Do'ng qishloq o'zi uyg'ur, lekin kolxozi boshqa. O'zbeklashib ketgan. O'zi ikki uch yildan keyin o'zbeklashib ketar ekan. Bo'lmasa uyg'urmiz. Oilamiz ham uyg'ur, kelinlarimiz ham uyg'ur, uyg'ur hamma. Xotinim ham shu yerda tug'ilgan. Otasi ham shu yerda tug'ilgan. {HB} mahallasida tug'ilgan. Islomda bir kishi yettita avlodini bilishi kerak.

Z1: Qashqarga qachon borgansiz?

H1: Mustaqillikdan oldin. Gorbachov davrida 1987 yillarda. Men bir yil kasal bo'ldim. Bir tomonim ishlamay qoldi. Hozir yaxshi.

Qirg'iz chegarasida uch kun yotib, undan keyin Qashqarga bordik. Chegaralar endi qurilayotgan edi. Oshdan bormadik.

Bizning sheriklar Qashqarga borsam, bozor qilibdi. Borsam har bor kishiga qulf-kalit bergan. Intizom juda qattiq. Otishda bir urush bo'lib ketdi. Surishtirsam, Qashqarda bir

so‘mlik narsani olib kelsa, bir so‘m o‘n tiyin qilib sotar ekan. bir so‘m yigirma tiyin qilib sotsa bozordan chiqarib yuborar ekan, biz borgan vaqtda. Shofyor Otishga borgandan keyin gostinitsa oldigacha olib borib qo‘ydi.

Z1: Qashqardan borgan maqsadingiz?

H1: “{HA}ni bir ko‘ray” dedim. yuzta daftar oldim. yuzta ruchka olib bordim. Biz to‘rt kishi bordik. Otishdan so‘rasam “{HA} uzoq” dedi. Asakada {HA} bor. U yerda ham uyg‘urlar bor.

Z1: Kim bilan bordingiz?

H1: To‘rt kishi. Ikkita ayol, ikkita erkak. O‘rtoqlar bordik. Andijonda sayohat avtobusi chaqirib o‘shanda bordik.

Z1: Xotiningizni olib bordingizmi?

H1: Yo‘q, o‘nta bolamiz bor edi, bola boqib kolxozda qirq bir yil ishladim.

Z1: Qashqardan kelgan qarindoshlaringiz bor-a?

H1: Ha, 1957 yilda kelgan.

Z2: Xo‘ja oilasidanmisiz?

H1: Uyg‘urmiz, xo‘jamasmiz. Xo‘jalar bizlar falon zot deydi. Hamma o‘zini millatini maqtaydi. “Biz uyg‘ur millati Oppoq Xo‘jamdan, biz toza”, deymiz. Andijonliklar, “Bizlar eng toza”, deydi. Hech kim o‘zini birovdan kam demaydi.

④ インタビュー No.4 (2004年8月30日)

(4) Suhbat No.4 (30 August 2004)

Z1: Ism-familiyangizni aytsangiz.

I1: I1.

Z1: Nechanchi yilsiz?

I1: 1936 yil. Pasportimda 1935 yil deb yozgan. bir yil katta qilib yozishgan.

Z1: O'zingiz Qashqardanmisiz?

I1: Men Qashqarda tug'ilganman. Ota-onam u yoqda. Mening qaynotam necha yil burun o'sha yerda yashagan ekan.

Z1: Qaynotangiz bu yerda tug'ilganmi, u yerda tug'ilganmi?

I1: O'sha yerda tug'ilgan. O'zbekistonda tug'ilgan. 1933 yili ketib qolgan.

Z1: Siz asli mana shu yerda tug'ilgansiz, shundaymi?

I1: Yo'q, Qashqarda tug'ilganman.

Z1: Dadangiz kim?

I1: Dadam o'tib ketgan. Ikki yasharligimda o'lgan.

Z1: Otangiz necha yoshda vafot etganlar?

I1: Oltmish olti yil bo'ldi o'lganlariga, uch yashar bo'lgan ekanman.

X: 1940 yilda o'lgan ekan-da.

Z1: Besh yashar edingiz?

I1: Yo'q, ikki yashar edim.

Z1: 1938 yil o'lgan ekanlar-da. Dadangizning dadasi kim?

I1: Ia.

Z1: Otangizning ismlari nima?

I1: Ib.

Z1: Ia Qashqarda tug'ilganmi?

I1: Yo'q, u shu yerlik.

Z1: Ianing dadasi kim?

I1: Ianing dadasini bilmayman. Bizlar 1955 yili bu yerga keldik. O'zbekiston pasporti bor bo'lgan.

Z1: Katta bobongiz shu yerda tug'ilgan-a?

I1: O'zi shu yerlik, Paxtaobod rayon Uyg'ur qishloqlik. 1933 yilda quloq bo'lganlarida,

boylarni surgun qilganlaridan keyin chiqib ketib, 1955 yilda qaytib kelgan. Ic degan juda o'qimishli o'g'lim bor. O'sha yerning tarixini o'rganib turibdi. Xitoyning tarixini juda kuchli deydi.

Z1: Siz o'zbekmisiz, yoki uyg'urmisiz?

I1: Pasportda o'zbek deb berilgan.

Z1: Otangiz qayerda tug'ilgan?

I1: Otam ham shu yerda tug'ilgan.

Z1: Onangiz shu yerlikmi, yo qashqarlikmi?

I1: Onam ham shu yerlik. Bitta men Qashqarda tug'ilganman.

Z1: 1933 yilda dadangiz Qashqarga borganlarida uylangan edilarmi?

I1: Uylanib oila bilan borgan.

Z1: Dadangiz 1933 yilda bu yerdan ketganlaridan keyin, ikki yildan keyin Qashqarda vafot etdilarmi? Besh yildan keyin?

I1: Qamoqdan qochib keta olmay o'lib ketgan.

Z1: Dadangiz 1933 yil Qashqarga borganidan keyin nima ish qildilar?

I1: Musofir bo'lib yurgan. U yoqqa bu yoqqa yurib ixtiyoriy urushga chaqirilgan. Qamoqqa olinib o'lgan.

Z1: Undan keyin siz Qashqarning qayerida yashagansiz?

I1: Qo'rg'on Mullazodada. Katta uy mahalla degan joyda.

Z1: Qashqarning qayerida?

I1: Qashqarning o'zida.

Z1: Necha yoshgacha Qashqarda bo'lgan edingiz?

I1: O'n to'qqiz yoshgacha.

Z1: Unda turmushga chiqqan edingizmi?

I1: Chiqqanman.

Z1: Necha yoshda.

I1: Juda yosh chiqqanman, o'n to'rt yoshda. Bu yerga kelganda bolali bo'lib kelganman.

Z1: Qashqarda nima qildingiz?

I1: Qashqarda maktabda uch yil o'qidim. U yerda ham har bir bolaga kitob bor. Maktabda xitoycha, inglizcha, arabcha o'qigan. Arab tilidan katta maorif muftisi dars berardi.

Z1: Qaysi maktabda o'qidingiz?

I1: Qashqarda katta maktabda. Bitta tatar o'qituvchimiz bor edi. Namoz o'qib, har xir mashg'ulotlar bolalar o'qiydigan hamma darslar bor edi. Bir soat imomlar dars berardi.

Maktab pulli edi. Puli yo‘q bolalar choy qaynatib berardi.

Z1: Dadangiz vafot etgandan keyin kim sizlarni boqqan?

I1: Katta enamiz boqqan.

Z1: Dadangizning enalarimi, yo?

I1: Dadamning onasi.

Z1: Siz o‘n to‘rt yoshda turmushga chiqqansiz-a? Eringiz unda necha yoshda bo‘lgan?

I1: Mendan o‘n yosh katta bo‘lgan. Erim bilan qarindosh. Ammamga kelin bo‘lgan. Men tog‘asining qizi, u ammamning o‘g‘li.

Z1: Bularni otalari bilan erlarining onalari aka-singil bo‘lganlarmi? Qaysilari katta bo‘lgan?

I1: Mening dadam kattasi bo‘lgan.

Z1: Otalarining singillarini o‘g‘liga tekkanlar-a? Sizning eringiz nima ish bilan shug‘ullangan?

I1: Yuristlikka o‘qigan.

X: Bu yerga kelgandan keyin kolxozning ilg‘or brigadiri bo‘lgan.

Z1: Sizning o‘nta bolangiz bor-a? O‘n to‘qqiz yoshda Qashqardan chiqib kelganingizda nechta farzandingiz bor edi?

I1: Ikkitasi o‘lib qolgan, bittasi qolgan ekan.

Z1: O‘nta dedingiz, tuqqan o‘nta mi?

I1: O‘n yettita, yettitasi bolaligida o‘lib, o‘ntasi qolgan. O‘nta bolaga “Qahramon ona” bo‘lganman.

Z1: Qashqardan chiqqaningizning sababi nima?

I1: “O‘zimizning vatanimizga ketaman” deb, vatan ishqida kelgan.

Z1: Qiynalmaganmisiz, u yerda?

I1: Yo‘q, qiynalmaganman.

Z1: Eringiz qayerda tug‘ilgan? Qashqardami bu yerdami?

I1: O‘sha yerda tug‘ilgan, u ham.

Z1: Otangiz bu yerda tug‘ilgan bo‘lib, 1933 yilda Qashqarga borganmi, kichkina paytida?

I1: Bilmayman. 1933 yilda quloq bo‘lganmiz.

Z1: 1933 yilda bu yerdan Qashqarga borgan sabab nima bo‘lgan?

X: Bu kishining erlarining oti Id aka. Id akaning dadasi katta eshon Ie bo‘lgan ekan. Ie If taxallusi bilan she‘rlar yozgan, shoir. U odam eshon bo‘lgani uchun o‘sha davrda eshonlar, mullalar, boylar qamalgan. U Ie oilasi bilan 1929 yili Xitoyga borgan. Ie ning uchta xotini bo‘lgan. Katta xotini Ig. Ig {IA}lik. Andijon yaqinida {IA} degan qishloq bo‘lgan. Keyingi xotini Ih degan. U kishi bu yerlik. Ihdan tug‘ilgan bolalar, bu Id aka, Ii aka. Uchinchi xotini

{IB} tomonda, {IC} kolxozida. Oti Ij. Ijdan Ik degan o'g'li bor. Ular bu yerda qolgan. Katta xotini bilan ikkinchisini olib ketgan. Uchinchisi qolgan. Stalin o'lgandan keyin bular 1956 yilda qaytib keladilar. 1956 yilda Id turmush o'rtog'i bilan bu yerga kelgan. {IC} kolxozidagi {IB} qishlog'iga o'sha kenja xotinning qishlog'iga borgan. Lekin, u xotini o'lib qolgan. Keyin If katta xotini bilan yashagan.

Z1: Shoirning oti nima?

X: Oti Ie. If taxallusi.

Z1: Eringiz qayerda o'qigan dedingiz?

I1: O'sha yerga borib o'qib ishlagan. Bu yerga kelib kolxozda xizmat qilgan. O'qib, bu yerga yo'l ochilgandan keyin bu yerga kelgan. Shanxayda huquqshunoslikda o'qigan.

Z1: Shanxayda o'qiganmilar, yo Urumchidami?

I1: Shanxayda.

Z1: Shanxayda necha yil yashaganlar?

I1: Ikki yil o'qib keldi. Bitirib, bu yerga yo'l ochilgandan keyin bu yerga kelgan. Kelsa bu yerda maktab yo'q.

Z1: Eringiz sizdan o'n yosh katta edilar-a? Qashqardan chiqib kelganlarida yigirma to'qqiz yosh bo'lgan. Yigirma to'qqiz yoshlarida Qashqarda nima ish qilganlar?

I1: Bular maktabda o'qiganlar. O'n sakkiz o'n to'qqiz yoshlarida qamab qo'ydi. Qamoqdan yigirma to'rt yigirma besh yoshlarda chiqib uylandi.

Z1: Unda qamoqdan chiqqanmidi?

I1: Chiqqanidan keyin menga uylandi.

Z1: Qamoqda necha yil bo'lgan?

I1: Yigirma to'rt yoshida chiqdi.

Z1: Chiqqanda darrov uylanganmi?

I1: Ha, chiqib keyin uylandi.

Z1: Eringiz sizga uylanganlarida yigirma to'rt yoshda edi, undan keyin besh yil Qashqarda yashadingiz. Shu besh yil ichida eringiz ikki yil Shanxayda edilar. Siz bir o'zingiz Qashqarda qoldingizmi?

I1: Qaynonam bilan qoldim.

Z1: Bolangiz tug'ilgan edimi?

I1: Ha.

Z1: Bu yerga qaytib kelgandan keyin eringiz nima ish bilan shug'ullandilar?

I1: Brigadirlik qildi. Bishkekda o'n oy brigadirlik qildi.

Z1: Qashqardan chiqqandan keyin nimada Bishkekka keldingiz?

I1: Katta mashinada keldik.

Z1: Qashqardan Frunzegacha qaysi yo‘ldan o‘tdingiz? Irkeshtamdan o‘tdingizmi?

I1: Ha, Irkeshtamdan. Nimadan, Rybachi, Issiqko‘l, Qo‘chqarotadan. Yoq, Qo‘chqarota emas, shunday yo‘l bor, Otboshi, Norin, Issiqko‘ldan o‘tdik. Kechasi o‘n ikkida yo‘lga chiqdik. Ertalab soat sakkizda chegaradan o‘tdik, bu yoqqa.

Z1: Frunzeda o‘n oy nima ish qildinglar?

I1: Brigadirlik qildik. Ularning makkasi bor edi. Frunze rayoni, {ID} kolxozi edi.

Z1: Undan keyin bu yerga keldingiz-a? Mashinada keldingizmi?

I1: Poyezdda keldik.

Z1: Bu yerga kelgandan keyin nima ish qildingiz?

I1: Brigadirlik qildik.

4. 2006 年 8 月 4 日 ウズベキスタン共和国アンディジャン州パフタアーバード郡

4. 04 August 2006, O'zbekiston Respublikasi, Andijan viloyati, Paxtaobod tumani

① インタビュー No.1

(1) Suhbat No.1

J1: Dadam Andijonga ketgan ekanlar. Har qayoqda deysiz, haligi qizlarni har qayoqqa turmushga bergandan keyin.

X: Ha, u dostonni kitob qilish arafasida turibmiz. Kitob bo'lib chiqadi, xudo xohlasa. Bularni hayotini men o'rgandim-da. Bularning oppoq dadasi Jb degan domla bo'lgan, o'zi Ja.

J1: Ha, ko'p yashang. Siz ham tan joningiz sog' bo'lsin.

X: Bularni tagi {JA}lik, o'sha Jb-domlani haligi eshonlar, mullolar, to'ralar qatag'on bo'lgan yillarda bular Qashqarga ketib qolgan. Bola-chaqalari bilan Qashqarga ketib, ha, bu Jc bularning dadasi onasi bilan. Qashqarning boshqa bir mahallasida yana bitta xotini ham bo'lgan. Uchta xotini bo'lgan, u odamni.

J1: Ha, u vaqtida shunaqa bo'lgan.

X: Ha, bitta xotini bu yerda qolib ketgan, ikkita xotini bilan u yoqqa ketgan.

Z1: Uchta xotini bo'lgan, bu yerda. Ularni ikkitasi bilan ketganmi?

X: Ha, to'xtab turing. Men sizga tushuntiray. Ja degan odam bo'lgan. U odam shoir bo'lgan. Taxallusi Jb. U Jb-domla eshon bo'lgan, xo'jalardan. Tushundingizmi? Jb haqida qisqacha ma'lumot berib qo'ysam. Yozing, bo'lmasa. Ja, Jb.

Z1: Muhammad.

X: Siddiq Eshon - Jb. Taxallusi Jb. Adabiy taxallusi. Shoir bo'lgan.

Z1: Jb-a?

X: 1879 yilda tug'ilgan. 1960 yil vafot etgan.

Z1: Qashqarda-a?

X: Yo'q. {JA}da tug'ilgan, bu odam. {JA}lik bo'lgan o'zi. {JA} Andijon rayonimiz bor, tuman. Andijon tumanining {JA} degan qishlog'i bo'lgan. Shu {JA} qishlog'ida tug'ilgan. To'g'ri aytyapmanmi, qizlar? {JA} qishlog'ida tug'ilgan. Keyin bu odam xo'jalardan, eshonlardan bo'lgan. O'sha davrda mullalar, to'ralar, eshonlar Sovet hokimiyati tomonidan qatag'on qilingan. Ana shu davrda bir xillari chet elga chiqib ketgan, bir xillari qamalgan.

A, bu Ja, Jb Qashqarga ketgan, 1929 yili. Qashqarga borib, bir juma masjidida imomlik qilgan, ham ijod bilan shug'ullangan, badiy ijod bilan. 1956 yilda Stalin vafotidan keyin "Kim o'zining xohlagan vataniga qaytishi mumkin" degandan keyin o'lmagan ilm qaytib kelgan. 1956 yili bu bizning {JB} kolxozi bor-ku, {JB} kolxozi. {JB} kolxozining {JC} mahallasidan bitta xotini bo'lgan. U xotinining oti Jd, katta xotini...

J1: Je.

X: Uchta xotini bor.

Z1: Yaqubmi?

X: Ha, {JB} jamoa xo'jaligida. Kichkina xotini bu Jd. Katta xotini Je. O'rtancha xotini Jf uyg'urdan, nimadan, {JD} qishlog'idan. Uchovidan ham farzandlari bor. Qaysidir yillari katta xotini bilan bolalari bilan kelgan. Bu yerga kelib, {JB} qishlog'ida {JC} mahallasida yashaydi.

Z1: Bu xotinini yurti-a?

X: {JB} shirkat xo'jaligi jamoa xo'jaligida {JC} mahallasida yashaydi.

Z2: Oldin ham shu yerda yashaganmi, ketishdan oldin?

Z1: Yo'q, Andijonda?

X: Yo'q, yashamagan. {JA}dan ketgan.

Z1: Bu xotinini yurti bo'lganmi?

X: Ha, xotinini yurti. O'zi {JA}dan, katta xotini Je bilan ketgan. U yerdagi bolalari bilan. Keyin orqasidan botdagi xotini Jf ketgan. Bular orqasidan borgan. Kichik xotini bu yerda qolib ketgan, bolalari bilan. U yoqdan qaytib kelib, bu kichik o'g'li, bu nima, Jg degan bor, Jg aka. Jg aka bu Jc taqsirdan kattaroq bo'lsa kerak. Jg aka borib, Qashqar chegarasidan o'tgandan keyin Xitoy chegarasidan olib kelgan. Bu yerga olib kelib, {JB} kolxozida yashagan. {JB} kolxozida yashadi, 1960 yili vafot etishidan oldin vasiyat qiladi, "Men vafot etsam, o'zimni dadamni yoniga o'zimni tug'ilgan {JA}ga qo'yinglar", deydi. Hozir u odamni qabri {JA}da. {JA} qishlog'ida.

Sizlar bilan tuzukroq gaplashmagan ekanmiz-da, Jc akam bilan gaplashganman.

O'g'illarini nomini yozib oling. Je katta xotini. Jedan Jh. Jh ana shu Xitoyda xalq ozodlik armiyasiga qo'shilganligi uchun gomin'danchilar tomonidan ko'mib tashlangan tiriklay.

Z1: Hozir, bir savol bor.

X: Ayting.

Z1: Shu Ubaydullo, uning o'g'li nimaga qo'shilganligi uchun [ko'mib tashlangan]?

X: Xitoy xalq ozodlik armiyasiga qo‘shilganligi uchun gomin’danchilar ularni hibsga olib, nima qiladi-da, ularni ko‘mib tashlaydi-da, tiriklayin. Gomin’dan bilasizmi, Xitoy tarixida.

Z1: Bu nechanchi yillarda? Bular hali Qashqarda yashaganda hali qaytib kelmagan.

X: Bular 1929 yili Qashqarga ketgan, to 1956 yilgacha yashagan.

Z1: Orasida bo‘lgan voqeami?

J1: Ha, orasida bo‘lgan voqea.

Z1: Qayerda qamalgan bu? Qashqarni o‘zidami, yoki?

X: Ha, Qashqarning o‘zida.

Z1: Xalq ozodlik armiyasi...

X: Nimani tushunmayapsizlar?

Ji, Jj deganlar qarindoshlaring bo‘ladi-a? Ular ona urug‘ bo‘ladi, sizlarga, shundaymi?
U, Jilar bizga sal-sal janaq bo‘ladi.

J1: Onamiz bilan dadamiz opa-ukalarni bolalari bo‘lgan-da. Ana shuning uchun ham ona urug‘ ham bir xil. Opa-ukalar quda bo‘lgan.

X: U Jilar hozir onanglarga [kim bo‘ladi]?

J1: Tug‘ishgan opasini bolalari bo‘ladi.

J2: Jiyanlari bo‘ladi.

J1: Oppoq dadamizga qarindosh emas, ular.

X: Ha, oppoq dadangizga-a?

U yoqdagi qarindoshlaringni aytib bersanglar, lekin nomlarini boshqalarini
Qashqarning qayerida. Bular izlab topadi-da. Jc aka bilsa kerak.

J1: Ha, dadam biladi-da, endi.

Z1: U qamalgandan keyin nima bo‘ldi? Chiqib keldimi?

X: Ha, o‘ladi-da. Ko‘mib yuborgan-da, uni.

Z1: Qamoqdami?

X: Ha, hozirgi hokimiyati. Xitoy norozilik hokimiyati. Kommunistik partiya Mao Tszedun birinchi rahbari. O‘sha mao tszedunchilarning armiyasida qatnashgan. Mao tszedunchilar bilan gomin’danchilar bir-birlariga qarshi kurashgan-da, ular. Oldin hokimiyat tepasida gomin’danchilar bo‘lgan. Undan oldin 1864 yili Xitoyni sakkizta katta respublika, davlat bosib olgan bo‘lib, Amerika, Angiliya, Yaponiya keyin Germaniya, Italiya mana shular. Keyin, undan keyin bu gomin’danchilar Xitoyni ozod qilish uchun bosh ko‘tarib chiqqan odamlar bo‘lgan. Bular boylar. Keyin undan keyin davlatni tepasiga davlatni bir sovet hokimiyati bu yerda o‘rnatilgandan keyin Xitoyga yordam berib, u yerda ham sovet

hokimiyati oʻrnatila boshlangan, tarixda. Oʻrnatila boshlab, mao tszedunchilar tomonidagi xalq ozodlik armiyasida qatnashgan-da, bu odam, mana bu Jh. Ana shu mao tszedunchi tomoni boʻlgan odamlarni qirib oʻldirgan-da. Urush boʻlgan-da, ikki oʻrtada.

Endi yana bitta u odamni qizi ham bor, Jk degan. Jk yaqin bultur oʻldi. Jkni qizi bor. Hozir mana bu yerda hokimiyatda ishlaydi, Jl degan. Bolalari bor. Jkni farzandlari bor. U bu yerda qolib ketgan xotinini nimalari bular? Yoʻq, Jeni nevaralari ekan.

Tagiga ikkinchi xotini deb qoʻying. Ikkinchi xotini Jf. Jfdan Jm, ikkinchi oʻgʻli Jc. Hozir Jcni uyida oʻtiribmiz. Hozir keladi, nimadan. Bu qizlar Jcni qizlari ekan. Jcni farzandlarini yozib olsangiz boʻlaveradi. Men qizlarni nomini aytib beray. Yozing.

J1: Jl.

X: Ikkinchisi.

J1: Jn.

X: Uchinchisi.

J1: Jo. Toʻrtinchisi Jp.

X: Oxirgi oʻgʻlini maytga yozib qoʻying.

J1: Jq.

X: Endi uchunchi xotinlarini yozing. Uchunchi xotini Jd. Oʻgʻli Jg. Jgni bolalari nima edi, bilasizmi, farzandlari Jr. Yozing, Jr. Bordi-keldi yoʻq shaklli-a, sizlarda?

J1: Ha, keladi-yu, tanimaymiz-da. Nimalarda keladi, xolos-da. Toʻylarda, azalarda keladi-yu, haligi koʻpchilikni ichida anaqa qilolmaymiz-da. Alohida maytga kelib oʻtrsak, qani endi. Shunaqa boʻlmay qoladi. Dadam oʻzi kelsa, nima qiladi.

X: Ana shu Jb domla haqida men doston yozganman, oʻtgan safar aytib berganman-u, poema.

Z1: Janing qilgan ishlarini aytib bering.

X: Janing qilgan ishlari, shoir birinchidan, ikkinchidan mana bu Qashqarga borgandan keyin, mana bu jome masjidida imom boʻlgan. Sufizm talimotining peshqadamlaridan. Sufizm bilasizmi? Diniy oqim.

Z1: Bu yerda yashaganida ham shunday faoliyat koʻrsatgandir-a?

X: Islom dinini nimasida bilimdonlari.

Z1: Bularning pirlari kim edi? Pirlari.

X: A nima? Sherlari?

Z2: Yoʻq, pirlari.

X: A, pirlarini kimligini bilmayman-ku, lekin Buxoroda oʻqigan. Buxoro Mir Arab madrasasida oʻqigan. Bu odamni bitta doʻsti boʻlgan. Oʻsha Mir Arab madrasasida birga

o'qigan. Keyin Qashqarga birga ketgan. Js-qozi degan odam. Js-qozi andijonlik bo'lgan. Ular doim mana shu Qashqarda birga yashagan. U Js-qozi konsulxonada, bu yerda Soyuz hokimiyatining konsulxonasi bo'lgan-da, nimada, Qashqarda, O'zbekistonning o'sha yerda tarjimoni bo'lib, ishlagan. Keyin u odam kasal bo'lib, o'sha joyda o'lib ketadi.

Z1: Js xo'ja?

X: Yo'q, Js-qozi. U ham to'ralardan. Andijonlik. Uni nevaralari bor, Andijonda. Ana shu Qashqardan qaytganda bu odamni farzandlari qaytib kelgan-u, u odam o'sha yoqda o'lib qolgan, Js-qozi.

Z1: Js-qozi Qashqarda o'lib ketganmi?

X: Ha, Jb domlani ukasi bor edi. Andijonda to'qson ikki yoshida o'tgan yili vafot etdi. Jt-hoji derdi.

Z1: Bu Js-qozining ukalarimi?

X: Yo'q, Jb domlaning ukasi bor edi. Ja, Jbning ukasi. U ham Qashqarda yashagan. Keyin qaytib kelib, Andijonda yashadi. Men u odam bilan ham suhbatlashganman. to'qson ikki yoshida, 2004 yili vafot etdi.

Z1: Qashqarda kim qolgan?

X: A, otasi kelarkan. Aytib berar ekan.

Janing dadasi Ju-xalifa degan odam.

Z1: Kimning xalifalari bo'lgan?

X: Xalifa, xalifa!

Z1: Xalifa, kimni xalifasi bo'lgan ekan?

X: Js-xalifa deb nomlangan ekan-da.

Z1: Yo'q, kimningdir xalifasi bo'lgandir.

Bu Paxtaobod tumanining qayerida?

X: Nima?

Z1: Paxtaobod tumani qayerda bu Uyg'ur qishlog'idami?

X: Bu yer Paxtaobod markazi. Qadimiy nomi Qo'qon qishloq. Qo'qon qishlog'iga keyin Paxtaobod deb nom berilgan.

Z1: Birinchi va ikkinchi xotinlari qayerlik bo'lganlar, bular?

X: Birinchi xotini {JA}lik, Je oti. Ikkinchi xotini bizning uyg'urdan Jf. Bu yerdagi o'sha haligi odam o'sha Jfni farzandi. Bu Jcning qizlari bu. U nimadagi u yoqdagi uchinchi xotinidan Jg degan. Ko'proq birinchi xotini bilan yashagan. U yoqdan ham kelib, birinchi xotini bilan yashadi, bu yerda. U kelguncha uchinchi xotini bu yerda o'lib qolibdi.

② インタビュー No.2 (2006年8月4日)

(2) Suhbat No.2 (04 August 2006)

K1: Bittasi men.

Z1: Bu Ka aka, K1 aka?

K1: Bu dadamni ismi sharifi Kb. Shoirlik taxallusi Kc bo'ladi. Dadamizni taxallusi Kc.

Z1: Ka akasi-a bu yoqning?

K1: Akamlar katta.

K2: Kd kim bo'ladi?

K1: Kd ham bitta akam. Undan kichigi mendan sal kattasi.

X: Sizdan kichik deb yurar ekanman, Kd akalar.

K1: Yo'q, mendan sakkiz oylik katta.

X: Sizdan kichik deb yozgan ekanman.

K1: Sizlar qanday bilib keldinglar, bu yerga?

X: Men boshlab keldim, men.

K2: O'zi aslida shu odamni kutishib kelgan ekanmi, bular? Mana shu domlani?

X: Bular mehmonlar Yaponiyadan. Keyin Toshkentdagi Sharqshunoslik institutida ilmiy ish qiladilar. Bular kitob yozadi. Bular bu yerga bir necha marta keldi. Meni oldimga kelishadi, bular. Mana bu odam ham Farg'onadan. Bu ham ilmiy ish qiladi. Keyin bu uyg'ur xalqi tarixini, kelib chiqishini, to'ralarni tarixini, eshonlarning tarixini shajarasini bir necha yildir izlab yuribdi, bular. Faqat bu yerga emas, Xitoyga ham boradi, Qashqarga ham boradi. Dunyo bo'yicha kezadi bular, o'sha xalqlarning tarixini o'rganib. O'shanga bugun yana kelib qolgan ekan. Xalqlarimizning tarixini. "Qashqarda qarindoshlari bor, u yoq bilan aloqa qiladigan, qachon kelgan bu yoqqa, o'shanday keksa odamlar bo'lsa, gaplashaylik" degandi. Keyin bu yerda K1 akani o'ylab qoldik-da. Men aytdim, K1 aka 1956 yil chiqqan, to'g'rimi? 1956 yil chiqqansizlar-a?

K1: 1955 yili chiqqanmiz, 21-aprelda.

X: 1929 yilda u yoqqa ketgansizlar-a, 1929 mi?

K1: Biz shu yerda tug'ilganmiz, 1928 yil. Yilimiz baliq. Endi shu tug'ilgan yilimiz. Mana bu kolxoz bor edi. Uyg'ur kolxoz deb nom berardi. {KA} qishlog'ida tug'ilganmiz. 1928 yili tug'ilganman. 1930 yili kolxoz bo'lib, biz quloq bo'lganmiz. Bilmaysizlar-a, sizlar?

Z1: Quloq?

X: Yer islohoti bo'lgan. Yer egalari boylarni yerlarini tortib olib, egalarini surgun qilgan.

Z1: A, surgun.

X: Ruschasiga "kulak" deydi, "kulak".

Z1: Qatag'on davri-da, bilaman.

K1: Shu vaqti men besh yosh vaqtim.

Z1: Nechanchi yilsiz?

K1: Tug'ilgan yilim 1928 yil. Otim K1. 1928 yillari tug'ilgan yilim bo'lsa, besh yoshlik vaqtimda yer islohoti bo'lgan. Yer islohotida kimni yeri ko'p, boyligi ko'p, qo'lida ko'p odam "ekspluatatsiya" bo'lgan, shularni bilib, a, shu nima, "pomeshchik"ning to'siqi bo'ladi. Shular qandaydir "pomeshchik" kam deydi, rus tilida. Shundaqalarni o'zini yoki qamaydi, gunohi bo'lsa qamaydi, bo'lmasa bir lagerda ushlab turib, keyin yer islohoti boshlangan. Yana kolxoz - kollektiv xo'jalik bo'lgan. Men besh yosh vaqtimda. Keyin bizga u uncha yaxshi yoqmasdan Xitoyga Qashqarga ketganmiz.

Z1: Yani 1933 yillardami?

K1: 1933 yillarda. U yoqda...

Z1: Eslay olasizmi, o'zingiz?

K1: Ha.

Z1: Borganingizni?

K1: Ha.

Z1: Besh yoshlikda?

K1: Ha.

K2: 1928 yil bo'lsa, 1933 yili u yoqqa ketgan ekan-da? Yerlarini olib qo'ygandan keyin, bo'lmasa bir yoqqa jildirish kerak. Baribir undan ko'ra sekin u yoqqa jilvorgan-da. Keyin bu yoq tinchigandan keyin, 1955 yili bu yoq tinchigandan keyin yana qaytgan. Tug'ilgan yerga. Tushundingmi?

K1: Endi bu Xlar ham bilmaydi. U vaqti kechgan vaziyatlarni. O'zimiz endi bularga qaraganda sal kattaroqmiz. Yoshimizga qarab o'sha vaqti kechgan vaziyatni siyosatni mulohaza qilib, ko'p quloq bo'lgan, o'qimishlini qadri bo'lmagan. Siyosat biladigan bo'lmagan. Hukumat bir mablag' sarf qilib, idora qiladigan bir nimaga kuch yetmadi. Shuning uchun bir oz gapiga boshqa odamlarni kirgizadiganlarni qatag'on qilardi. Ular siyosatga muvofiq vakillik qiladigan ish yuritadiganlar emas bu. Shuning uchun biri Sibirga ketgan, biri Rossiyaga ketgan, biri Ukrainaga ketgan, biri Afg'onistonga ketgan, biri Turkmanistonga ketgan. Har yoqqa ketgan. Bu yoqda yashashga imkoniyat bo'lmagandan keyin ketadi-da,

to'g'rimi? U yoqda birinchi klass ikkinchi klass, beshinchi, oltinchi klassda o'qiganman, men.

X: Qashqardami?

K1: Ha, u yoqqa besh yoshda ketdim-da. O'sha joyning maktabida o'qiganman.

Z1: Qashqardami?

Z2: Qashqarning qayerida?

K1: Qashqar, bitta viloyatni, xanzucha bilasizmi?

Z2: Ha.

K1: "Xoshicho" degan. Bitta ma'lum territoriyani "Xoshicho" deydi.

Z2: "Xoshichyong" deganday shaklli, menimcha?

K1: A, uyg'urcha Qashqar deydi, xanzucha "Xoshicho" deydi.

Z2: Siz shu Qashqarning shahrining ichidami, yo?

K1: Qashqar, "Xoshicho" ikkalasi bitta til.

X: Bitta so'z deng?

K1: Ha, bitta til. Biz 1933 yili borganmiz, 1955 yili yana qaytdik. 1955 yili 21-aprel edi.

Yigirma ikki yil turdik, u yoqda.

Z1: Qashqarning qayerida turgansiz? Qashqar shahrning ichidami yoki tashqaridami?

K1: Shaharda turganmiz.

Z1: Qaysi mahallada turgansizlar?

K1: Qum darvozasida, Yumoloq shahrida, Keshik darvozada, o'shalarda turganmiz. Siz qayoqlarni bilasiz?

Z1: Men hali bormaganman, bu qiz biladi.

Z2: Yumaloq shahridami?

K1: Ha.

Z2: Undoq bo'lsa-chi, 1933 yillar Qashqar shahrida inqilob chiqqan. Shu vaqtda siz shaharda bo'lganmisiz?

K1: Ha.

Z2: Inqilobni ishi esingizda bormi?

K1: Bor.

Z2: Qandaqa ish bo'lgan?

K1: Ruscha "revolyutsiya" deydi. Uyg'urcha musulmoncha inqilob deydi, to'g'rimi? Xitoycha "gamin" deydi. "Gamin" ham inqilob, to'g'rimi?

Z2: T'g'ri.

K1: Beshinchi, oltinchi klassda ozmaoz xanzucha ham o'qiganmiz. O'sha vaqti maktabda xanzucha, ha. Eski "Sun Yonsil Shamsin" "Jon Qashi"ni qaynotasi bo'ladi.

X: Jon Qashi Tayvanni...

K1: Ana shu vaqtdagi prezident, gomin'dunchilardan.

Xitoycha qarilarni "Lohon" deydi-da, to'g'rimi? Hozir biz ham "Lohon"miz.

Z2: "Lohon" degani nima degani?

K1: Qari, katta yosh. Yaponni uyg'ur tilida "Ribing" deydi, to'g'rimi?

Z2: Ha, to'g'ri.

K1: Endi bu biz yaponni o'rganishimiz kerak. Ular bizdan o'rganishi kerak. Shundoq qilib yaxshi tushunishadi, bir-birini tanishadi, to'g'rimi? Hech narsani bilmasa, bilmaydi-da. Yapon, koreytslar bizga qaraganda alaqancha madaniyatlik, ter to'kib rivojlangan davlatlar ular.

Z1: U yerda Qashqarda necha yil o'qidingiz?

K1: Olti yetti yil ibtidoiy maktabda o'qidik. Bir yildan ko'proq siyosiy-ijtimoiy kursda o'qidik. General bizga dars bergan.

Z1: Qaysi general?

K1: "Ofisser" o'sha vaqtda yetmish yoshli katta odam dars bergan. Mana shu stolda yotvolib dars bergan.

X: Uyg'urmidi, u general?

K1: Xitoy.

Z1: Maktabni bitirgandan keyin, Qashqarda nima ish qildingiz?

K1: Maktabni bitirgandan keyin, to'rt yil tinchlik saqlash idorasida ishlaganman.

Z2: Qashqardami?

K1: Maktab boshlig'ini xitoy tilida "shojuang" deydi. Bilasizlarmi? O'qituvchini "shaushin" deydi. O'quvchini "shosun" deydi-a? Maktab boshlig'ini "shojuang" deydi. Bu maktab boshlig'i degani. O'sha maktab boshlig'i o'qish bitgandan keyin bizga "kojang" bo'ldi. Biz shuni qo'lidagi ishlaydigan bo'limcha boshlig'i bo'ldik. Maktab boshlig'i menga dars berib o'qitgan. Keyin yana o'shanda men ishlardim. O'zi biladi-da, bizni nimasi yaxshi deb o'zi ishlatar edi.

Bular juda ko'p o'qigan. Narsalar, bular ko'p o'qimasa, oz biladi.

X: Bular arabcha yozuvlarni ham o'qiy oladilar.

Z1: To'rt yil tinchlik saqlash idorasida ishlagansiz-a?

K1: Ha.

Z1: Nechanchi yillar edi? Ikkinchi Jahon Urushidan oldinmi yoki keyinmi?

K1: Oldin.

Z1: Oldin-a?

K1: Ikkinchi Jahon Urushi 1941 yili boshlandi, 1945 yili tamom bo'ldi. Dunyo urushi Ikkinchi Jahon Urushi 1945 yili 9-mayda tamom bo'ldi, deb elon qilindi, to'g'rimi? 1941 yildan 1945 yilgacha bo'ldi.

Z1: Siz shu tinchlik saqlash idorasida o'sha paytlar ishlaganmisiz?

K1: To'rt yil ishlaganmiz.

Z1: O'sha urush paytidami?

K1: Yo'q.

Z1: Urushdan yana oldinmi?

K1: 1949 yildan 1954 yilgacha.

Z1: Urushdan keyin ekan-da, demak.

K1: Ha, urushdan keyin. Urushdan keyin, aytyapmiz, urush 1941 yil 1945 yil tamom bo'ldi, to'g'rimi? 1945 yil tugagandan keyin bu yog'i urushdan keyin deyiladi.

Z1: Urush payti siz nima ish qilardingiz?

K1: Urushdan oldin o'sha ijtimoiy maktabda o'qidik. Kurslarni o'qidik. Undan keyin ishladik. O'zi yigirma yetti yoshga endi kirgan vaqtim edi, ko'p ish bo'lmagan-da. Kichik yosh vaqti yetti-sakkiz yosh, yosh vaqtiga vaqt ketadi-da, to'g'rimi? Yetti-sakkiz yil ibtidoiy maktabda o'qisa, unga ham vaqt ketadi. Keyin to'rt yil haligi idorada ishladik. Mana shularga yigirma yetti yil vaqt ketadi-da.

Z1: Siz to'rt yil idorada ishlagandan keyin bu tomonga qaytib kelguncha u yerda nima ish qildingiz?

K1: Bu yerdami?

Z1: Yo'q, u yerda. Qashqarda shu idorada ishlagandan keyin yana uch yil qoldingiz-ku, 1955 yilgacha, 1952 yilgacha idorada ishlagan bo'lsangiz?

K1: Yo'q, o'sha ishdan "raschyot" oldik-u, bu yo'qqa keldik.

Z1: 1955 yillar qaytib kelgan bo'lsangiz, shu 1949 yildan 1955 yilgacha o'sha idorada ishlagansizmi?

K1: 1949 yilning 1955 yilgacha o'sha idorada ishladik, ham o'qidik. O'qituvchi juda katta, juda ko'p o'qigan odam. U yetmish yoshidan katta odam bo'lgan. Ularning "zvaniya"si ham "general" darajali, shunaqa.

Z1: Qashqarga borganingizda kimlar bor edi, oilangizda?

K1: Qashqarga borganda meni akam bor edi.

Z1: Dadangiz bilan akangizmi?

K1: Dadam bor edi.

Z1: Onangiz-chi?

K1: Onam bor edi.

Z1: Akangiz, o'zingiz?

K1: O'zim.

Z1: Keyin-chi?

K1: Oppoq dadam ham bor edi.

Z1: Ya'ni dadangizni dadalarimi?

K1: Ha.

X: Ke-xalifami?

K1: Yo'q.

Z1: Oppoq dadangizni ismlari nima edi?

K1: Oppoq dadamning ismi Kf edi.

Z1: Kf.

K1: U dadamizning dadasi tomonidagisini ham oppoq dada deydi.

X: Ha, bu Kf ona tomonidanmi?

K1: Ona tomonidan.

Z1: Ha, onangizni dadalarimi, bu Kf?

X: Onasini dadalari ekan, bu Kf.

Z1: Bular oppoq dadangiz Qashqarda nima ish qilganlar?

K1: Mana shu vaqti biz bilan ketgan, oppoq dadamiz. Hmmm. U qari odam.

Z1: Qoldirib ketmadingiz-a?

K1: Qoldirib ketmadik. Qoldirib ketsak, bu yoqda qamaydi. "Qari odam o'lib qolishi mumkin", deb biz bilan ketgan.

Z1: Yoshlari katta edi-a? O'sha ketganingizda oppoq dadangizni yoshlari katta edi-a?

K1: Katta bo'lgan, oltmish besh yoshlarda bo'lgan-da.

Z1: Ular ham agar bu yerda qolganda qamalib ketadigan odam edimi? Boylardan bo'lganmi, yoki eshonlardan bo'lganmi?

K1: O'zimning dadam eshonlardan bo'lgan.

Z1: Ularning dadalari-chi?

K1: A, ular burun o'lib ketgan.

Z1: Siz ko‘rmagansiz-a?

K1: Yo‘q.

Z1: Shu dadangizning dadalarini ismi Ke-xalifa edimi?

K1: Ke-xalifa.

Z1: A nima?

K1: Ke-xalifa edi

X: Ya‘ni Ke-xalifa.

K1: Bu Ke-xalifa burun o‘lgan.

Z1: Nechanchi yillarda?

K1: Ooo, 1800 yilardan oldin o‘lgan.

Z1: Demak, siz tug‘ilishingizdan ancha oldin-a?

K1: Ha, biz 1928 yilda tug‘ilgan bo‘lsak, hooo hoo yigirma yil o‘ttiz yilcha oldin o‘lgan ekan.

Z1: Yosh vafot etganmidilar?

K1: Yo‘q, qarib o‘lgan.

Z1: A, bu kimning xalifasi bo‘lgan? Bu xalifa degani kimningdir xalifasi bo‘lishi kerak-ku, eshitmaganmisiz?

K1: Xalifa. Yo‘q, eski ilmda o‘qigan degan ma‘no bor-da.

X: Halpa emas, halpa bo‘lsa, podsho bo‘ladi. Xalifa bo‘lsa, masalan domla bo‘lsa, maktabda o‘qitadigan domla-a, shu domlaning eng a‘lochi o‘quvchisi, o‘zi yo‘q chog‘larda, bolalariga dars beradigan a‘lochi bo‘ladi. Ana shuni Halpa ham deydi.

Z1: Ha, shuni aytyapman. Ya‘ni uning ustozlari bor-ku, demak kimningdir xalifasi bo‘ladi-ku, bir o‘zi xalifa bo‘lmaydi-ku, kimningdir bo‘ladi?

X: Ha, o‘sha xalifa degan nom katta bo‘lgandan keyin ham o‘sha odamga laqab ya‘ni nom bo‘lib qolishi mumkin. Hozir masalan sinif boshi “klasskom” deb nom beradi-a?

Z1: Ha.

X: O‘shanga o‘xshagan nom. Yana bir xillari munday bo‘z to‘qigan, o‘sha bo‘z to‘qigan bo‘zchi o‘shaning eng yaxshi shogirdini ham ishongan shogirdini ham xalifa deydi.

Z1: Masalan, sufizmda shu pirlar bor-ku, pir. Ularni eng yaxshi o‘qiganlarini xalifa deyishadi.

X: Ha, yaxshi o‘qigan domla.

Z1: Demak, bularni piri bo‘lgandir deyapman-da?

X: Domla yo‘q chog‘ida bolalarni o‘qitadigan domlaning o‘rnini bosadiganini xalifa deydi.

Z1: O‘sha domlasi kim, deyapman.

X: Demak, bu yoqning oppoq dadasi ana shunday bo‘lgan ekan.

Z1: Tushundim, tushundim.

X: Oppoq dadasi Ke-xalifa.

Z1: Xalifa bo'lgan-ku, domlasi kim bo'lgan, demak?

X: Xalifa, u boshqa so'z, Xalifa u podshoh, u.

Z1: Yo'q, xalifa kimni o'rnini bosadigan odam bo'lgan deyapman?

X: Ustozini o'rnini bosadigan odam bo'lgan, deyapman.

Z1: A, shu ustoz kim bo'lgan deyapman?

X: Ustoz endi ustozida.

Z1: Mashhur odam bo'lmaganmi?

K2: Ustozini bilmaydi-da, unutgan-da, endi uni.

X: Endi bularni avlodi ilmiy odam bo'lgan hammasi.

Z1: Siz dadangiz bilan birga ketgansiz-a? Hammangiz birga ketgansiz-a? Birga turgansiz. Birga qaytib kelgansiz. Alohida emas-a?

K1: U yoqda oppoq dadamiz o'lgan. Bitta opamizning akasi ham boribdi. U ham o'lgan. Oppoq dadamiz ham o'lgan, o'sha yoqda.

Z1: Qaytib kelganingizni sababi nima bo'lgan? U yoqda yashash qiyin bo'lganmi? Nima uchun keldilaring? Qashqarda yashash qiyin edimi?

K1: Biz bu yoqdan ketganmiz, tushunyapsizmi? Boshqa davlatning yerida yashash qiyin bo'ladi, to'g'rimi?

Z1: Keyin yurtigingizga qaytib kelgansiz-a?

K1: Ha, yo'q, endi, to'xtab turing. Biz endi o'sha yoqda besh yosh vaqtida ketib, yigirma yetti yosh vaqtimda keldim. Ibtidoiy maktabda o'qidim, ishladim. Keyin bu yoqda "sotsializm" bo'ldi, kolxoz bo'ldi. Buni u yoqda eshitganmiz. Hukumatning "konsulstvo"si bor. Konsul bilasizmi nima?

K2: Elchi

K1: Konsul boshqa mamlakatni bu yoqqa kelib, o'sha davlatni ishini qiladiganlarni elchixona deydi. "Posolstvo" deydi. O'sha bilan gaplashib bu yoqqa kelsanglar bo'ladi, degandan keyin bu yoqqa kelganmiz, yigirma ikki yil turdik-da, u yoqda. Bu yoqda qarindosh-urug' tanish-bilish bo'lsa, qaytib kelasiz-da.

Bularning millati nima ekan?

K2: Yapon.

K1: Yapon tili ham boshqa. Xati ham boshqa. Millati ham boshqa. Umuman u yoqda yaponlar bor, mongollar bor, koreyaliklar bor. Yaponiyaga burun koloniya bo'lib qolgan edi.

Z1: Siz O'zbekistonga qaytib kelgandan keyin shu uyda yashaysizmi, doimo?

K1: Buni bir o'n yil o'tganda pulga sotib olganman, keyin bu yoqqa ko'chib kelganman.

Z1: O'n yil davomida qayerda yashagansizlar?

K1: Uyg'ur qishlog'ida yashaganmiz.

Z1: Yaqin-a?

K1: Yaqin.

③ インタビュー No.3 (2006 年 8 月 4 日)

(3) Suhbat No.3 (04 August 2006)

X: Uzoq o'tirib ketdik-u, Lanikida hovlisida, La bor-ku, a shunikida edik. Yaxshimisizlar?

Bular L1. Tug'ilgan yilini aytsinmi?

Z1: Bu Paxtaobod tumani?

X: Uyg'ur qishlog'i. Uyg'urobod qishlog'i {LA} mahalla.

Z1: Uyg'urobod qishlog'imi?

X: {LA} mahalla.

Z1: Isimlari kim edi, L1...?

X: L1.

Z1: Nechanchi yilsiz?

X: Tug'ilgan yilingiz?

L1: Tug'ilgan yilim 1925 yil.

Z1: Shu yerda tug'ilanmisiz?

L1: Ha, mana shu yerda tug'ilganman.

Z1: Qashqarga borganmisiz?

L1: Ha, borganman, 1990 yili borib kelganman. 1990 yili borib, u yerda ikkita urug'imiz bor.

Dadam shu yili borib "uchastka"sida bola-chaqalari bor.

Z1: O'zingiz u yerda yashamaganmisiz, yoshligingizda?

L1: Yo'q, biz mana shu yerda, dadam ham mana shu yerda tug'ilgan.

Z1: Qanday?

L1: Oooo, bir ikki yuz yil oldin kelib qolgan-da, bu yerga Qashqardan.

Z1: Ikki yuz yil burun?

L1: Shu joyga kelib, o'rnashib qolgan-da, Qashqardan kelib.

X: Dadangiz keyin borib qolgan ekan-da, u yoqqa-a?

L1: Dadam ham mana shu joyda tug'ilgan.

Z1: 1930 yili ketgan ekan-da a, u yoqqa.

L1: A?

X: 1930 yili ketgan ekan-da-a?

L1: 1929 yili ketgan.

X: Dadasi 1929 yili ketgan ekan.

L1: Qattagi quloq qilgan-da, anavi yerdagi boydan. Quloq qilgandan keyin Qashqarga qochib ketgan, dadam. Bo'lmasa, qonun o'tardi, bu yoqda qolganda.

Z1: Dadangiz bilan yana kimlar ketgan?

L1: Avallo, birinchi uchinchi bilan ketdi. Keyin undan keyin yana birlari ketdi-da.

L2: Kim ular, otlar?

L1: Ismi biri Lb, meni dadam. Undan kichigi Lc. Undan keyingisi Ld.

Z1: Aka-uka bo'lganmi, bular uchalasi?

X: Ha, aka-uka ekan.

L1: Ha, shu uchalasi aka-uka-da. Kattasi qamoqda o'lib ketdi. Qamashgan ekan, uni. O'sha {LB} qishlog'idan ushlab kelgan ekan. Qarindosh-urug'lar hammasi... Bolalar hammasi yaxshi, kambag'ali yo'q.

X: Endi o'sha tog'alardan farzandlari bormi, u yoqda?

L1: Bor.

X: Yoki dadangiz bu yoqdan borib, u yoqda ham uylanganmi?

L1: Ha, o'zi bir o'g'il ko'rgan, u yoqda. Hozir u ukam o'tib ketgan, bir to'rt yildan oldin, u yoqda. Le.

X: Ibrohimjon ekan, ukasini oti. U yoqda-a?

L1: Qashqarda, ukam. Vafot etibdi, u yoqda.

Z1: Ukangizmi?

L1: Qashqardagi ukam Le.

Z1: A, nima Le...?

X: Le, Le.

L1: Le, u Le desa bo'ldi. Ha, uni hozir besh bola bir qizi bor, u ukamdan. Oshpazlik, "povar" qilardi-da, restron ochgan, Andijon plovi, osh qilib sotardi-da.

X: U qaysi mahalla, qaysi qishloqdanligini ham bilarsiz?

L1: Qishloqlarini otini bilmayman-u, boyligini bilaman-da, uni.

X: Qashqarni nomini bilishimiz kerak, qayerda turishini.

L1: Qashqarni o'zi uchta kolxozi bor.

Z1: Shu haligi.

X: Andijon deganday, gap Qashqar. U yerda ko'chasi bor.

L1: {LC}, uyini nomeri ham {LD}, ukamning. Ana shu hozir Qashqarning eng sentrida-da, hozir anavi Qashqarning o'zini.

X: Qashqarning sentrida ekan, {LC} ekan, ko'chasi.

- L1: Haykal bor-da, shuning beriroqda, meni ukamni uyi. Qizi Karambog degan joy bor-ku
- X: Beshkerimmi?
- L1: Ha, shu joyda doktor.
- Z1: Ukalari yashaganmi?
- L1: A, Beshkerim degan joy bor, doktorxona. O'g'lini ham ismini aytib beraymi?
- X: Ha, aytib qo'yavering.
- L1: Kattasi Lf.
- X: Haligi ukasini o'g'illarini ismini aytyapti. Lf ekan. Lfning dadasi Le.
- L1: Yana biri Lg, undan kichigi Lh, undan kichigi Li.
- X: To'rtta o'g'il ekan-da.
- L1: Yo'q, besh, unisini oti hozir. Eng kichigi Lj.
- X: Xotirangiz yaxshi ekan, xotirangiz.
- L1: Qizini oti Jk.
- X: Jk ekan.
- Z1: Jk?
- X: Jk qizini oti.
- Z1: Jk.
- L1: Kuyov bolani oti Jl.
- X: Kuyov bolani ismi Jl ekan.
- L1: Ana shu Beshkerimdagi doktorxonada ishlaydi. Er-xotin ikkalasi.
- X: Karambog'. Endi karam deb qo'yavering.
- L1: Ha, Karambog'-da, o'sha Beshkerim bog'ni nomi edi, keyin nima bo'lgandan keyin u yoq nima doktorxona bo'lib qolibdi-da.
- Z1: Kim doktor bo'lib ishlaydi, dedingiz?
- X: U yerda Karambog' degan bog' bor ekan. U bog'ni keyin bolnitsa qilib qo'yibdi, kasalxona.
- L1: Doktorxona qilib qo'yibdi-da, o'sha bog' tomonni, bog'ni. Endi u yoqda tog'amning o'g'li bor. Lc. U odam o'lib ketdi. U odam yo'q, o'g'illari bor-da.
- X: Lc, u bilan uchrashdingiz-a?
- L1: Ha.
- X: Tog'asini o'g'illari bor ekan. Yozib oling.
- Z1: Tog'asimi? Amakisi emasmi?
- L1: Ha, amakim.

- X: Endi topib olishi oson bo'ladi-da. Ayting, o'g'illarini.
- L1: O'g'li Lm. Yana bir o'g'li Ln. Qizini oti esimdan chiqib qoldi, qizini.
- Z1: Bular ham Beshkerimda yashashadimi?
- L1: Dadammi? Yo'q.
- X: Yo'q. Lcni bolalari.
- L1: Yo'q, hammasi o'sha Qashqarning o'zida. Bu yoqda mundoq aylangan.
- X: O'sha Beshkerimdami?
- L1: Yo'q, dadammi? Yo'q. Beshkerimda emas. Qashqarning sentrida Qashqardan anavi "Sepil" bor-ku, ana shu "Sepil"ni ichidagi shaharda yashaydi-da.
- Z1: Beshkerimda kim yashaydi, dedingiz?
- L1: Beshkerimda hech kim yo'q. U yoqda bog'ni olib doktorxona qilib qo'yvorgan-da.
- L2: Beshkerimda ishlaydi ekan.
- Z1: Beshkerimda kim ishlaydi?
- L1: Yo'q, u o'zi Beshkerimda yashamaydi. Shaharni o'zida, mana bu yerda urug'i.
- X: Shaharni markazida ekan.
- L2: Beshkerim bog'i. U ashula aytadigan odam edi.
- L1: Beshkerimbog' "bol'nitsa" qilib qo'ygan-da hozir.
- X: Beshkerimbog' desangiz aytib beradigan-da. Beshkerimbog' hozir doktorxona ekan.
- L1: Yorvoq darvoza deysizmi?
- X: Nima? Yorvoq darvoza?
- L1: Ha.
- X: Tushundim. Yorvoq darvoza-a?
- L1: Ha, ana shu yoqdan tushib, biz Qashqarning ichiga keldik-da.
- X: A, Yorvoq darvozadan kirar ekan.
- Z1: Ikki yuz yil oldin Qashqardan chiqqansizlar-a?
- L1: Ota-bobolarimiz chiqqan, bu yerga chiqib.
- Z1: Buni kimdan eshitgansiz? Ikki yuz yil oldin chiqib ketganlikni kimdan eshitgansiz? Qanday eshitgansiz?
- L1: Cho'ng otamiz bo'lib o'tgan-da, ota-bobomizdan.
- Z1: Masalan, kim podshoh bo'lganida?
- L1: O'sha yoqlik podshohmi? Nikolay podshoh bo'lgan-da, o'sha yoqda.
- X: Ha, chor Rossiyasi.
- L1: Shu Nikolay podshoh hamma yoqni so'ragan-da, avval o'sha yoqda.

- Z1: Dadangiz Qashqarga qochib ketganlarida nega sizni qoldirib ketganlar?
- L1: Bilmayman. Shu o'zimiz bir singil bilan men qolganman. Buvim qolgan, uchalamiz qolganmiz-da.
- X: Nimaga tashlab ketdi sizlarni, deydi.
- L1: Qochib ketmasa qamoqda o'tirardi-da. Bitta tog'amiz qamoqda o'lib ketdi-yu. Dadam ya'ni o'sha uch og'a-ini qochib ketmasa, bu yerda qamaydi-da, o'sha quloq qilgan.
- Z1: Qochib ketganda nega sizlarni olib ketmagan?
- X: Bularni endi uyga qo'yib ketibdi-da, bular yosh bola ekan.
- L1: Biz yosh edik-da, u yoqqa olib ketishga.
- X: Onasi bilan bu yerda qolibdi-da.
- L1: Bizni u yerga olib ketishga... O'zini jonini olib ketgan-da, bu yerdan qochib.
- X: Onangiz bilan qolgansiz-a, bu yerda?
- L1: Ha, onam bilan qolganman-da.
- Z1: Ukangizni olib ketganlarmi?
- L1: Ukam ham o'lib ketdi. Bu yerda bir singlim bor edi. Buvim ajrab ketdi. Endi men qoldim-da.
- X: Bitta ukasi bilan qolgan ekan, bu yerda.
- L2: La ham 1925 yil edimi?
- X: Yo'q, 1928 yil edi.
- L2: "1933 yili ketganman", dedi-da, a unisi, bunisi 1925 yil, 1930 yili ketgan ekansiz-da-a?
- X: 1929 yili ketgan ekanlar.
- L1: 1929 yili dadamlar ketgan quloq bo'lib.
- X: Kolxoz qurulishi 1929 yili bo'lgan.
- L1: Biz onamizning uyiga ketganmiz-da.
- Z1: 1929 yilda dadangiz Qashqarga ketganlarida siz to'rt yoshar edingizmi?
- L2: To'rt yoshar qolganmisiz?
- L1: Yo'q, men olti yoki yetti yoshda edim. Tug'ilgan yilim 1923. Endi mana bu qandaydir 1925 bo'lib qolganmiz-da.
- X: O'zi asl 1923 yil ekan
- L2: Dokumentda yozilgan 1925.
- L1: Endi dokumentda yozilgan yigirma besh, o'zi kattaroq meni yoshim.
- Z1: Ha, bo'lmasa, bu Qashqarga olib ketgan ukangiz bor-ku. Dadangiz Qashqarga olib ketgan ukangiz bor-ku?

- L1: Yo‘q, u kichkina emas. Ana shu yerdagi xotinidan tug‘ilgan.
- X: Qashqarga borib shu yerda uylangan. Ikkinchi xotin edi, shundan Le degan.
- L1: O‘sha yoqda tug‘ilgan ular qashqarlik xotinidan. La bormikan, shu.
- X: Ha, namozga chiqqan ekan. Kutib o‘tirdik, uni ham.
- L1: Endi u yoqda Ld tog‘amning bir o‘g‘li bor. Yana birini ikkita o‘g‘li bor.
- X: Ld tog‘aning o‘g‘illarini ham bilasizmi?
- L1: Ha. Biri Lo, biri Lp.
- X: Ukalarini bittasi Ldning o‘g‘illarini ham yozib oling. Ld amakisining o‘g‘illari.
- Z1: Kim degan?
- X: Lo ekan. Yana kim, Ld tog‘aning bolalari Lp ekan.
- L2: Ular ham sizlarga o‘xshab, Lqni dadasi boshqa, Laing dadasi boshqa ekan.
- X: Yo‘q, Laniki bilan bir, Lrniki bilan boshqa.
- Z1: Sovet davrida borish-kelish yo‘q edi-a?
- X: Yo‘q.
- L2: Bordi-keldi yo‘q bo‘lganmikan?
- X: Borish-kelish bo‘lmagan, avvali-a?
- L1: Avvali bizga ruxsat yo‘q edi-da, keyin haligi quloq qilgandan keyin ruxsat berilgan. Keyin 1954 yili u yoqdan bu yoqqa qaytib keldi. “Quloq” bo‘lib ketganlar qaytib keldi. Undan keyin bordi-keldi bo‘lib qoldi-da. U yoqdan viza kelsa, borar edi. A viza bo‘lmasa, bormaydi. Biz ham viza bilan borganmiz-da.
- L2: Soqol-mo‘ylov qo‘yib olibsizmi?
- L1: Avvaldan bor edi.
- L2: Shundaymi? E’tibor bermabman-da.
- L1: Qayyumjonaka yaxshimisiz?
- L3: Ha, rahmat, yaxshimisan, o‘zing? Sog‘misan? Rahmat. Dehqon bilan go‘ngni qadrini bilayotgandirsiz-a?
- L1: Ha, ha ha ha.
- X: Bu mehmonlar, L3. Bu olimlar, bular.
- L3: A nima?
- X: Olimlar bular.
- L3: Yaponiyadanmi?
- L2: Ha.
- L3: Yaponiya ham issiqmi?

X: L3, bular Yaponiyadan mehmonlar. Toshkentda universitetda sharqshunoslikda bo'limida ishlaydi.

L3: O'qiydimi?

X: Yo'q, ilmiy ish qiladi.

L3: Ha.

X: Olima bular. Bu uyg'ur xalqini tarixini hayotini dunyo bo'yicha qidirib yuribdi, bular.

L3: Ha.

X: Qashqarga ham boradi, bu yoqqa ham bir necha marta keldi. Bilishimcha, o'sha katta odamlardan so'rab surishtirib yuribdi. Hozir kitob yozyapti, bular. Uyg'ur tarixi haqida.

Z1: Ertaga jo'naymiz, Qashqarga.

X: Eng katta odam shu, bu yerda.

L1: Qashqarga borasizlarmi, endi?

Z1: Ertaga jo'naymiz.

L3: Ertaga?

L1: Zo'r-ku, "normal'no".

Z1: Ertaga O'shgacha boramiz.

L1: Lag'mon qoldimi, endi?

Z2: Qashqarda ham bor-ku.

L2: Nonni sindir, endi.

L1: Meni ukamni bolalari hozir oshxonada ishlaydi.

Z1: Beshkerimda kim ishlaydi dedingiz?

L1: Yo'q, u Beshkerimda boshqa, u yoq u shu yoqniki ko'p-da u shahar.

Z1: Doktor bo'lib ishlaydi, dedingiz-ku?

X: Beshkerimda emas ekan, anaqa Karambog' degan joy bor ekan. Qashqarni markazi, oldingi qo'rg'on bo'lgan joy.

L1: Yaponiyani Tokyoni ko'rgandek bo'ldik, sizlarni ko'rib.

L2: Yana ikkita mehmon bor. Farg'onadan kelgan shafyor.

L1: Chaqir.

④ インタビュー No.4 (2006年8月4日)

(4) Suhbat No.4 (04 August 2006)

Z1: Bu yer Uygʻur qishlogʻimi yoki?

M1: Ha, Uygʻur qishlogʻi.

Z1: Qaysi mahalla?

M1: {MA} mahallasi.

K: {MA}-a?

M1: Ha.

X: Ukangizdan ona boshqa-a?

M1: Qaysi? Ha, ona boshqa. Dadam betdan qochib ketib, etda uylangan. Gazeta chiqadi, mana nimalardan.

Z1: Ism va familiyangizni yozib qoʻyay.

M1: Ha, M1.

Z1: Nechanchi yilsiz?

M1: Men oʻzi 1932 nimalarda, dokumentlarda kichik boʻlib qolgan-da, 1935 yilman.

Z1: Dadangiz bu yerdan Qashqarga ketganmilar?

M1: Qashqarga ketgan, bu yerda quloq qilgan-da.

Z1: Ha, aslida paxtaobodlikmidi, yoki Qashqardan kelganmidilar?

M1: Ota-buvasi chiqqan bu yoqqa.

Z1: Qachon?

M1: Endi uni biz bilmaymiz-da, ota-buvasi chiqqan.

Z1: Lekin asli qashqarlik-a?

M1: Qashqarlik-da, chunki qarindosh-urugʻlari bor, dadamni. Biz lekin koʻrmadik. Borib topolmadik, ularni. Keyin ular kelmadi. Biz aytirib yubordik, ular kelmadi.

Z1: Nechanchi yillar dadangiz ketganlar?

M1: 1933 yili ketgan.

Z1: Siz bir yoshda edingizmi?

M1: Oʻn oylik edim, men. Bir yosh ham boʻlib boʻlmaganman.

Z1: Kimlar bilan ketganlar?

M1: Oʻn sakkizga kirgan Ma degan oʻgʻli bilan ketgan.

Z1: Yaʼni akangizmi?

M1: Ha, akam.

Z1: Ikkalasi ketganmi?

M1: Ha, ikkalasi. Biz bu yerda uch kishi qolganmiz-da. Men qolganman, o'n oylik. Undan keyin mendan uch yoki to'rt yosh katta opam qolgan. "Biz olib borsak, uy yo'q, qiynalamiz", deb turib, "Uyni olib, sizlarni olib ketaman", degan.

Z1: Opangiz bilan?

M1: Qolganmiz, biz bu yerda, uch kishi.

Z1: Dadangiz u yerga borgandan keyin ikkinchi uylanganmilar?

M1: Keyin bu o'tgandan keyin chegara berilib qolgan-da. O'tolmagandan keyin ikkinchi o'sha joydan uylangan. U ukam 1938 yil, u.

Z1: Ikkinchi xotini qashqarlik bo'lganmi, yoki bu yerdan ketganmi?

M1: Ha, yo'q, qashqarlik bo'lgan.

Z1: Bilardingizmi, bularni o'sha kichkinaligingizda, xat-pat yozib turarmidingiz?

M1: Yo'q, yo'q.

Z1: Qachon bilgansiz?

M1: 1955 yili bildik. Ana shunda Rabfak o'qiyotgan ekanlar, o'rta maktabda. "Rabfak o'qiyapti" deb bizning qarindoshlarimiz keldi-da, u yoqdan qaytib.

Z1: Dadangiz emas, qarindoshlaringiz-a?

M1: Qarindoshlar keldi, shunaqa. Ha, u vaqtida, 1947 yil dadam o'lgan ekan. 1947 yil o'lgan, dadam. Bola qolgan edi.

X: Mahallasini nomini bilasiz-a, u yoqnikini, ukangiz bor mahallani?

M1: Ukam mahalla emas, ular. Bularda qonun bo'yicha shu {MB}ni qo'rg'oni bo'lar ekan. Shuni ichida "postayanno" yashay olasiz ekan.

X: Pensiyaga chiqsa-chi, nima bo'ladi?

M1: A, yo'q, pensiyaga chiqsangiz ham shu joyda yashay olasiz ekan. Bilmayman endi, xat yozsak, javob kelmeyapti-da, hozir.

X: Dadangiz yashagan mahalla qaysi mahalla?

M1: Yo'q, dadam o'tib ketishgan. Qabrlarini ziyorat qilib keldik-ku.

Z1: Yo'qmi?

M1: Ha.

X: U yoqda ham qarindoshlar bormi?

M1: U yoqda ham bor. U ukamni akasi bor, endi, u yoqda. Ona bir, dada boshqa.

X: Ularni ham aytasanmi?

M1: Ha, aytaman-da, otishdi.

Z1: Qachon ko‘rishgansizlar, ukangiz bilan?

M1: Ukam 1986 yili u xotini bilan keldi. Qarindoshlari bilan keldi. Uning xotini bir o‘n bir bola bo‘lgan-da, xotini u yoqda qolgan-u, bu sovetda bo‘lgan. Bu bir sakkiztasi Olmatada, bittasi Toshkentda, bittasi Frunzada, aka-ukalar xotinini aka-ukalari, xotininiki.

Z1: A, tushunmadim.

M1: Ukamning xotini bor-da, u yeda uylangan. Tushundingzmi? Xotini o‘n bir bola bo‘lgan. Shulardan biri Xitoyda qolgan. Qolgani sakkiztasi, to‘qqiztasi nimada, sakkiztasi Olmatada, bittasi Toshkentda, bittasi Bishkekda.

Z1: Bular jiyanlaringiz bo‘ladi-a, ukangizni bolalari?

M1: Bolalarimi? Bor, uchta qizi bitta o‘g‘li bor.

Z1: Shu o‘n bitta deganlari kimni farzandlari?

M1: Ularchi, ukamning xotinini aka-ukalari.

Z1: Ha, aka-ukalari?

M1: Ha. Aka-ukalari. Dadam o‘zi 1933 yili quloq qilgandan keyin Mirzacho‘lga surgun qilgan, avval.

Z1: A bo‘lmasa-chi, shu o‘n bittadan bittasi Qashqarda qolgan, dedingiz-a? U ukangizni xotinimi?

M1: Xotini u.

Z1: O‘sha-a?

M1: Ha. Ular ham u yoqda quloq bo‘lgan ekan, Qashqarda. Bular bu yoqqa qochib o‘tgan ekan, undan keyin. Ukam {MB}da o‘qituvchi bo‘lganligi uchun u qolib ketgan ekan. Shu joyda oqlanib.

Z1: Ha.

M1: Qolgani hammasi shu yoqda. U quloq bo‘lgan ekan-da, ular ham. Qarang. Bitta akasi yozuvchi bo‘lgan. Yana bitta akasi organda “podpolkovnik” bo‘lgan.

Tarbuzdan yemaysizlarmi? Olinglar.

Z1: Siz Qashqarga bormaganmisiz?

M1: Borganman. 1986 yili ukam keldi, xotini bilan. Keyin 1988 yili viza qildi. Keyin xotinim bilan men bordik.

Endi Atishda. Atishda ukamni akasi bor. O‘g‘li bor. Dadamni qabri ham Atishda.

Z1: Ukamni kimi bor, dedingiz?

M1: Ukamning akasi bor. Ena bir, dada boshqada, u bilan. Ko‘rdingizmi? Ularda ena bir, men

bilan dada bir.

Z1: Ya'ni dadangizni ikkinchi xotini ikkinchi marta turmushga chiqqanmi, bolasi bilan?

M1: Yo'q, u ukamni buvisini ikkita bola bilan dadasi o'lib ketdi. Ukam yo'qda, endi. Ikkita bola bilan bitta xotin qoladimi? O'lgandan keyin u ikkita bolasi bilan dadam o'sha xotinni oladi. Keyin undan keyin u bola tug'iladi, mening ukam. U bilan ona bir, u yoqdagi aka-uka. Biz bilan dada bir aka-uka bo'ladi.

Z1: Tushundim. Endi Atishda kim bor, dedingiz?

M1: Atishda ana shu ukamning akasi bor.

X: Akasi bor ekan, ona bir, dada boshqa.

M1: Bugun endi qayoqqa ketish plani?

X: Farg'onaga ketishadi.

M1: Mana sho'tda yotmaysizlarmi, mana joy keng.

Z1: Yo'q, biz ertaga Qashqarga jo'nab ketamiz, O'shga. Ertaga gostinitsadan chiqishimiz kerak. Gostinitsada narsamiz qolgan.

M1: Endi men sizlarga bir adresni telefon nomerlarini beray.

Z1: Bering.

M1: Shulardan, agar borsanglar, telefon nomerini ololmayapmiz. Shularni topib telefon nomerni berib qo'yasizlar, yoki bo'lmasa, bizga tel qilib qo'yasizlar, shu telefon nomer ekan, deb.

Z1: Qashqardami, ular?

M1: U Qashqarda Mb bor. Ukamning oshnasi. Mb, ismi shundaqa.

Z1: Hozir, yozib qo'yay. Bularni kimlari bo'ladi?

X: Ukasini oshnasi bor ekan.

Z1: Oshnasi?

X: Oshna, do'sti, o'rtog'i bor ekan.

M2: Asli u yerdan chiqqan ekan-da?

Z1: Nechanchi yillari bo'ladi bu?

M1: Uni bilmayman, endi nechanchi yilligini.

Z1: Siz bobongizni ko'rmaganmisiz?

X: Necha yoshda vafot etgan? Necha yoshida nechanchi yil edi?

M1: Dadam o'sha tomonda oltmish uch yoshga kirib o'ldi. 1947 yili o'sha yoqda o'ldi. Uni endi men topdim-da, endi uni.

Z1: 1947 yili o'ldimi?

M1: Ha.

Z1: Oltmish uch mi?

M1: Ha. 1884 yil dadamiz. O'lishi, ammo 1947 yil edi.

Mana bu meni adresim, mana shu. Borsanglar, ana shular bizga adresini yozib yuborsin yoki sizlar telefon qilib qo'yinglar yoki ularga nomerni beringlar, bizga tel qilsin. Telefon nomerini ololmayapmiz, adresini ham boshqasini ham. Biz o'zimiz bu yil bormoqchimiz-ku, endi bilib bo'lmaydi.

Z1: Qanday borasizlar? Toshkentdan viza olib borasizmi?

M1: Ha. Toshkentdan viza olib. Ilgari Urumchidan viza kelgandi. Ilgari o'sha Urumchidan viza jo'natgan ular. Keyin biz borganmiz. Ularga xotinini akalari jo'natgan, Olmataga. Olmatadan biz ruxsat olib, biz bu yoqqa olib kelganmiz, ularni.

Z1: Atish, Ko'k bozor, Mc.

M1: Mc, keyin Md, dadasi, ana shuning ko'rdingizmi? Ana shu Ko'k bozor degan bozor bor ekan. Shuning o'zida ekan, uning uyi.

X: Ko'k bozor?

M1: Ha. Ko'kat sotadigan-da. O'sha ko'k bozorning o'zida shuni biz oldik. "Zelyoniy bozor"-da, endi, mayda chuyda narsa sotadigan joy ekan-da. Bordik, endi u yerga.

Z1: Shu Mc degani necha yoshdalar taxminan?

M1: Qirqdan oshgan-da, ellikka kirmagan. Buni onasi "uzhe" biz bilan tengqur bo'lgan. yetmish besh yoki saksonlar atrofida bor. Md degani-chi, u ham bor, o'lgani yo'q, u.

Z1: Sizning ukangizni akasi?

M1: U bilan ona bir, biz bilan ota bir. Mb o'sha ismi familiyasi shu ekan.

Z1: Bu kim?

M1: Bu ukamning oshnasi, birga o'qigan.

Z1: A bu ukangizni akalari?

M1: Ha, akalari.

Z1: Bu o'zlari?

M1: Ha, anavi Mc jiyan, u yoshi u.

Z1: Nima jiyanimi?

M1: Ha, jiyan. Tagida Md turibdi-ku, u akasi. U o'g'li, ana shu Mc o'zi, shu Mdning.

Z1: Bularni onalari Atishlik bo'lgandi-a?

M1: Ha, Atishlik bo'lgan. Ana shuning uyi bo'lgan ekan. Boy odam bo'lgan ekan-da. Erini ikki yil oldin Tunganlar otib ketgan ekan. Undan keyin dadamni olib kelib, nikoh qilib qo'yishgan, o'shani uyiga. Uni onasi ham 1983 yili o'libdi. Meni onam ham 1983 yili

o'lgan. Bir vaqtda o'libdi.

Oldinroq bilganimda men ham ketardim, sizlar bilan birga. O'ynab kelar edim, sizlar bilan birga. Hozir bizdan nimaga ketishyapti ekan. Pillakorlar "chempionati" bo'lar ekan, Pekinda. Ha, "chempionati", pillakorlar. Shu Andijon oblasti bo'yicha besh yoki o'nta kishi ketyapti ekan. Adresni berdik. Ular ham Qashqarga borib, undan keyin Urumchiga borib, Urumchidan keyin ketar ekan.

Z1: Dadangiz bu yerda nima ish qilganlar?

M1: Dehqon bo'lgan, sholi ekan, objuvozi bo'gan, tegirmoni bo'lgan, yeri bo'lgan, dehqon bo'lgan. Shuning uchun quloq qilgan, bularni.

Z1: Boy dehqon bo'lgan ekan-da-a?

M1: Ha, boy dehqon bo'lgan. Tegirmoni bo'lgan, objuvozi bo'lgan, otlari bo'lgan, mollari bo'lgan. Shuning uchun quloq qilgan. Yer bo'lgan, ko'proq.

Z1: U yerga borgandan keyin nima ish qilganlar?

M1: U bechora nima ish qilardi, u yerda. "ogorod" qilardi, xolos. Boshqa nima ish qilardi. Bu yerda "obshiy" hamma hukumat buzilib ketgan vaqt ekan-u.

Z1: Ha?

M1: Bu yerda bizni dadamni quloq qilib, Mirzacho'lga ko'chirmoqchi bo'lgan.

Z1: Mirza?

M1: Mirzacho'lga, nimaga Toshkentga.

X: Nima bor-ku, Sirdaryo viloyati, Guliston, o'sha tomonga.

M1: U yoqda nima, haligi hayot juda yomon bo'lgan ekan-da. Suv yo'q, issiq, daraxt yo'q, ekin yo'q. Keyin qaytib kelgandan keyin betdagilar aytibdiki "Yana ketasan, o'sha joyga" debdi. "A undan yana borgandan Qashqarga ketay", deb, Qashqarga ketib qolgan ekan.

X: Quloq qilishdan maqsad o'sha tomonlarni ham o'zlashtirishgami?

M1: Ha, Toshkentning oliy maktablarini eng amaldorlarini ko'plarini shu ko'chat ekishga borar edi. Chunki ular hammasi boy, ish bilarman bo'lganmi? Yerini o'zlashtirib boy bo'lib, bolalarini o'qitgan.

Me akam {MC}lik-ku. O'sha Mirzacho'lga ko'chib bordi-ku, o'sha joydan borib o'qigan, Mf bilan keldi, nimasida, institutda o'qituvchi bo'lgan ekan, unda. Bizda Mg o'qidi. Toshkentni bitirdi, u. O'sha tomonda bitta ko'chib borgan bilan tanish bo'lib qoldik-da, biz. Juda ko'p Toshkentning rahbarlari shu Mirzacho'lda bolalarini o'qitdi.

X: Mh ham-da.

M1: Mhlar Ukrainaga ketishgan. Bir qismini Ukraina, qayerga bo'lsa junatgan ekan-da, o'zi

ham. Bu atrofda Asakadan ko‘p ekan. Marhamatdan bor ekan. Bizdan bor ekan. Biznikilar ko‘pi qochib kelgan ekan. Bu Marhamat, bu Asakadan borganlar Katta Tojikiston degan mahallalari bor-da, o‘sha joyda yashab qolgan ekan-da.

M2: Biznikilar qochib kelib, Qashqarga qochib ketgan-a?

M1: Ha, ular haligi ish bilarmon dehqonlar emasmi? Sharoitini qilib, dehqonchiligini qilib, sekin-sekin boyib ketgan-da. Hammasining bog‘lari bor bo‘lgan.

Nima bilan 1979 yili bir malaka oshirishga borsam, Mi degan {MD}ni “nachal’nigi” bor ekan, birga o‘qidik. Shuni tanishlari o‘sha {ME}ning “shafyori” ekan. O‘sha Mirzacho‘lga borib, ham o‘qiydikan ham shu instutning mashinasini minar ekan. Endi hozir bir {ME}ni boshlig‘i ekan, ko‘rdingizmi? O‘sha yerda bir qarindoshi bor ekan. U o‘sha instutda o‘qituvchi ekan, u. U instutda ko‘p ekan, undaqa o‘qituvchilar.

Z1: Dadangiz-chi, o‘n sakkiz yoshar sizni akangiz bilan qochib ketgan-ku?

M1: Akam avvali o‘tib ketgan.

Z1: O‘tib ketganmi?

M1: Ana shu tomonga ketgan-da, birga. Qochib ketgandan keyin bular Qashqar, Kattayog‘da qarindoshlari bor ekan.

Z1: Qayerda?

M1: Kattayog‘da Kattayog‘ degan nimasi bor, Qashqarni mahallasi. Qarindoshlari bor, dadamning. U xurjunda tillami nima bo‘lsa, olib o‘tib ketgan-da. Undan keyin u yoqdan yomon shilar ekan, uni so‘rab-so‘ramay olgan.

Olgandan keyin “Men senlarni qarindosh”, deb “Uy olaman”, deb, kelsam, “Menikini yeysanmi”, deb. Shartta jahil ustida qaytib, Qashqarga kelgan. U o‘ttiz kilometr bor ekan, Qashqardan.

U vaqtida samovar bo‘lgan-da. Shu xurjunga solgan hammasini nimaga bergan, samovarga.

O‘g‘li bilan bir ikki kun yotgandan keyin, Atishdan dadamni qo‘liga kelib ishlaydigan ishchilar bo‘lgan ekan. Shular kuzda ketar ekan. Shu yerda ishlab ketuvdi. “Shularga bir boray-chi”, deb, bozorga borib o‘tirsam, ular tanib qolibdi. Dadamni undan keyin besh yoki olti kun mehmon qilishibdi. Besh yoki o‘n kun turib qolgandan keyin dadam qaytib kelibdi.

Qaytib kelsa, shuni ichida bu yoqdan borganlar bilan shu joydagilar qo‘shilib “Qashqarni Xitoydan bo‘lib olamiz”, deb, “Urushamiz”, debdi-da, Xitoy bilan. Shu payti Xitoy bularni aldab, shunday o‘rab hammasini soyga olib chiqib, otgan ekan. O‘sha akamni ham otib yuborgan, o‘shalar qatori.

Shundan keyin “Haligi xurjunni olib ber”, desa, “Bolang olib ketgan” debdi.

Dadamda hech narsa yo‘q, keyin birovga uylanib qolgan-da. Keyin haligi o‘g‘li o‘lgan. Keyin o‘g‘il ko‘rgandan keyin shu o‘lgan o‘g‘lini nomiga qo‘yib olgan. “Shu o‘g‘limni to‘lab oldim” deb. Uni oti ham Mj bo‘lgan, hozirgi ham Ma.

Z1: Men yaxshi tushunmadim. Akangiz vafot etganlari, bu nechanchi yillarda edi?

M1: U o‘sha 1933 yili borgan bo‘lgan.

Z1: Borganda?

M1: Borgandan keyin bular ko‘plar “Qashqarni Xitoydan ajratib olamiz”, degan-da. “O‘zimiz “samostoyatel’no” qilamiz”, degan-da. Keyin u Xitoy ko‘pchilik emasmi. Bularni aldabmi, uribmi, nima qilib bo‘lsa ham o‘rab olib, hammasini arqonda boylab soyga olib chiqib otib yuborgan.

Ee, sizlar o‘zi yapon bo‘lsanglar, nega endi bu uyg‘urlarga qiziqib qoldinglar?

Z1: Ilmiy qiziqish nimagadir bo‘ladi-da. Tarixiy kitoblarni o‘qiganda.

M1: Choy qildik. Ovqat ham qilaylik.

Z1: Yo‘q, rahmat.

M1: Bir kun yotib qolmadinglar-da, rosa gaplashardik.

Z1: Yo‘l qorong‘u tushib qoladi-da.

M1: Bo‘libdi, omin. Xudo sizlarga kuch-quvvat bersin. Ishlaringga rivoj bersin. Hamma vaqt yuzlaringni issiq qilib, ishlaring ilgaridan kelaversin. Ollohu akbar.

M3: Bo‘ldimi? Voy, issiqqina oshni damlayotgandim.

フェルガナ盆地のウイグル人と越境の記憶

2010 年 3 月 20 日発行

編著者 新免康・河原弥生

整理・編集・解説 新免康・河原弥生

日本語訳作成 今堀恵美・河原弥生

発行者 東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター

NIHU プログラム イスラーム地域研究 東京大学拠点

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学文学部アネックス

Tel.: 03-5841-2687 Fax.: 03-5841-2686

E-mail: tokyoias@l.u-tokyo.ac.jp
